

2026シラバス一覧（社会福祉学科専門教育科目）

社会福祉学科 専門教育科目			
シラバスNo.	科目名	シラバスNo.	科目名
260030010	社会福祉原論Ⅰ	260030430	基本介護技術
260030020	社会福祉原論Ⅱ	260030440	医療福祉論
260030030	社会福祉史論	260030450	ソーシャルワーク論Ⅳ
260030040	社会保障論Ⅰ	260030460	ソーシャルワーク論Ⅵ
260030050	社会保障論Ⅱ	260030470	ソーシャルワーク演習Ⅱ
260030060	社会福祉経営論	260030480	ソーシャルワーク演習Ⅲ
260030070	ソーシャルワーク論Ⅰ	260030490	ソーシャルワーク演習Ⅳ
260030080	ソーシャルワーク論Ⅱ	260030500	ソーシャルワーク演習Ⅴ
260030090	介護福祉論	260030510	精神保健福祉の原理Ⅰ
260030100	介護概論	260030520	精神保健福祉の原理Ⅱ
260030110	保健医療福祉連携論	260030530	ソーシャルワーク論Ⅶ
260030120	社会学概論	260030540	ソーシャルワーク論Ⅷ
260030130	家族社会学	260030550	精神保健の課題と支援Ⅰ
260030140	公衆衛生学	260030560	精神保健の課題と支援Ⅱ
260030150	臨床心理学	260030570	ソーシャルワーク演習Ⅵ
260030160	栄養学	260030580	ソーシャルワーク演習Ⅶ
260030170	感染微生物学	260030590	ソーシャルワーク演習Ⅷ
260030180	生涯発達論	260030600	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ
260030190	法学（国際法を含む）	260030610	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ
260030200	人権と法	260030620	ソーシャルワーク実習Ⅰ
260030210	連携協働の基礎	260030630	ソーシャルワーク実習Ⅱ
260030220	連携協働演習Ⅰ	260030640	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ
260030230	連携協働演習Ⅱ	260030650	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ
260030240	地域福祉論Ⅰ	260030660	ソーシャルワーク実習Ⅲ
260030250	地域福祉論Ⅱ	260030670	介護現場実習
260030260	障害者福祉論Ⅰ	260030680	福祉環境論
260030270	障害者福祉論Ⅱ	260030690	ソーシャルインクルージョン論
260030280	権利擁護と成年後見	260030700	重複障害・発達障害教育総論
260030290	更生保護	260030710	重複障害・発達障害教育特論
260030300	医学概論	260030720	子どもの権利
260030310	ソーシャルワーク論Ⅲ	260030730	社会福祉教育論
260030320	ソーシャルワーク論Ⅴ	260030740	社会福祉特論
260030330	高齢者福祉論Ⅰ	260030750	生涯学習論
260030340	高齢者福祉論Ⅱ	260030760	障害児教育学
260030350	子ども家庭福祉論Ⅰ	260030770	障害児教育方法論
260030360	子ども家庭福祉論Ⅱ	260030780	点字
260030370	公的扶助論	260030790	実践手話
260030380	精神医学と精神医療	260030800	経済学概論
260030390	精神障害リハビリテーション	260030810	現代経済論（国際経済を含む。）
260030400	精神保健福祉制度論	260030820	国際関係論（国際政治を含む。）
260030410	ソーシャルワーク演習Ⅰ	260030830	総合演習
260030420	社会福祉調査	260030840	卒業研究

科 目 名	社会福祉原論 I				
科 目 名 (英 語)	Social Welfare Principles I		シラバスNo.	260030010	
担 当 教 員 名	江連 崇				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職 (高福)・社福士・精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 ○ DP3 : ○ DP4 : _____ DP5 : _____				
学 修 到 達 目 標	① 社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解できる。 ② 社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解できる。 ③ 社会福祉と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について理解できる。 ④ 福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解できる。				
受 講 の 留 意 点	教科書と講義資料を中心に授業を進める。教科書に記載のない事項も積極的に取り扱う。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	本講義では、社会福祉の基本事項の理解と暗記に努め、授業終了後には①社会福祉原理、②社会福祉の歴史、③社会福祉の思想・哲学・理論、④社会問題の構造、⑤福祉政策の5点についての把握を目指す。 アクティブ・ラーニングの内容 授業内で個人ワークやグループワークの演習を設け、質疑応答の時間を確保する。授業終了時にリアクションペーパーの提出を求め、次回の授業時に解説を行い、双方向の授業を推進する。				
授 業 の 計 画	1 社会福祉の原理を学ぶ視点 2 社会福祉学の対象と方法 3 社会福祉の歴史を学ぶ方法① 時期区分・政策史・思想史 4 社会福祉の歴史を学ぶ方法② 民衆史・生活史 5 日本の社会福祉の歴史的展開 6 欧米の社会福祉の歴史的展開 7 社会福祉の思想・哲学① 近代主義とポストモダン 8 社会福祉の思想・哲学② 社会正義・平和主義 9 社会福祉の理論① 戦前日本の社会福祉理論 10 社会福祉の理論② 戦後日本の社会福祉理論 11 現代日本と社会福祉の論点 12 社会福祉の対象とニーズ 13 現代における社会問題 14 社会問題の構造的背景 15 まとめ				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 授業計画の項目に沿った社会福祉に関する資料を読み込んでおくこと。 授業内容やその日の学びを振り返りノートにまとめること。 講義の疑問点、感じたこと等をリアクションペーパーにて提出すること。				
成 績 評 価 方 法	各回のリアクションペーパー (30 点)、学期末テスト (70 点) によって、総合的に評価する。				

教科書 (購入必須)	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座／精神保健福祉士養成講座④ 社会福祉の原理と政策』(中央法規)
参考書 (購入任意)	特になし

科 目 名	社会福祉原論Ⅱ			
科 目 名 (英 語)	Social Welfare Principles II	シラバスNo.	260030020	
担 当 教 員 名	小泉 隆文			
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件 教職(高福)・社福士・精保士・必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	社会福祉士としての障害福祉サービス事業所における実務経験をふまえ、理論と実践を結びつける講義である。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <u>○</u> DP2 : <u>◎</u> DP3 : <u>○</u> DP4 : <u> </u> DP5 : <u> </u>			
学 修 到 達 目 標	①福祉政策をとらえる基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解できる。 ②社会福祉政策の動向と課題を踏まえたうえで、関連施策や包括的支援について理解する。 ③福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。 ④福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解する。			
受 講 の 留 意 点	・教科書を予習の段階で読み込み、復習の段階で授業内で扱った基本項目の確認に努めること。 ・教科書に沿って進めていくので、毎回教科書を持参すること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	テキストに沿って基本事項の理解に努め、後期の終わりには以下の項目の把握を目指す。 ①福祉政策におけるニーズと資源、②福祉政策の構成要素と過程、③福祉政策の動向と課題、④福祉政策と関連施策、⑤福祉サービスの供給と利用過程、⑥福祉政策の国際比較 アクティブ・ラーニングの内容 学んだことを確認して次へつなげるために、小テストを実施する。			
授 業 の 計 画	1 福祉政策におけるニーズ：種類と内容、把握方法 2 福祉政策における資源：種類と内容、把握方法、開発方法 3 福祉政策の構成要素①：構成要素とその役割・機能、政府・市場・事業者・国民 4 福祉政策の構成要素②：措置制度、多元化する福祉サービスの提供方法 5 福祉政策の過程①：政策の決定・実施・評価、福祉政策の方法・手段 6 福祉政策の過程②：福祉政策の政策評価・行政評価、福祉政策と福祉計画 7 福祉政策と包括的支援①：社会福祉法、地域包括ケアシステム、地域共生社会 8 福祉政策と包括的支援②：多文化共生、持続可能性 9 福祉政策と関連施策①：保健医療政策、教育政策、住宅政策 10 福祉政策と関連施策②：労働政策、経済政策 11 福祉サービスの供給と利用過程①：福祉供給部門 12 福祉サービスの供給と利用過程②：福祉供給過程 13 福祉サービスの供給と利用過程③：福祉利用過程 14 福祉政策の国際比較 15 まとめ			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 授業の該当箇所の教科書を読み、わからない言葉などを調べておく。 授業で取り扱った箇所の教科書を読みつつ、講義資料などを用いて講義内容を整理する。			
成 績 評 価 方 法	学期末試験 80%、小テスト・リアクションペーパー 20%			
教 科 書 (購 入 必 須)	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 4 社会福祉の原理と政策 第 2 版』(中央法規)			
参 考 書 (購 入 任 意)				

科 目 名	社会福祉史論			
科 目 名 (英 語)	History of Social Policy and Social Work	シラバスNo.	260030030	
担 当 教 員 名	江連 崇			
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	行政史編纂業務（社会福祉関係史）に5年従事した。その経験を活かし、社会福祉史関連の知識等について講義を行う。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ___ DP3 : ___ DP4 : ○ DP5 : ___			
学 修 到 達 目 標	現代の社会福祉制度や援助技術などを学ぶためには、その成立過程や当時の社会背景を理解する必要がある。また福祉に限らず「歴史を学ぶ」ということは、単に西暦や人物の物語を暗記するものではなく、現在から歴史を解釈するものである。そのため本講義では近代以降の社会福祉を中心に学び、現代の社会福祉の状況とどのような連続/非連続の関係にあるのか、またその背景を理解することを目的とする。			
受 講 の 留 意 点	① 日本近現代史総論についての本を読み理解を深める。 ② 貧困、高齢、障害、児童分野のテキストから歴史に関する箇所を復習する。 ③ 自身の関心のある地域（道内）の『市町村史』の福祉に関する箇所を読む。 以上の3点を事前に行なっておくこと。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	社会福祉における「生活」の視点に着目しながら歴史を学んでいく。その際、歴史的視点を持ちながら福祉を学ぶことの意義を意識しながら学びを深めていく。講義は日本の近代から現代までを中心とするが、必要に応じて諸外国についても取り上げていく。社会福祉の歴史を通じて複眼的な視点からその成り立ちと展開を理解できるように講義を進めていく。			
	アクティブ・ラーニングの内容 授業内で個人ワークやグループワークの演習を設け、質疑応答の時間を確保する。授業終了時にリアクションペーパーの提出を求め、次回の授業時に解説を行い、双方向の授業を推進する。			
授 業 の 計 画	1 社会福祉史を学ぶにあたって（オリエンテーション） 2 古代社会の救済制度 3 中世・近世社会の救済制度 4 「近代」とは何か 5 近代国家の形成と慈善事業①（慈善事業家の活動） 6 近代国家の形成と慈善事業②（下層社会の形成と社会改良思想） 7 大正デモクラシーと社会事業 8 世界恐慌と救護法 9 戦時下の暮らしと厚生事業 10 戦後直後の生活と福祉六法の成立 11 1960年代という時代と社会運動 12 地域社会の変化と社会福祉（農村） 13 地域社会の変化と社会福祉（都市） 14 北海道の社会福祉史 15 まとめ			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 授業計画の項目に沿った社会福祉に関する資料を読み込んでおくこと。 授業内容やその日の学びを振り返りノートにまとめること。 講義の疑問点、感じたこと等をリアクションペーパーにて提出すること。			

成績評価方法	各回のリアクションペーパー（40点）、学期末レポート（60点）によって、総合的に評価する。
教科書 （購入必須）	特になし（各講義において教員が資料等を用意する）
参考書 （購入任意）	参考書については別途指示をする。

科 目 名	社会保障論 I			
科 目 名 (英 語)	Social Security I	シラバスNo.	260030040	
担 当 教 員 名	永嶋 信二郎			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件 教職(高福)・社福士・精保士:必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <u>○</u> DP2 : <u>◎</u> DP3 : <u>○</u> DP4 : <u> </u> DP5 : <u> </u> DP6 : <u> </u> DP7 : <u> </u>			
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会保障制度の課題について理解する。 2. 社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の歴史も含めて理解する。 3. 社会保障制度の財政について理解する。 4. 社会保険・社会扶助・民間保険の関係について理解する。 5. 社会保障制度の体系と概要について理解する。 			
受 講 の 留 意 点	<p>授業は教科書に基づいて行うとともに、それを基にしたパワーポイントと配布資料も用いて行う。</p> <p>また、社会保障は、国民の関心が高い分野であることから、様々なメディアでもよく取り上げられている。よって、日頃から社会保障に関心を持ち、様々なメディアを通して、社会保障の情報に触れておくと授業の内容も理解しやすくなると思われる。ただメディアの情報を鵜呑みにせず、自分で考えて理解するようにしてほしい。</p>			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>社会保障は人々の生活において直面する社会的リスクに対応することによって人々の社会生活を保障する政策であり、セーフティ・ネットの役割を果たしている制度である。そこで、本講義では、社会保障の仕組みと歴史的展開を明らかにすることによって、社会保障が社会に対して果たしている役割を学ぶ。</p> <p>そのために、社会保障論 I では、現代社会における社会保障制度の課題、社会保障の理論と歴史、社会保障の財政、社会保険・社会扶助・民間保険、そして医療保険について学ぶ。</p>			
	<p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <p>宿題の一つとして、教員から出された課題に対して能動的に学習した成果を提出してもらうこととする。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における社会保障制度の課題 (1) 人口減少と少子高齢化 2 現代社会における社会保障制度の課題 (2) 経済環境の変化 3 現代社会における社会保障制度の課題 (3) 労働環境の変化 4 社会保障の概念 5 社会保障の対象と理念 6 社会保障制度の歴史 (1) 世界における社会保障制度の歴史 7 社会保障制度の歴史 (2) 日本における社会保障制度の歴史 8 社会保障の財政 (1) 社会保障の費用と財源 9 社会保障の財政 (2) 社会保障と経済 10 保険と扶助 11 社会保険・社会扶助・民間保険 12 医療保険制度 (1) 医療保険の仕組み 13 医療保険制度 (2) 保険給付 14 医療保険制度 (3) 医療保険の財源と財政 15 医療保険制度 (4) 日本における医療保険の特徴と公費負担医療 			

<p>授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容</p>	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：翌週の授業内容に該当する教科書の箇所を熟読する 復習：宿題として配布するプリントに取り組むとともに、授業当日で取り扱った授業内容が記された教科書の該当箇所と配布資料を熟読する</p>
<p>成 績 評 価 方 法</p>	<p>宿題として配布するプリント（30%）と期末試験（70%）で評価する。</p>
<p>教 科 書 (購 入 必 須)</p>	<p>一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2025）『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 7 社会保障（第 2 版）』中央法規出版</p>
<p>参 考 書 (購 入 任 意)</p>	<p>棕野美智子・田中耕太郎編著『はじめての社会保障（最新版）』有斐閣</p>

科 目 名	社会保障論Ⅱ				
科 目 名 (英 語)	Social Security Ⅱ	シラバスNo.	260030050		
担 当 教 員 名	永嶋 信二郎				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職(高福)・社福士・精保士:必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ○ DP2 : ◎ DP3 : ○ DP4 : ___ DP5 : ___ DP6 : ___ DP7 : ___				
学 修 到 達 目 標	1. 社会保障制度の体系と概要について理解する。 2. 諸外国における社会保障制度について理解する。				
受 講 の 留 意 点	<p>授業は教科書に基づいて行うとともに、それを基にしたパワーポイントと配布資料も用いて行う。</p> <p>また、社会保障は、国民の関心が高い分野であることから、様々なメディアでもよく取り上げられている。よって、日頃から社会保障に関心を持ち、様々なメディアを通して、社会保障の情報に触れておくと授業の内容も理解しやすくなると思われる。ただメディアの情報を鵜呑みにせず、自分で考えて理解するようにしてほしい。</p>				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>社会保障は人々の生活において直面する社会的リスクに対応することによって人々の社会生活を保障する政策であり、セーフティ・ネットの役割を果たしている制度である。そこで、本講義では、社会保障の仕組みと歴史的展開を明らかにすることによって、社会保障が社会に対して果たしている役割を学ぶ。</p> <p>そのために、社会保障論Ⅱでは、介護保険、年金保険、労災保険、雇用保険、生活保護、社会手当、社会福祉、そして諸外国における社会保障制度について学ぶ。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 宿題の一つとして、教員から出された課題に対して能動的に学習した成果を提出してもらうこととする。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 介護保険制度 (1) 介護保険の歴史・保険者・被保険者 2 介護保険制度 (2) 介護保険の利用手続きと保険給付 3 介護保険制度 (3) 地域支援事業・地域包括支援センター・運営 4 年金保険制度 (1) 年金制度の概要・歴史 5 年金保険制度 (2) 年金の加入・負担 6 年金保険制度 (3) 年金の給付 7 年金保険制度 (4) 年金財政と企業年金・個人年金 8 年金保険制度 (5) 年金における最近の改正と課題 9 労災保険制度 10 雇用保険制度 11 生活保護制度と社会手当制度 12 社会福祉制度 13 諸外国における社会保障制度 (1) ヨーロッパにおける社会保障制度の概要 14 諸外国における社会保障制度 (2) アメリカとアジアにおける社会保障制度の概要 15 諸外国における社会保障制度 (3) 社会保障制度の国際比較と社会保障の国際化 				
授 業 時 間 外 学 修	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間				

<p>(予習・復習)の内容</p>	<p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：翌週の授業内容に該当する教科書の箇所を熟読する 復習：宿題として配布するプリントに取り組むとともに、授業当日で取り扱った授業内容が記された教科書の該当箇所と配布資料を熟読する</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>題として配布するプリント(30%)と期末試験(70%)で評価する。</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編(2025)『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 7 社会保障(第2版)』中央法規出版 永嶋信二郎『社会保障のポイント(仮)』ビジネス実用社</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>棕野美智子・田中耕太郎編著『はじめての社会保障(最新版)』有斐閣</p>

科 目 名	社会福祉経営論				
科 目 名 (英 語)	Social welfare management theory	シラバスNo.	260030060		
担 当 教 員 名	石田 力				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	社福士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	実務経験あり。社会福祉法人において障害者支援及び共同生活援助事業（グループホーム）、相談支援事業に管理者として携わった経験をもとに、ソーシャルワーカーに求められる社会福祉経営の在り方について、実務経験に基づき実践的な授業を行う。				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：○ DP3：◎ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	①社会福祉法人、NPO法人、医療法人について理解し説明できる ②非営利ホールディングカンパニー、多機関協働、地域連携について理解し説明できる ③モチベーションに関する理論とグループダイナミクスについて説明できる ④リーダーシップの変遷と理論について理解し説明できる ⑤コンプライアンスとガバナンスの関係について理解し説明できる ⑥サービスのマネジメント及びSDCAモデル及びSECIモデルを理解し説明できる ⑦虐待の発生原因を組織構造として捉えたリスクマネジメントについて理解し説明できる ⑧各種休暇・休業およびメンタルヘルスケアについて理解し説明できる ⑨被災後における事業継続計画（BCP）について理解し活用できる ⑩職員教育におけるキャリアパス、スーパービジョン、OJT、OFF-JTについて説明できる				
受 講 の 留 意 点					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>社会福祉サービスにおいて、当事者のニーズを支援する社会福祉援助技術は、安定的かつ継続性が担保された組織がそのサービスの質を支えている。しかし、人材不足が叫ばれる社会情勢において、福祉サービスの質を継続的に維持するためには、効率的で効果的な社会福祉経営が求められている。そのためには、働きやすい職場環境は勿論、自己実現に向けたキャリアパス、コンプライアンスを維持するための理論と組織的構造、さらには職員の動機づけと現場の状況に適したリーダーシップの存在が欠かせない。さらには、気候変動に伴う、災害における事業継続計画（BCP）の重要性について理解する。また、後を絶たない施設内虐待について、その構造的な原因と防止策について様々な社会実験を概観しながら構造的に理解していく。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 リスクマネジメントにおけるインシデント・アクシデントの分析について、発見学習を目的としディスカッションを通して、分析手法による多角的な問題の発見と多様な問題解決策を学び、より能動的及び実践的な学修を行う。講義後にリアクションペーパーを提出して頂きます。</p>				
授 業 の 計 画	1 福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割-1 福祉サービスを提供する組織 2 福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割-2 福祉サービスの沿革と概況 3 福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割-3 組織間連携と促進 4 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論-1 組織運営に関する基礎理論 5 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論-2 集団の力学に関する基礎理論 6 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論-3 リーダーシップに関する基礎理論 7 福祉サービス提供組織の経営と実際-1 経営体制 8 福祉サービス提供組織の経営と実際-2 福祉サービス提供組織のコンプライアンスとガバナンス 施設内虐待 9 福祉サービス提供組織の経営と実際-3 適切な福祉サービスの経営管理 10 福祉サービス提供組織の経営と実際-4 情報管理 11 福祉サービス提供組織の経営と実際-5 会計管理と財務管理 12 福祉人材のマネジメント-1 福祉人材マネジメント 13 福祉人材のマネジメント-2 福祉人材の育成				

	14 福祉人材のマネジメント-3 働きやすい労働環境の整備 15 まとめ
	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間
授業時間外学修 （予習・復習）の内容	<p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <p>1 回あたり予習 2 時間、復習 2 時間を目安とする</p> <p>【予習】 次回講義に該当する教科書（『福祉サービスの組織と経営』）の章を事前に通読し、専門用語（BCP、コンプライアンス、SECI モデル等）の意味を調べておくこと。第 8 回「施設内虐待」や第 14 回「労働環境」など、特定のテーマについては、事前に関連するニュースや厚生労働省の最新資料を確認し、自身の考えをまとめておくこと。</p> <p>【復習】 講義で配布した資料とノートを見直し、重要語句について他者に説明できるレベルまで理解を深めること。 毎回の講義後に課すリアクションペーパーの作成にあたり、講義内容を振り返り、自分の考えを論理的に整理すること。</p>
成績評価方法	試験 70% リアクションペーパー 30%
教科書 （購入必須）	中央法規出版 2021 年 初版 最新 社会福祉士養成講座「1 福祉サービスの組織と経営」
参考書 （購入任意）	

科 目 名	ソーシャルワーク論 I				
科 目 名 (英 語)	Social work theory I	シラバスNo.	260030070		
担 当 教 員 名	堀 智久				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	社福士・精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：○ DP3：○ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解できる。 2. ソーシャルワークの概念及び基盤となる考え方について理解できる。 3. ソーシャルワークの形成過程について理解できる。 4. ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解できる。 				
受 講 の 留 意 点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 指定テキストに沿った授業を原則とし、適時関係資料等を提示する。 2. 毎回指定テキスト等の予習範囲を提示するので、事前学習に努めること。 3. 遅刻・私語等の行為は減点対象とする場合があるため十分留意のこと。 4. 積極的な授業参加を期待したい。 				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>ソーシャルワークに関連する制度や専門用語等の法的な位置づけや定義、歴史的変遷とその背景、専門職倫理等について、ソーシャルワークを学ぶうえでの入門編的な科目との位置づけにおいて授業を展開する。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 毎回の予習課題に取り組むことで、これまでの学習で既に知っていたこと、知らなかったこと等について自己認識をしていただきます。そのうえで自分ならどう考えるか、そう考える根拠は何か等について考察し、授業での講義内容及び教員とのディスカッション、学生間でのディスカッションを通して更なる学問探究をしていただくことにします。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業オリエンテーション 社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけとその専門性①(導入) 2 社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけとその専門性②(ソーシャルワーク専門職としての社会福祉士及び精神保健福祉士) 3 社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性とその実際 4 ソーシャルワークの基盤となる考え方①(概念) 5 ソーシャルワークの基盤となる考え方②(構成要素) 6 ソーシャルワークの基盤となる考え方③(価値) 7 ソーシャルワークの基盤となる考え方④(原理) 8 ソーシャルワークの基盤となる考え方⑤(理念 当事者主権等) 9 ソーシャルワークの基盤となる考え方⑥(理念 自己決定等) 10 ソーシャルワークの形成過程の理解①(源流～発展期) 11 ソーシャルワークの形成過程の理解②(発展期～統合化) 12 ソーシャルワークの形成過程の理解③(我が国の状況) 13 ソーシャルワークの価値規範と倫理の理解①(専門職倫理の必要性、倫理綱領の意義、限界) 14 ソーシャルワークの価値規範と倫理の理解①(事例から考える倫理綱領の活用、ジレンマ) 15 まとめ 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習 90 分：授業内容の理解を高めるため、指定されたテキストの事前学習を行う。 復習 90 分：授業内容の理解を高めるため、配布資料の事後学習を行う。</p>				

成績評価方法	リアクションペーパー・宿題（40点）、レポート課題（30点）、期末試験（30点）
教科書 （購入必須）	最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの基盤と専門職 共通・社会専門 中央法規出版 毎回持参すること
参考書 （購入任意）	適時提示する

科 目 名	ソーシャルワーク論Ⅱ				
科 目 名 (英 語)	Social Work Ⅱ		シラバスNo.	260030080	
担 当 教 員 名	榊原 次郎				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	社福士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保健医療分野の社会福祉士・ケアマネジャーとして、病院 22 年、診療所 4 年の実務経験がある。その経験を通して、ソーシャルワーカーの援助技術および地域を基盤とする多職種・多機関の連携・協働について授業を行う。				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：◎ DP3：○ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	<p>①社会福祉士の職域と求められる役割について理解できる。</p> <p>②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解できる。</p> <p>③ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と関連性について理解できる。</p> <p>④総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解できる。</p> <p>1 ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質を理解できる。</p> <p>2 ソーシャルワークの概念と相談援助の担い手であるソーシャルワーカーの範囲を理解できる。</p> <p>3 総合的かつ包括的な相談援助における専門機能について実践例を基に理解できる。</p>				
受 講 の 留 意 点	ソーシャルワーク論Ⅰで学んだことを十分に理解していることを前提に展開するので、今までソーシャルワーク論Ⅰで学んだことを復習しておくこと。 テキスト・講義資料を中心に授業を進め、ソーシャルワークの実践場面に基づいた演習も行うため、予習復習に努めること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	シラバスに沿って基本事項の理解に努め、学期末には以下の項目の把握を目指す。 ①ソーシャルワークにかかる専門職の概念と範囲、②ミクロ・メゾ・マクロの各レベルにおけるソーシャルワーク、③総合的かつ包括的な支援と多職種連携の内容				
	<p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <p>授業ごとに個人ワークおよびグループワークの演習を設け、質疑応答の時間を確保する。毎回授業終了時にリアクションペーパーの提出を求め、次回の授業時に解説を行い、双方向の授業を推進する。</p>				
授 業 の 計 画	<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 ソーシャルワーク専門職の概念と範囲</p> <p>3 社会福祉士の職域①－（子ども・高齢・障害・生活困窮者・学校・司法・その他）①</p> <p>4 社会福祉士の職域②－（子ども・高齢・障害・生活困窮者・学校・司法・その他）②</p> <p>5 社会福祉士の職域③－（保健医療、学校教育、司法関係・独立型事務所等）</p> <p>6 福祉行政等における専門職</p> <p>7 民間の社会福祉施設・組織における専門職①</p> <p>8 民間の社会福祉施設・組織における専門職②</p> <p>9 諸外国の動向</p> <p>10 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象</p> <p>11 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開</p> <p>12 ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容①</p> <p>13 ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容②</p> <p>14 ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容</p> <p>15 まとめ</p>				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間				
	<p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <p>授業計画の項目に沿った医療福祉に関する資料を読み込んでおくこと。</p> <p>授業内容やその日の学びを振り返りノートにまとめること。</p> <p>講義の疑問点、感じたこと等をリアクションペーパーにて提出すること。</p>				

<p>成績評価方法</p>	<p>各回のリアクションペーパー（30点）、定期試験（70点）によって、総合的に評価する 評価基準は以下の通りとします。 秀：ソーシャルワーク専門職・社会福祉士概念や職域、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソ ーシャルワーク等の必要性・課題を含めて深く説明できる。 優：ソーシャルワーク専門職・社会福祉士概念や職域、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソ ーシャルワーク等について正確に説明できる。 良：ソーシャルワーク専門職・社会福祉士概念や職域、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソ ーシャルワーク等について基本的な仕組みを理解している。 可：ソーシャルワーク専門職・社会福祉士概念や職域、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソ ーシャルワーク等について用語レベルの理解に留まる。 不可：理解が不十分で説明できない。</p>
<p>教科書 （購入必須）</p>	<p>『最新 社会福祉士養成講座 11、ソーシャルワークの基盤と専門職』日本ソーシャルワーク教育学 校連盟編集(中央法規) 2022年</p>
<p>参考書 （購入任意）</p>	<p>参考書については別途指示する。</p>

科 目 名	介護福祉論			シラバスNo.	260030090
科 目 名 (英 語)				シラバスNo.	260030090
担 当 教 員 名	川田 哲也				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職(高福)：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：○ DP3：◎ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	1. 介護福祉の概念について理解する。 2. 介護福祉の今日的状況について理解し、介護を取り巻く課題を検討できる視座を獲得する。 3. 介護過程の展開を理解し、利用者の状況にあった支援環境を考察できるようになる。				
受 講 の 留 意 点	毎回、講義と演習を使用して展開していく。演習では各自の積極的な取り組みが必要となる。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	今日の介護福祉の位置づけを把握し、海外と日本における介護福祉の沿革と課題について理解する。そのうえで、在宅介護・施設介護の意義と沿革を学び、人権尊重を基盤とした介護に関する基礎的な知識を習得する。				
	アクティブ・ラーニングの内容				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、社会福祉士が知らなければならない介護福祉の概念を理解する 2 介護の基本的な考え方 理論と法的根拠に基づく介護 3 介護サービスの理解 4 介護職という労働環境を理解する 5 介護の基礎知識とアセスメントの関係性1 6 介護の基礎知識とアセスメントの関係性2 7 基本的な介護過程の展開を理解する 8 高齢者のこころとからだのしくみを理解する 9 認知症による生活への影響と介護者支援についての理解する 10 高齢者の人権と関連する問題について理解する①(高齢者虐待・成年後見制度) 11 高齢者の人権と関連する問題について理解する②(介護殺人、認知症による事件など) 12 障がい者サービス内容とこれからの課題について理解する 13 事例検討アセスメントをしてみよう1 14 事例検討アセスメントをしてみよう2 15 まとめレポート 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間				
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予習 (90 分)、復習 (90 分)				
成 績 評 価 方 法	(自己評価 30 点満点) + (レポート 70 点満点) = 100 点				
教 科 書 (購 入 必 須)	スライドにて説明				
参 考 書 (購 入 任 意)	<ol style="list-style-type: none"> ① 介護職員初任者研修課程テキスト1「介護・福祉サービスの理解」(購入任意) ② 介護職員初任者研修課程テキスト3「こころとからだのしくみと生活援助技術」(購入任意) 				

科 目 名	介護概論			
科 目 名 (英 語)		シラバスNo.	260030100	
担 当 教 員 名	綱島 弘泰			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ○ DP3 : ___ DP4 : ___ DP5 : ___			
学 修 到 達 目 標	1. 介護の現場や対象について具体的にイメージし専門職の役割について述べることができる。 2. 介護に対しての基礎理論、介護技術の概要を学び理解することができる。			
受 講 の 留 意 点	積極的に意見、質問を述べることを求めます。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	介護の現場や対象の理解を深め、QOL を高めるための生活支援の方法を理解し、介護を展開するための基礎知識、生活支援技術を養う。			
	アクティブ・ラーニングの内容 グループワークを行う場合もある。			
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 高齢者支援の方法と実際 3 高齢者を支援する専門職の役割と実際 4 介護の概念と範囲、介護の理念 5 介護の対象、介護予防の概念 6 介護過程の概要 7 介護過程の展開方法 8 自立に向けた介護、家事における自立支援 9 生活支援技術（身じたく、移動、睡眠の介護） 10 生活支援技術（食事、口腔衛生の介護、入浴・清潔・排泄の介護） 11 認知症の理解 12 認知症の諸症状とその家族への支援の実際 13 認知症ケアの実際 14 終末期ケア 15 高齢者の住環境			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 授業計画の内容に対し文献を活用して下調べをする。 (60 分) 配付資料を見直し重要語句を再確認しノートに転記する。 (60 分)			
成 績 評 価 方 法	定期試験にて行います。(試験 80 点、課題 20 点)			
教 科 書 (購 入 必 須)	講義ごとに配布します。			
参 考 書 (購 入 任 意)				

科 目 名	保健医療福祉連携論			
科 目 名 (英 語)	Cooperation Theory in Health and Medical Welfare	シラバスNo.	260030110	
担 当 教 員 名	今野 聖士			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ____ DP2 : ○ DP3 : ____ DP4 : ◎ DP5 : ○			
学 修 到 達 目 標	<p>保健・医療・福祉等、複数領域の専門職がそれぞれの技術と役割にもとづきながら共通の目標を目指す連携・協働を Inter-professional Work (IPW・専門職連携) という。同時に複数の専門職が“その場にいる”事を示す“multi-professional”とは異なり、相互の関係性を重視し、専門職間の高いレベルの協働関係を意味しており、IPW を実現するためには専門職としての成熟した人間関係 (Matured Inter-professional Relationships) が基盤となるとされる。</p> <p>IPW を実現するための方法を学ぶ方法として、Inter-professional Education (IPE・専門職連携教育) がある。IPE では「複数の専門職間の相互作用」および「共通目標を共有する」ことが重要である。IPE では、2 つ以上の専門職が互いの職種とともに (with)、互いの職種から (from)、互いの職種について (about)、協働と生活の質の向上を目的に学ぶことにより、効率的な関係を築くことが可能となると定義されている (CAIPE : 2001)。</p> <p>専門職連携の実践者として今後携わっていく上で必要な実践例 (参考となる事例) について触れることで、自身の職における立ち位置や役割を把握するとともに、地域課題や対象者のニーズに触れながら、連携実践に対する具体的なイメージを高めることを目標とする。とりわけ地域社会を対象とした幅広い連携のあり方について学ぶ。また、自身立ち位置や役割 (= 専門職間 (学科間)・専門職内 (キャリアや個人差)) であっても、その時点で持つ知識の分野に差があることについても理解する (キャリアラダー)。</p> <p>このため、①グループワークや実際のカンファレンスの現場で活用出来る情報の整理術・伝え方に関する技術を学ぶ。②様々な現場実践に関する話題提供を踏まえ、グループワークで各専門職の業務や役割を共有するとともに、多職種連携の推進に向けての課題や取組の方向性を明らかにして、保健医療福祉連携に対して総合的かつ幅広い視野を持つことが出来るよう構成する。</p>			
受 講 の 留 意 点	原則 連携協働の基礎、連携協働演習 I の受講を前提とする。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<ol style="list-style-type: none"> ① 連携実践を行う上での技術や ICT ツールの活用方法等を紹介する。 ② 様々な現場実践に関する話題提供を踏まえ、それぞれの役割を互いに理解し、そこから多職種連携の実践に向けての課題や取組の方向性について考察する。 ③ 地域コミュニティあるいは保健医療福祉分野における連携実践の例を複数紹介し、IPW を実践する際の自らの役割や連携協働のあり方について考える。 ④ 各学科実習・演習等の内容のリフレクションを行い、各専門職間の認識・考え方の理解につなげる。 ⑤ 事例検討を通じて当事者を含む他職種の (多様な) 考え方を理解する。 ⑥ 最後にグループワークを実施し、連携教育の総括として、連携実践のイメージを高め、保健医療福祉連携に対して総合的かつ幅広い視野を持てるように講義展開を行う。 <p><留意事項> 本講義では対面とオンデマンド配信を組み合わせたブレンディット型開講を行う。また通年8回の開講であるため、開講日の間隔が一定では無い。対面参加・視聴・課題提出漏れに注意すること。グループワーク (対面講義) においては複数日に分散して実施するため、各自が出席すべき日時と教室を把握すること。 講義ごとの小レポートは自身の考えを記入するだけでなく、必ず他の学生の回答も参照し、共通点および相違点について確認し、学びの共有を行うこと。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 学内におけるグループワークを行う。グループワークの実践方法についてもより向上できるよう取り組む。</p>			

授 業 の 計 画	<p>1 オリエンテーション ・講義方法の説明とこれまでの振り返り 講義の概要 具体的な受講方法（一部オンライン講義および演習、地域活動） IPE の到達状況（積み上げで期待される成果）</p> <p>連携手法・統合の技術① ・情報集約・統合の具体的手法について学ぶ（ICT 活用等）</p> <p>2 連携手法・統合の技術② ・グループワークを実施し、実際に情報集約を行ってみる</p> <p>3 保健医療福祉連携活動の実践例（オンデマンド） 地域コミュニティあるいは保健医療福祉分野における連携・協働活動の実践例について紹介し、その意義と専門職・個人の能力（立場）の発揮、目に見えない広い意味での連携について考える</p> <p>4 カンファレンス① これまでの活動を踏まえ、学科混成メンバーによるカンファレンスを行う。各活動による学びの共有とこれからの IPW に対して求められる専門職としての能力と個人の資質の関係性等について話し合う。</p> <p>5 リフレクション手法の概説 ・リフレクションを行う際の手法について概説を行う</p> <p>6 実習経験のリフレクション ・グループワークを実施し、自身の実習経験を共有する。その過程で各専門職間の認識・考え方の理解につなげる</p> <p>7 事例検討を行う</p> <p>8 カンファレンス② これまでの活動を踏まえ、学科混成メンバーによるカンファレンスを行う。事例検討を行う中で各専門職間の認識・考え方の違いについて理解し、職種の自覚を持って、共通の目標を設定し、その目標に向かって全員で取り組むことが出来るよう学ぶ</p>
授 業 時 間 外 学 修 （ 予 習 ・ 復 習 ） の 内 容	<p>総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 各回の講義のねらいについて考え、講義受講前における自身の考え方について整理し、メモしておくこと。 講義のねらいについて再考し、自身の回答がそのねらいに沿っていたかを自己評価すること。</p>
成 績 評 価 方 法	毎回の小レポート 40 点および最終レポート 60 点により評価する。
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	

科 目 名	社会学概論			
科 目 名 (英 語)	Sociology	シラバスNo.	260030120	
担 当 教 員 名	佐藤 麻衣			
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件 教職 (高公)・社福士・精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ___ DP3 : ___ DP4 : ___ DP5 : ___			
学 修 到 達 目 標	1. 現代社会の特性を理解し説明することができるようになる。 2. 人と社会の関係について理解し説明することができるようになる。 3. 社会問題とその背景について理解し説明することができるようになる。 4. 社会問題の解決に向けて自ら考えていくことができるようになる。			
受 講 の 留 意 点	履修条件なし			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	授業の概要 配布したレジュメをもとに進める。授業内ではまず、第1回から第7回にかけて、個人、役割、行為、コミュニケーション、集団、ネットワークといった学生にとって身近なテーマを取り上げ、個人と社会とのつながりを実感し、社会的な観点から物事を考えるための基本的視点を学習する。その後、第8回から第15回にかけては、社会構造の変化と、それに伴う地域問題、犯罪・非行、格差問題、ジェンダーをはじめとする差別問題など、さまざまな事象を取り上げ、社会構造と現代社会の諸問題との関わりについて学んでいく。			
	アクティブ・ラーニングの内容 Forms を活用し、各授業回において匿名で授業の感想・意見・質問等を募り、次の授業内で紹介・コメントを行う。他の受講者の感想や意見・質問等に触れることで、自身の考えや理解を深めるきっかけとしてほしい。			
授 業 の 計 画	1 社会学とは何か：社会と個人の関係性、社会学の対象と研究方法、社会学を学ぶ意義 2 近代社会と個人：近代化と個人化、近代社会における「私」、「個性重視」という「問題」 3 役割論：地位と役割、役割葛藤、役割距離 4 行為論：行為と演技、印象操作、儀礼的相互行為 5 コミュニケーション論：ハーバーマスとレーマンのコミュニケーション論 6 集団論：基礎集団と機能集団、準拠集団、集団の特性、個人の利益と集団の利益 7 ネットワーク論：集団とネットワーク、ネットワークの種類、弱い紐帯の強さ 8 近代社会論：産業化、都市化、近代社会の特徴 9 組織論：組織社会、官僚制、国家と権力、エリートと大衆 10 地域社会論：近代化と地域社会の変容、コミュニティ解体論・存続論・解放論 11 日本の都市化：都市化と高齢化・少子化、過疎問題、地域再生と「まちづくり」政策 12 犯罪社会学：社会学における犯罪の捉え方、犯罪社会学の諸理論、構築主義 13 階層論：格差社会、階層と階層意識、階層の再生産 14 ジェンダー論：人の一生とジェンダー 15 差別と排除の社会学：差別とは何か、カテゴリーの構築と差別			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単 位 × 45 時 間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 各授業回で、授業内容と関連した社会福祉士国家試験の過去問題を配布するので、それに取り組み、わからない点などは調べて授業への理解度を深める。また、授業内で示した参考文献・論文等の中から興味関心のあるものを選んで読み、授業への理解度を深める。			

成績評価方法	<p>期末レポート（100点）。</p> <p>（1）社会学における基礎知識に関する理解度、（2）現代社会の実態や社会が抱える諸問題に関するデータを正しく読み解き、その原因について説明できる力、（3）授業で学んだことをもとに、時事問題等について考察できる力、の3点から評価を行う。</p>
教科書 （購入必須）	なし
参考書 （購入任意）	<p>中央法規出版『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 3 社会学と社会システム』 2021年</p>

科 目 名	家族社会学				
科 目 名 (英 語)	Family Sociology	シラバスNo.	260030130		
担 当 教 員 名	佐藤 麻衣、大坂 祐二				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職 (高公) : 必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ___ DP2 : ◎ DP3 : ○ DP4 : ___ DP5 : ___ DP6 : ___ DP7 : ___				
学 修 到 達 目 標	1. 現代社会における家族のありように関する基本的知識を取得し、説明することができるようになる。 2. 家族をめぐる諸問題を、社会との関連性のなかで理解できるようになる。 3. 家族の多様化を踏まえて人々の生活を考えることができるようになる。				
受 講 の 留 意 点	履修条件なし				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	授業の概要 配布したレジュメをもとに進める。授業内では、まず第1回から第6回にかけて、家族の分析視点や現代家族の特徴を学ぶ。その後、第7回から第15回において、婚姻と離婚、家事・育児、賃金労働と家事・育児との関連、家族介護、若者の自立・独立と家族との関連、夫婦別姓、同性婚といった、現代家族を取り巻く諸問題を取り上げ、それぞれの事象について、社会構造や社会環境との関わりを中心に学んでいく。				
	アクティブ・ラーニングの内容 Forms を活用し、各授業回において匿名で授業の感想・意見・質問等を募り、次の授業内で紹介・コメントを行う。他の受講者の感想や意見・質問等に触れることで、自身の考えや理解を深めるきっかけとしてほしい。				
授 業 の 計 画	1 家族とは何か：家族の定義、現代社会と家族、家族社会学を学ぶ意義 (担当：佐藤) 2 家族を「みる」視点 (1)：世帯と家族、家族類型 (担当：佐藤) 3 昔の家族と今の家族：近代家族の機能と特徴 (担当：佐藤) 4 家族の変容と家族危機：個人の生き方の変化とそれに伴う家族の変化 (担当：佐藤) 5 家族のコミュニケーション：家族内コミュニケーションの特徴 (担当：佐藤) 6 家族を「みる」視点 (2)：家族周期、家族の発達段階、家族ストレス論 (担当：佐藤) 7 結婚難の時代？：未婚化・非婚化・晩婚化と、その原因 (担当：佐藤) 8 賃金労働と家事・育児 (1)：専業主婦の誕生、家事・育児という労働の特性 (担当：佐藤) 9 賃金労働・家事・育児 (2)：育児不安とその要因 (担当：佐藤) 10 賃金労働・家事・育児 (3)：男性の家事・育児参加 (担当：佐藤) 11 賃金労働・家事・育児 (4)：ワーク・ライフ・バランス (担当：佐藤) 12 高齢社会と家族介護：日本の高齢化、家族介護の難しさ (担当：佐藤) 13 さまざまな家族のかたち (1)：離婚とひとり親家庭 (担当：大坂) 14 さまざまな家族のかたち (2)：若者の自立・独立と家族 (担当：大坂) 15 さまざまな家族のかたち (3)：夫婦別姓と同性婚 (担当：大坂)				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間				
	【授業時間外学修時間の主な内容】 授業内で示した参考文献・論文等の中から興味関心のあるものを選んで読み、授業への理解度を深める。				
成 績 評 価 方 法	期末試験 (100 点)。 (1) 家族社会学における基礎知識に関する理解度、(2) 現代家族の実態や近代への移行に伴う変				

	化に関するデータを正しく読み解き、その原因について説明できる力、(3) 授業で学んだことをもとに、時事問題について考察できる力、の3点から評価を行う。
教科書 (購入必須)	なし
参考書 (購入任意)	授業内で適宜紹介する。

科 目 名	公衆衛生学			
科 目 名 (英 語)	Public Health	シラバスNo.	260030140	
担 当 教 員 名	荻野 大助			
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ___ DP3 : ___ DP4 : ___ DP5 : ___			
学 修 到 達 目 標	公衆衛生学の基本的概念を学び、今日的課題についても、衛生行政および各種保健活動とも関連させながら理解を深める。			
受 講 の 留 意 点	<p>他の授業科目とも関連する重要な事柄が、それぞれの単元の学習において頻出する。ただ単にキーワードを暗記するのではなく、きちんと内容を理解するよう努めることが大事である。</p> <p>予習は講義前に教科書の赤字キーワードなどを確認しておくこと。課題を取組んだ後は、見直し復習すること。</p> <p>※感染症とその予防（2）は特別講義のため、授業の計画の順番について後日連絡を行う。</p>			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>「公衆衛生学」は、人を社会生活者と捉え、社会や環境との関連から人の健康障害の原因を明らかにし、健康を保持増進し、疾病・障害を予防し、すべての人がよりよく生きる社会の実現に寄与する学問である。健康の概念、公衆衛生の目的について理解し、健康に関連する要因（宿主要因、環境要因、病因）と病気の発生、特に、どのような環境およびライフスタイル（栄養、運動、休養、喫煙、飲酒など）が生活習慣病を引き起こす危険性（リスク）を高めるのかについて学ぶ。さらに、健康指標としての各種の保健統計、健康増進施策、少子高齢化や国民医療費などの今日的課題について、衛生行政および各種保健活動とも関連させながら理解を深める。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 自分自身で課題に取り組む</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 公衆衛生の歴史 2 疫学の基本事項 3 衛生統計／健康水準・健康指標 4 感染症とその予防 5 食品と栄養 6 生活環境（衣服と住居、水道、廃棄物） 7 医療制度（行政、資源、医療費） 8 地域保健（保健所と市町村保健センター） 9 母子保健（母子保健事業、少子化対策） 10 学校保健 11 生活習慣病 12 難病と精神保健 13 産業保健（労働衛生） 14 健康危機管理（災害と健康） 15 感染症とその予防（2） 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：教科書を事前に目を通す 復習：課題に取り組み、整理ノートを活用して整理する</p>			

成績評価方法	<p>課題（25点）と期末試験（75点）で成績評価を行う ※ 極端に点数（期末試験と課題取組状況）が低い場合は、再試験を行わず再履修となる</p>
教科書 （購入必須）	<p>清水忠彦、佐藤拓代 編『わかりやすい公衆衛生学 第4版』ヌーヴェルヒロカワ 厚生統計協会編『厚生 の 指標・国民衛生の動向』厚生労働統計協会（2026/2027年）</p>
参考書 （購入任意）	

科 目 名	臨床心理学			
科 目 名 (英 語)	Clinical psychology	シラバスNo.	260030150	
担 当 教 員 名	高本 美明・中井 由子			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	担当教員は児童相談所、児童自立支援施設、婦人相談所、障害児入所施設で、こども・女性・家族への支援を行ってきた実務経験から、特に心理支援、相談支援はこころの負担を抱える人にとって重要と考えている。授業の中では、事例や動画を交えながら、社会で起きている実相を理解ながら、基本的知識を備えエビデンスに基づいた実践を地域で展開できる支援者の育成を目指したいと考えている。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <input type="radio"/> DP2 : <input checked="" type="radio"/> DP3 : <input type="radio"/> DP4 : <input type="radio"/> DP5 : <input type="radio"/>			
学 修 到 達 目 標	医療・保健・福祉・教育の各領域で支援者として働くためには、臨床心理学は、きわめて近接した学問であることから、公認心理師、臨床発達心理士、臨床心理士等と協働するに当たって、臨床心理学の基本を学ぶと同時に実践から得られた知見を習得することができる。 臨床心理学は歴史の浅い学問であるが、守備範囲は広い。人間の存在価値を追求すると同時に、具体的な実践例を知ることにより、追体験と自己覚知を促進させ、支援者としての資質の向上を図ることができる。			
受 講 の 留 意 点	積極的な授業への参与、レポートの提出を求める。教科書は心理臨床の具体的・実践的な内容が綴られていることから、通読の上、講義内容と支援内容の関連性の理解を深めてもらいたい。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	講義で心理臨床の基礎的知識の習得する。こころの負担を感じている方の実情を知る。さらにカウンセリング・トラウマワークの演習を体験する。実践例から具体的な支援のあり方を学ぶ。			
	アクティブ・ラーニングの内容 講義、対話、ワークショップによる。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 臨床心理学とは 2 人格理論・発達理論 3 児童相談所の実務 4 子どもの虐待の現状とその影響性 5 発達障害の理解 6 精神疾患の基礎知識 7 非行・不登校の臨床 8 日常的ケア・専門的ケア 9 ト라우マ 10 グループワーク1 11 グループワーク2 12 心理アセスメント1（臨床心理面接） 13 心理アセスメント2（心理検査法） 14 社会的養育の新たな視座 15 まとめ 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習（45 分）：テキストを事前に読み込んでおく。 復習（45 分）：配付資料の読み返し、参考資料・動画視聴等を通して理解を深める。			
成 績 評 価 方 法	定期試験結果、レポート、授業への参与度を踏まえて評価する。 定期試験 70%、レポート 15%、毎回のリアクションペーパー15%の配分とする。			

<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>「子育ての村「むぎのこ」のお母さんと子どもたち」 北川聡子・古家好恵・小野善郎+むぎのこ(編著) 福村出版 ISBN978-4-571-42078-8</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>「母と子のアタッチメント」J・ボウルビィ著 医歯薬出版 ISBN978-4263-23143-2 「虐待が脳を変える」 友田明美・藤澤玲子著 新曜社 ISBN978-4-7885-1541-1</p>

科 目 名	栄養学			
科 目 名 (英 語)	Nutrition	シラバスNo.	260030160	
担 当 教 員 名	長嶋 泰生			
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <input type="radio"/> DP2 : <input checked="" type="radio"/> DP3 : <input type="radio"/> DP4 : <input type="radio"/> DP5 : <input type="radio"/>			
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養素の種類やエネルギー代謝、食事や食品に関わる基本的知識を理解できる。 2. チーム医療における栄養ケア・マネジメント、栄養アセスメントの重要性を理解できる。 3. ライフステージ別の特徴と栄養の要点を理解できる。 4. 病院食と栄養補給法、疾病別の栄養・食事療法について理解できる。 5. 日本における食生活の変遷と健康づくりに関わる法令について理解できる。 			
受 講 の 留 意 点	<p>【準備学習：予習・復習の内容、分量】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習：教科書の該当ページを読んでおく。(60分) ・復習：教科書の該当ページおよび授業時の配付資料を読み返す。(120分) 			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1.人間にとっての栄養の意義、栄養と健康の関わりについて学ぶ。 2.栄養素の種類と働き、エネルギー代謝について学ぶ。 3.チーム医療と栄養管理、栄養状態の評価・判定方法について学ぶ。 4.ライフステージ別の特徴と栄養について学ぶ。 5.種々の疾病の要因、病態、診断、治療・予防、栄養食事療法について学ぶ。 6.食生活の変遷と改善・疾病予防に関わる施策、食の安全性と表示について学ぶ。 			
	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 人間栄養学と看護 2 栄養素の種類とはたらき① 糖質、脂質、タンパク質、食物繊維、水 3 栄養素の種類とはたらき② ビタミン、ミネラル 4 体内のエネルギーバランス 5 食事と食品① 栄養素と食事、食品群とその分類、食品表示 6 食事と食品② 食事の変遷、食事摂取基準 7 栄養ケア・マネジメント① 栄養スクリーニング、栄養アセスメント 8 栄養ケア・マネジメント② 栄養アセスメント、栄養ケア計画、モニタリングと評価 9 ライフステージと栄養① 妊娠期、授乳期、乳児期 10 ライフステージと栄養② 乳児期、幼児期、学童期 11 ライフステージと栄養③ 思春期・青年期、成人期、更年期、高齢期 12 臨床栄養① 病院食、栄養補給法 13 臨床栄養② 疾患・症状別食事療法 低栄養・栄養不良、循環器疾患、消化器疾患 14 臨床栄養③ 疾患・症状別食事療法 栄養・代謝疾患、腎臓疾患、呼吸器疾患、血液疾患他 15 臨床栄養④ 対象者別の栄養管理、病期別の栄養管理 			
授 業 時 間 外 学 修 (予習・復習)の内容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <p>予習：教科書の該当ページを読んでおく。</p> <p>復習：教科書の該当ページおよび授業時の配付資料を読み返す。</p>			
成 績 評 価 方 法	課題提出 (30 点)、試験 (70 点) により評価する。			

教科書 (購入必須)	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3] 栄養学 医学書院 ISBN978-4-260-03861-4
参考書 (購入任意)	

科 目 名	感染微生物学			
科 目 名 (英 語)	Clinical Microbiology and Infectious Disease	シラバスNo.	260030170	
担 当 教 員 名	塚原 高広			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	大学病院（内科医師 1 年・総合診療科医師 1 年）、2 次救急公立病院（内科医師 2 年）、3 次救急民間病院（総合診療科医師 1 年）の実務経験がある。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ____ DP2 : ◎ DP3 : ____ DP4 : ____ DP5 : ____			
学 修 到 達 目 標	感染とは何か、感染成立の 3 要素、検査、化学療法、感染制御、感染対策について説明できる。主要な感染症の病原体、感染経路、感染臓器、臨床経過、予防・治療法を説明できる。			
受 講 の 留 意 点	教科書を中心に授業を進めるので、予習、復習を通じて必ず通読して欲しい。単なる知識の暗記ではなく、考え方を習得することを目指す。復習しても理解できない事項は、講義後に質問すること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	微生物学・感染症学の総論を学ぶことを重視し、将来どのような保健・福祉分野に進むにせよ必要な考え方を習得する。各論では、臓器・器官別の感染症を理解することを中心とし、あわせて重要な病原体の性質について学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容：課題（問題演習・リアクションペーパー）提出と教員によるフィードバック			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 微生物学総論：歴史、微生物の種類と特徴 2 細菌総論：形態と構造、グラム染色性、病原性 3 ウイルス・真菌・寄生虫総論 4 免疫：自然免疫、獲得免疫、アレルギー 5 ワクチン・感染症総論：予防接種、感染の 3 要素、感染経路、検査、診断、治療 6 全身性ウイルス感染症・発熱性感染症 7 呼吸器感染症 1：上気道感染症、インフルエンザ 8 呼吸器感染症 2：感染性肺炎、結核、新興呼吸器感染症 9 消化器感染症・食中毒 10 血液媒介感染症・ウイルス性肝炎 11 尿路感染症・神経系感染症 12 皮膚・眼・特殊な細菌による感染症 13 性感染症・高齢者の感染症・日和見感染症 14 敗血症・人獣共通感染症・新興再興感染症 15 感染制御：感染対策、消毒と滅菌 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習（90 分）指定教科書で次回の講義範囲を読み、専門用語の定義を確認すること。 復習（90 分）指定教科書や参考書の講義範囲を再読して、知識を整理しておくこと。			
成 績 評 価 方 法	期末試験（100 点）により評価する。			
教 科 書 (購 入 必 須)	中野隆史編『看護学テキスト 微生物学・感染症学』南江堂（2020 年）			
参 考 書 (購 入 任 意)	神谷茂監修『標準微生物学第 15 版』医学書院（2024 年） 中込治著『ウォームアップ微生物学』医学書院（2022 年）			

科 目 名	生涯発達論			
科 目 名 (英 語)	Introduction to the Human Development	シラバスNo.	260030180	
担 当 教 員 名	結城 佳子、長谷川 博亮			
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師等として出生から看取りまでの心のケアを実践した経験を有する教員が、対人援助において必須である生涯発達に関する基本的知識と考え方を教授する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ___ DP3 : ___ DP4 : ___ DP5 : ___			
学 修 到 達 目 標	<p>生涯発達とは、胎生期から死に至る人の生涯において、より適切な適応のあり方を期待する包括的な概念である。保健・医療・福祉、教育等の領域で対象者を支援しようとするとき、生涯発達についての理解は不可欠である。生涯発達についての基本的考え方、人の生涯発達とその過程における危機的状況について理解することを目標とする。</p> <p>1. 生涯発達とは何か、基本的な考え方を述べることができる。</p> <p>2. 主な生涯発達理論について、説明できる。</p> <p>3. 各発達段階における危機について、発達段階の特徴、背景となる社会のありようと関連付けて具体的に述べることができる。</p>			
受 講 の 留 意 点	少人数でのグループワークを取り入れた講義であるため、与えられた課題に対して自ら考えたことを積極的に発信し、他者と協力して取り組む姿勢が期待される。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>E.H.エリクソンの生涯発達理論にそって、各発達段階にある人々のありよう、達成すべき発達課題について学ぶ。また、発達課題への取り組みにおいて、危機的な状況にある人々等のありようを学ぶ。生涯発達の理解をふまえ、人を理解する上で生涯発達への視点がなぜ必要なのか、多様化・複雑化する社会の中での課題を検討する。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 少人数でのグループワークを取り入れた講義である。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 生涯発達とは 発達段階と発達課題 2 生涯発達の基本的理解 人の生涯発達にかかわる理論 3 胎生期から乳児期前期 信頼 対 不信 4 乳児期後期 信頼 対 不信 5 幼児期前期 自律性 対 恥・疑惑 6 幼児期後期 積極性 対 罪悪感 7 学童期 勤勉性 対 劣等感 8 中間まとめ 子どもという存在と重要他者 9 思春期・青年期 同一性 対 拡散 (1) 思春期・青年期のからだところの変化 10 思春期・青年期 同一性 対 拡散 (2) アイデンティティとその危機 11 思春期・青年期 同一性 対 拡散 (3) 成年期へ 12 成人前期 親密性 対 孤独感 13 成人後期 生成継承性 対 停滞 14 成熟期 統合 対 絶望 15 まとめ 人が生きるということ 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習 (90 分) 各回でテーマとする発達段階について調べ、疑問点等を明らかにする。 復習 (90 分) 講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理し、関連する研究論文等を 1 編以上読む。</p>			
成 績 評 価 方 法	レポート課題 : 中間、最終各 50 点、計 100 点			

	<p>5段階評価 S：素点90点以上、A：素点80～89点、B：素点70～79点、C：素点60～69点、D：素点59点以下</p> <p>C以上の評価について単位を認定する。D評価の者には課題再提出を認めることがある。再提出の評価は素点69点までとする。</p>
教科書 (購入必須)	テキストは使用せず、資料を配布する。
参考書 (購入任意)	必要時指示する。

科 目 名	法学（国際法を含む）			
科 目 名（英 語）	Law (including International Law)	シラバスNo.	260030190	
担 当 教 員 名	栞山 茂樹			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 教職(高公)：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：◎ DP3：○ DP4：__ DP5：__			
学 修 到 達 目 標	法律学全般の土台となる知識を身につける。 法学の基幹科目である憲法・民法・刑法、ならびに国際法の概要をつかむ。 それらを元に、各自が法学の本格的な学習に進めるようになる。			
受 講 の 留 意 点	本講義は、私の他の担当科目「人権と法」「子どもの権利」「日本国憲法」「教育法概論」を学ぶうえで有益である。併せて受講することが望ましい。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	最初の5回で法学全般の基礎事項を学ぶ、法とは何か、条文の読み方といったごく初歩的なところから始める。 その後、憲法・民法・刑法および国際法の概要を扱う。これらは法学の入門としてはもちろんのこと、現代社会を知るための一般教養としても学ぶ価値はある。			
	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	1 講義ガイダンス 2 法とは何か 3 法の解釈 4 法の分類、判例と学説 5 大陸法と英米法 6 憲法①：憲法総論 7 憲法②：人権と憲法上の権利 8 憲法③：国民主権 9 憲法④：平和主義 10 民法①：総則 11 民法②：物権 12 民法③：債権(1) 一債権総論、契約一 13 民法④：債権(2) 一事務管理、不当利得、不法行為一 14 刑法：刑罰の正当化根拠、罪刑法定主義、犯罪の成立要件 15 国際法：国際社会と法の支配、国際法の法源、国際紛争の平和的解決			
授 業 時 間 外 学 修 (予習・復習)の内容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 ・予習(90分)：指定参考書を読む。 ・復習(90分)：授業に出てきた専門用語とその定義を覚える。条文を読むのに慣れる。授業で出てきた知識事項について、指定参考書等で再確認する。			
成 績 評 価 方 法	期末試験(100%)			
教 科 書 (購 入 必 須)	なし。毎回ハンドアウトを配布する。各自ノートをしっかりとること。			

参 考 書
(購 入 任 意)

- ・伊藤正己+加藤一郎編『現代法学入門 第4版』(有斐閣、2005)
 - ・末川博編『法学入門 第6版補訂版』(有斐閣、2014)
 - ・デイリー法学選書編修委員会編『ピンポイント憲法』『ピンポイント民法』『ピンポイント刑法』(三省堂、2018)
 - ・品川皓亮=土井真一監修『日本一やさしい条文・判例の教科書』(日本実業出版社、2015)
 - ・品川皓亮=佐久間毅監修『日本一やさしい法律の教科書』(日本実業出版社、2011)
- そのほか、参考文献を随時紹介する。

科 目 名	人権と法			
科 目 名 (英 語)	Human Rights and Law	シラバスNo.	260030200	
担 当 教 員 名	栞山 茂樹			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 教職(高公)：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：◎ DP3：○ DP4：__ DP5：__			
学 修 到 達 目 標	現代日本で話題の人権問題と、その法的争点について理解し、論じられるようになる。 憲法人権分野について、法学の専門的水準の知見を身につける。			
受 講 の 留 意 点	本講義は私の担当科目「日本国憲法」を補完するものでもある(そのため、一部内容が重複することをお断りしておく)。併せて受講することが望ましい。 「法学(国際法を含む)」「子どもの権利」「教育法概論」とも関連がある。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	人権に関する重要判例・トピックをとりあげ、その法的争点を解説していく。現代日本の人権問題について、ジャーナリスティックな時事評論ではなく、法学の専門的見地から議論していく。現代社会では人権理念が普及する一方で、それに反動する民族主義・差別主義等も台頭してきている。その渦中にあるわれわれは、人権についての見識をどれだけ備えているかが試されている。本講義はそのような知見を学ぶ機会である。			
	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	1 講義ガイダンス 2 人権と法制度①：人権思想、人権と実定法 3 人権と法制度②：憲法の基本原則 4 人権と法制度③：人権と憲法上の権利、違憲審査基準 5 外国人の人権①：入管法のしくみとその問題点 6 外国人の人権②：最高裁判例 7 外国人の人権③：ヘイトスピーチ —朝鮮学校襲撃事件、ヘイトスピーチ規制の動向— 8 私人間効力論：三菱樹脂事件、日産自動車事件 9 プライバシー権：グーグル/ツイッター削除請求事件 10 自己決定権：エホバの証人輸血拒否事件、安楽死・尊厳死 11 法の下での平等：婚外子法定相続分違憲決定 12 婚姻の自由：夫婦同氏訴訟 13 LGBTQ+の人権：性同一性障碍特例法違憲決定、同性婚訴訟 14 政治的表現の自由：反戦ビラ事件、ヤジ排除訴訟 15 障害者の人権：旧優生保護法違憲判決			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 ・予習(90分)：指定参考書を読む。 ・復習(90分)：授業に出てきた専門用語とその定義を覚える。条文・判例を読むのに慣れる。講義で出てきた知識事項や判例について、指定参考書や裁判所ホームページ等で調べてみる。			
成 績 評 価 方 法	期末試験(100%)			
教 科 書 (購 入 必 須)	なし。毎回パワーポイントとハンドアウトで講義をおこなう。各自しっかりノートをとること。			

参 考 書
(購 入 任 意)

独習用のテキストとして、以下をすすめる。そのほか、参考文献を随時紹介する。

- ・デイリー法学選書編修委員会編『ピンポイント憲法』(三省堂、2018)
- ・中村睦男編著『はじめての憲法学 第4版』(三省堂、2021)
- ・棟居快行ほか『基本的人権の事件簿 第7版』(有斐閣、2024) : 旧版も参照。

科 目 名	連携協働の基礎			
科 目 名 (英 語)	Fundamentals of Collaborative Work	シラバスNo.	260030210	
担 当 教 員 名	今野 聖士			
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ___ DP2 : ◎ DP3 : ___ DP4 : ○ DP5 : ○			
学 修 到 達 目 標	<p>保健・医療・福祉等、複数領域の専門職がそれぞれの技術と役割にもとづきながら共通の目標を目指す連携・協働を Inter-professional Work (IPW・専門職連携) という。同時に複数の専門職が“その場にいる”事を示す“multi-professional”とは異なり、相互の関係性を重視し、専門職間の高いレベルの協働関係を意味しており、IPW を実現するためには専門職としての成熟した人間関係 (Matured Inter-professional Relationships) が基盤となるとされる。</p> <p>IPW を実現するための方法を学ぶ方法として、Inter-professional Education (IPE・専門職連携教育) がある。IPE では「複数の専門職間の相互作用」および「共通目標を共有する」ことが重要である。IPE では、2 つ以上の専門職が互いの職種とともに (with)、互いの職種から (from)、互いの職種について (about)、協働と生活の質の向上を目的に学ぶことにより、効率的な関係を築くことが可能となると定義されている (CAIPE : 2001)。</p> <p>本学連携教育全体では「地域住民の生活上の課題やニーズに対する幅広いケアを多職種連携で行うこと」を到達目標としている。</p> <p>IPE (専門職連携教育) は、三年間の積み上げ型教育となる。その最初の講義となる「地域との協働 I」では、①IPE の概念および本学の連携教育の特徴である「地域型 IPE」を理解し説明することが出来る②「地域との協働 II」以降地域コミュニティと連携する際の基礎となる本学の歩みと地域との関係性について理解し説明することが出来る③IPE を進める上で基礎的な能力となる、「コミュニケーション能力 (グループワークの基礎技術)」「人物や物事を先入観なく捉え、相手 (地域) に関心を持つ」能力を養成する。</p>			
受 講 の 留 意 点				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>全体講義では IPE に必要な概念の理解、本学連携教育の流れについて解説した後、「地域との協働 II」以降、地域コミュニティとの連携協働の際に必要な本学と地域との関係性について、本学発展の歴史から概観する。次いで複数の教員による多様な内容のゲストトークを視聴し、先入観無く人物を捉え、多様な考え方を受け入れ・理解する素地を養う。また、相手を役職など属性ではなくひとりの「人」として捉え、感心を持つことが出来るような考え方を醸成する。IPE および IPW (多職種連携) において必須のスキルとなるグループワークの進め方について講義・演習する。</p> <p><留意事項> 本講義では対面とオンデマンド配信を組み合わせたブレンディット型開講を行う。また半期に8回の開講であるため、開講日の間隔が一定では無い。対面参加・視聴・課題提出漏れに注意すること。グループワーク (対面講義) においては複数日に分散して実施するため、各自が出席すべき日時と教室を把握すること。 講義ごとの小レポートは自身の考えを記入するだけでなく、必ず他の学生の回答も参照し、共通点および相違点について確認し、学びの共有を行うこと。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 グループワークを2回実施予定である。IPE および IPW (多職種連携) においてグループワークは必須のスキルであるため、その進め方、参加者としての意識、注意すべき事項等についてカンファレンス演習を行う。</p>			
授 業 の 計 画	<p>1 オリエンテーションと本学のあゆみ ・オリエンテーション IPE の概念と本学連携教育の流れ ・本学の歴史的経緯と地域との関わり 地域コミュニティとの連携活動において基礎となる本学の歴史的経緯と地域との関わりについて</p> <p>2 グループワーク演習：グループワークの進め方 (オンデマンド講義：0.5 コマ) グループワークの進め方について実例を元に事前学習</p>			

	<p>3 グループワーク演習（対面講義） 先のコマで学んだグループワークの進め方を元にグループワーク演習を行う</p> <p>4 多種多様な分野の理解①（オンデマンド講義） 複数の教員から話題提供を受け、物事や人物を先入観なく捉え、多様な考え方を受け入れる素地を養う</p> <p>5 多種多様な分野の理解②（オンデマンド講義） 複数の教員から話題提供を受け、物事や人物を先入観なく捉え、多様な考え方を受け入れる素地を養う（広くて浅い関係性）</p> <p>6 ミニ演習① ・ 10名程度の小グループに分かれ、各教員から2回にわたって話題提供を受ける教員という役職・属性から離れた研究者や地域住民としての一面 先入観の排除、人への関心（深くて狭い関係性）</p> <p>7 ミニ演習② ・ 10名程度の小グループに分かれ、各教員から2回にわたって話題提供を受ける教員という役職・属性から離れた研究者や地域住民としての一面 先入観の排除、人への関心（深くて狭い関係性）</p> <p>8 まとめのグループワーク ・ ミニ演習での学びを中心的な話題としてグループワークを行う グループワーク技術の向上 学びの共有</p>
授業時間外学修（予習・復習）の内容	<p>総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 各回の講義のねらいについて考え、講義受講前における自身の考え方について整理し、メモしておくこと。 自身の回答のみならず、他の学生の回答を参照し、その共通点および相違点を確認すること。その作業過程において、講義のねらいについて再考し、自身の回答がそのねらいに沿っていたかを自己評価すること。</p>
成績評価方法	<p>毎回の小レポート 40 点、最終レポート 60 点により評価する。</p>
教科書 （購入必須）	
参考書 （購入任意）	

科 目 名	連携協働演習 I			
科 目 名 (英 語)	Interprofessional Practicum I	シラバスNo.	260030220	
担 当 教 員 名	今野 聖士			
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ___ DP2 : ◎ DP3 : ___ DP4 : ○ DP5 : ○			
学 修 到 達 目 標	<p>保健・医療・福祉等、複数領域の専門職がそれぞれの技術と役割にもとづきながら共通の目標を目指す連携・協働を Inter-professional Work (IPW・専門職連携) という。同時に複数の専門職が“その場にいる”事を示す“multi-professional”とは異なり、相互の関係性を重視し、専門職間の高いレベルの協働関係を意味しており、IPW を実現するためには専門職としての成熟した人間関係 (Matured Inter-professional Relationships) が基盤となるとされる。</p> <p>IPW を実現するための方法を学ぶ方法として、Inter-professional Education (IPE・専門職連携教育) がある。IPE では「複数の専門職間の相互作用」および「共通目標を共有する」ことが重要である。IPE では、2 つ以上の専門職が互いの職種とともに (with)、互いの職種から (from)、互いの職種について (about)、協働と生活の質の向上を目的に学ぶことにより、効率的な関係を築くことが可能となると定義されている (CAIPE : 2001)。</p> <p>本学連携教育全体では「地域住民の生活上の課題やニーズに対する幅広いケアを多職種連携で行うこと」を到達目標としている。</p> <p>連携協働演習 I では、これらの定義と全体目標に基づき、以下の2点の能力を養成する。</p> <p>第1に、この IPW の基盤となる“専門職間の成熟した人間関係”を形成する。</p> <p>第2に、「複数の専門職間の相互作用」を考慮しながら「共通目標を共有」し、その共通目標に向かって「協働」できるようになる。</p>			
受 講 の 留 意 点	原則 「連携協働の基礎」の履修を前提とする。ただし諸事情を鑑みて「連携協働の基礎」と同時受講を認めることがある。事前に連携教育委員会へ相談すること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>本講義は3つのパートから構成される。</p> <p>①IPW および IPE の概念を講義によって学び、連携協働活動実践の意義・目的について理解する。</p> <p>②少人数・学科混成グループを編成し、テーマ別に連携協働活動実践を行う。連携協働活動実践を実施する際に地域系 IPE として、対人援助職としての自身の視点を持ちつつ、地域コミュニティをフィールドとした実践的活動を行う。その際二つのコアドメインである「協働する職種で患者や利用者、家族、地域にとっての重要な関心事/課題に焦点を当て、共通の目標を設定することができる」、「職種背景が異なることに配慮し、互いに、互いについて、互いから職種としての役割、知識、意見、価値観を伝え合うことができる」および、コア・ドメインを支え合う四つのドメイン「職種としての役割を全うする能力」「自職種を省みる能力」「他職種を理解する能力」「関係に働きかける能力」について学ぶことが出来るよう、ねらいを提示する。</p> <p>1) 教員が提示した大テーマの中から各種資料の分析や聞き取り調査等を通じて、地域課題や対象者のニーズを検討する</p> <p>2) グループにおける自らの役割を理解し、分担・協働しながら活動する</p> <p>3) 連携協働活動実践から得た学びを発表・討議し、専門職連携の意義と効果を全体で共有する指導は担当教員のほか、連携協働演習 II を履修する3年生も補助として参加し、活動を円滑に取り組めるよう支援する。</p> <p>③学びを深める共通講義により講義・演習を行う。</p> <p>自らが参加した連携協働活動実践による“一つの学び”に加えて、複数の「地域をフィールドとした連携・協働の実践活動」を講義・演習を通じて学び、その成果を受講者間で共有することで、より多くの事例から IPE を行う。</p> <p>★本講義の目的は「地域をフィールドとして」連携協働活動実践を行う過程において上記の二つの目標を達成しようとするものである。地域で活動すること・交流すること・イベントに参加すること・イベントを成功させることが目的ではない。これらの活動を行う中で、成熟した人間関係を築き、共通目標を共有してそのために協働して活動できる関係性を構築できるよう、行動変容することである。手段が目的化しないように注意深く活動すること。</p> <p><留意事項> グループ別の連携協働活動実践では、フィールドの都合等によりグループごとに開講日が異なるた</p>			

	<p>め、担当教員およびグループメンバー間の連絡連携を密にして取り組むこと。また、無断欠席はしないこと。一部オンライン講義を活用するため対応できる視聴機材を準備しておくこと（詳細はガイダンス等で説明する）。</p> <p>共通講義の開講は週次では無く不定期となるため、随時メールや Moodle 等で連絡を行う。日々大学メールの確認を行うこと。講義ごとの小レポートは自身の考えを記入するだけで無く、必ず他の学生の回答も参照し、共通点および相違点について確認し、学びの共有を行うこと。</p>
	<p>アクティブ・ラーニングの内容 各グループごとに学内外におけるグループワークを行う。地域住民の方と実際に種々の活動を行う。</p>
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：講義方法の説明、IPE の概念復習 <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な受講方法（一部オンラインを含む講義・演習および連携協働活動実践） ・IPW および IPE の概念について講義を行い、今後の連携協働活動実践および共通コンテンツ理解の基盤とする 2 これから連携協働活動実践で学ぶ目的の理解：4 つのコンピテンシーの解説 <ul style="list-style-type: none"> ・連携協働活動実践の目標と自己評価のポイントについて解説する。コンピテンシーの考え方と具体的な到達目標、ルーブリックの使用方法について学ぶ 3 連携協働活動実践の意義と目的についてとグループ分けガイダンス <ul style="list-style-type: none"> ・連携協働活動実践の意義と目的について講義を実施する。そもそも“地域”とは何であるのか。IPE の実施フィールドとしての地域の意義、大学および地域が連携することの意義について触れながら連携協働活動実践から学生が学ぶべき目的について説明する ・連携協働活動実践を実施するにあたって、グループごとにガイダンスを実施する 目的・方法の説明および日程調整を行う 4- グループ別連携協働活動実践 11 ・グループごとに連携協働活動実践を行う。連携協働活動実践を実施する際、テーマの大項目および地域系 IPE としてのねらいについては担当教員によって提示されるが、具体的な活動内容はグループメンバー自らが主体的に検討するものとする 主に地域コミュニティを対象に、各種資料の分析や聞き取り調査等を通じて、地域課題や対象者のニーズを検討する。その検討結果に基づいて調査・分析や企画立案・準備、考察を実施する。活動にあたってはグループにおける自らの役割を理解し、分担・協働しながら活動する 12 グループ別連携協働活動実践のまとめ① 連携協働活動実践から得た学びをグループごとにグループワーク等の方法で共有・ディスカッションを行い、専門職連携の意義と効果をグループメンバー間で共有し、小レポートを作成する 次に、その学びを受講者全体で共有するため、資料作成を行う（活動レポート） 13 グループ別連携協働活動実践のまとめ② 連携協働活動実践から得た学びをグループごとにグループワーク等の方法で共有・ディスカッションを行い、専門職連携の意義と効果をグループメンバー間で共有し、小レポートを作成する 次に、その学びを受講者全体で共有するため、資料作成を行う（活動ボード） 14 共通コンテンツによる学びの拡張 <ul style="list-style-type: none"> ・複数の「地域をフィールドとした連携・協働の実践活動」の成果を各グループの発表・交流を通じて学ぶことで、より広く・より深い IPE を行う ・まとめて作成した活動ボード及び活動レポートを利用する 15 まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを実施し、連携協働活動実践による学びの共有を行う。先に示した 4 つのコンピテンシーに基づいてルーブリックを用いた自己評価および学びの結果を最終レポートして提出する
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 各回の講義のねらいについて考え、講義受講前における自身の考え方について整理し、メモしておくこと。 自身の回答のみならず、他の学生の回答を参照し、その共通点および相違点を確認すること。その作業過程において、講義のねらいについて再考し、自身の回答がそのねらいに沿っていたかを自己評価すること。</p>
成 績 評 価 方 法	<p>講義にあたっては毎回の小レポート（20 点）、連携協働活動実践においては活動日誌の提出とグループ発表資料の作成状況（40 点）、および最終レポート（40 点）で評価する。</p>
教 科 書 (購 入 必 須)	

参 考 書
(購 入 任 意)

科 目 名	連携協働演習Ⅱ			
科 目 名 (英 語)	Interprofessional Practicum II	シラバスNo.	260030230	
担 当 教 員 名	今野 聖士			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ____ DP2 : ◎ DP3 : ____ DP4 : ○ DP5 : ○			
学 修 到 達 目 標	<p>保健・医療・福祉等、複数領域の専門職がそれぞれの技術と役割にもとづきながら共通の目標を目指す連携・協働を Inter-professional Work (IPW・専門職連携) という。同時に複数の専門職が”その場にいる”事を示す”multi-professional”とは異なり、相互の関係性を重視し、専門職間の高いレベルの協働関係を意味しており、IPW を実現するためには専門職としての成熟した人間関係 (Matured Inter-professional Relationships) が基盤となるとされる。</p> <p>IPW を実現するための方法を学ぶ方法として、Inter-professional Education (IPE・専門職連携教育) がある。IPE では「複数の専門職間の相互作用」および「共通目標を共有する」ことが重要である。IPE では、2 つ以上の専門職が互いの職種とともに (with)、互いの職種から (from)、互いの職種について (about)、協働と生活の質の向上を目的に学ぶことにより、効率的な関係を築くことが可能となると定義されている (CAIPE : 2001)。</p> <p>本学連携教育全体では「地域住民の生活上の課題やニーズに対する幅広いケアを多職種連携で行うこと」を到達目標としている。</p> <p>連携協働の基礎、連携協働演習Ⅰにおける学びを踏まえ、①IPW (Inter-professional Work) の基盤となる”専門職間の成熟した人間関係”を形成するためのコーディネーターとして活動できる能力を養成する。②「複数の専門職間の相互作用」を考慮しながら「共通目標を共有」し、その共通目標に向かって「協働」するための環境づくりができる能力を養成する。</p> <p>具体的にはリーダーシップ性、コミュニケーション力、マネジメント力を総合的に高め、フィールド活動に主体的に参加する姿勢を身につけることを目標とする。</p>			
受 講 の 留 意 点				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>①全体講義でこれまでの連携協働活動実践を振り返り、連携実践をコーディネートするために必要な能力の整理、今後の活動目標を設定する。</p> <p>②「連携協働演習Ⅰ」の連携協働活動実践に連携実践のコーディネーターとして参加し、2年生のサポート役として必要な援助を行う。</p> <p>③中間まとめとしてグループワークを行う。ここまでの連携協働活動実践を振り返り、コーディネート役として実践してきたこと、コーディネートする上での課題・悩み等を共有し、後半の活動に備える。</p> <p>④最終まとめとしてグループワークを行う。1年間の連携協働活動実践を振り返り、コーディネート役として実践できたこと、できなかったことを共有し、全体でどのようにすればよりよいコーディネーションを実施できたのか、議論と共有を行う。その結果を最終レポートとして提出し、成果を受講者間で共有することで学びの共有を行う。</p> <p><留意事項> グループ別の連携協働活動実践では、フィールドの都合等によりグループごとに開講日が異なるため、担当教員およびグループメンバー間の連絡連携を密にして取り組むこと。また、無断欠席はしないこと。</p> <p>一部オンライン講義を活用する可能性があるため対応できる視聴機材を準備しておくこと (詳細はガイダンス等で説明する)。</p> <p>開講形態および日時が不定期のため、日々大学メールの確認を行うこと。講義ごとの小レポートは自身の考えを記入するだけでなく、必ず他の学生の回答も参照し、共通点および相違点について確認し、学びの共有を行うこと。</p>			
	<p>アクティブ・ラーニングの内容 各グループごとに学内外における連携協働実践、グループワークを行う。</p>			

授 業 の 計 画	<p>1 オリエンテーション ・講義方法の説明 講義の目的（自身の担える役割を増やすイメージ・連携の基礎力に加えて対象者であるコミュニティを意識する） 具体的な受講方法（全体講義および連携協働活動実践への参加、まとめのグループワークのスケジュール等）</p> <p>2 連携協働活動実践ガイダンスおよびチーム分け調整 ・連携協働活動実践を検討し、チーム分けを行う。その際、多数決ではなく、現状において誰がどのチームに属することが最適なのか話し合いで調整を行う</p> <p>3-6 グループ別活動（連携協働実践Ⅰ受講者と一緒に活動） ・グループごとに連携協働活動実践を行う。連携協働活動実践を実施する際、テーマの大項目および地域系 IPE としてのねらいについては担当教員によって提示されるが、具体的な活動内容はグループメンバー自らが主体的に検討するものとする。主に地域コミュニティを対象に、各種資料の分析や聞き取り調査等を通じて、地域課題や対象者のニーズを検討する。その検討結果に基づいて調査・分析や企画立案・準備、考察を実施する。活動にあたってはグループにおける自らの役割を理解し、分担・協働しながら活動する。活動にあたっては開講の目的である「専門職間の成熟した人間関係を形成するためのコーディネーターとして活動できる能力」「共通目標を共有し、その共通目標に向かって協働するための環境づくりができる能力」について意識しながら活動を行うこと。</p> <p>7 活動内容の共有 ・中間まとめとしてグループワークを行う。ここまでの連携協働活動実践を振り返り、コーディネーター役として実践してきたこと、コーディネーターとしての課題・悩み等を共有し、後半の活動に備える。</p> <p>8- グループ別活動（連携協働実践Ⅰ受講者と一緒に活動）</p> <p>13 上記 3-6 回と同様である。</p> <p>14 グループ別活動（教員と一緒に活動・個人で準備、支援活動） ・コーディネーター役として活動するため、連携協働実践Ⅰ受講者とは別に教員との打ち合わせや活動の準備作業、連携協働実践Ⅰ参加者の支援を行う時間に充てる。</p> <p>15 最終まとめとしてグループワークを行う。1年間の連携協働活動実践を振り返り、コーディネーター役として実践できたこと、できなかったことを共有し、全体でどのようにすればよりよいコーディネーションを実施できたのか、議論と共有を行う。その結果を最終レポートとして提出し、成果を受講者間で共有することで学びの共有を行う。</p>
授 業 時 間 外 学 修 （ 予 習 ・ 復 習 ） の 内 容	<p>総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 各回の講義のねらいについて考え、講義受講前における自身の考え方について整理し、メモしておくこと。 各活動を行うにあたって、資料の作成等事前準備を行う 自身の回答のみならず、他の学生の回答を参照し、その共通点および相違点を確認すること。その作業過程において、講義のねらいについて再考し、自身の回答がそのねらいに沿っていたかを自己評価すること。</p>
成 績 評 価 方 法	<p>講義にあたっては毎回の小レポート（20 点）、地域活動においては活動日誌の提出とグループ発表資料の作成状況（30 点）、自主企画活動日誌の提出（10 点）、および最終レポート（40 点）で評価する。</p>
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	

科 目 名	地域福祉論 I			
科 目 名 (英 語)	Community-Based Social Work I	シラバスNo.	260030240	
担 当 教 員 名	小泉 隆文			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件 教職(高福)・社福士・精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	社会福祉士としての障害福祉サービス事業所における実務経験をふまえ、理論と実践を結びつける講義である。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：___ DP3：___ DP4：○ DP5：◎			
学 修 到 達 目 標	①地域社会の概念・理論・変化について理解できる ②地域包括ケアについて理解する ③地域福祉の理論や概念が理解できる ④地域福祉の推進主体や包括的支援体制について理解できる			
受 講 の 留 意 点	教科書と講義資料を中心に授業を進める。教科書に記載のない事項も積極的に取り扱う。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>今日の社会福祉における取組は、地域を実践単位として行われることが多くなっている。地域とは地域住民の生活の場であり、住民を主体として具体的に実践・展開していく必要があるからであり、その実践の中で福祉サービスを必要とする人の生活課題へ介入し支援していくことが、社会福祉実践には求められる。そのため、地域福祉を考えていくためには、「何のための地域福祉なのか」「誰のための地域福祉なのか」を理解していく必要がある。</p> <p>本科目では、地域社会、地域福祉の概念や理論、歴史的発展過程を踏まえ、地域福祉実践がどのような役割を担うのか、考察を深めていく</p>			
	<p>アクティブ・ラーニングの内容 学んだことを確認して次へつなげるために、小テストを実施する。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 地域福祉の概念と理論、コミュニティ政策 3 地域社会の変化 4 多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズ 5 地域福祉と社会的孤立、地域包括ケアシステム① 6 地域包括ケアシステム②、生活困窮者自立支援制度① 7 生活困窮者自立支援制度②、包括的支援体制と地域共生社会 8 地域福祉ガバナンス 9 多機関協働、各種相談機関の連携協働 10 多職種連携、福祉以外の分野との機関協働の実際 11 地域福祉の概念と理論① 12 ゲスト講師による講義 13 地域福祉の概念と理論②、地域福祉の歴史 14 地域福祉の動向 15 地域福祉の推進主体① 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 授業の該当箇所の教科書を読み、わからない言葉などを調べておく。 授業で取り扱った箇所の教科書を読みつつ、講義資料などを用いて講義内容を整理する。</p>			
成 績 評 価 方 法	学期末試験 80%、小テスト・リアクションペーパー20%			
教 科 書 (購 入 必 須)	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座6 地域福祉と包括的支援体制 第2版』(中央法規)			
参 考 書 (購 入 任 意)	加山 弾、熊田博喜、中島 修、山本美香『ストーリーで学ぶ地域福祉』(有斐閣)			

科 目 名	地域福祉論Ⅱ			
科 目 名 (英 語)	Community-Based Social Work Ⅱ	シラバスNo.	260030250	
担 当 教 員 名	小泉 隆文			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件 教職(高福)・社福士・精保士:必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	社会福祉士としての障害福祉サービス事業所における実務経験をふまえ、理論と実践を結びつける講義である。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1: ___ DP2: ___ DP3: ___ DP4: ○ DP5: ◎			
学 修 到 達 目 標	①地域を基盤としたソーシャルワークの方法について理解できる ②災害時における総合的かつ包括的な支援体制について理解できる ③福祉計画の機能や策定過程について理解できる ④福祉行政と財政について理解できる			
受 講 の 留 意 点	教科書と講義資料を中心に授業を進める。教科書に記載のない事項も積極的に取り扱う。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>今日の社会福祉における取組は、地域を実践単位として行われることが多くなっている。地域とは地域住民の生活の場であり、住民を主体として具体的に実践・展開していく必要があるからであり、その実践の中で福祉サービスを必要とする人の生活課題へ介入し支援していくことが、社会福祉実践には求められる。そのため、地域福祉を考えていくためには、「何のための地域福祉なのか」「誰のための地域福祉なのか」を理解していく必要がある。</p> <p>本科目では、地域社会、地域福祉の概念や理論、歴史的発展過程を踏まえ、地域福祉実践がどのような役割を担うのか、考察を深めていく</p>			
	<p>アクティブ・ラーニングの内容 学んだことを確認して次へつなげるために、小テストを実施する。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 地域福祉の推進主体② 3 地域福祉の主体と福祉教育、地域を基盤としたソーシャルワークの方法① 4 地域を基盤としたソーシャルワークの方法②、住民の主体形成 5 住民の主体形成②、地域を基盤としたソーシャルワークの展開、子どもと地域福祉 6 非常時や災害時における法制度 7 非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援 8 災害時のソーシャルワーク 9 福祉計画の目的・機能、都道府県や市町村の福祉計画 10 福祉計画の策定方法 11 福祉計画のニーズ把握と評価 12 国、都道府県、市町村の役割 13 福祉行政の組織と専門職① 14 福祉行政の組織と専門職②、福祉の財源① 15 福祉の財源② 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 授業の該当箇所の教科書を読み、わからない言葉などを調べておく。 授業で取り扱った箇所の教科書を読みつつ、講義資料などを用いて講義内容を整理する。</p>			
成 績 評 価 方 法	学期末試験 80%、小テスト・リアクションペーパー 20%			

教科書 (購入必須)	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座6 『地域福祉と包括的支援体制 第2版』(中央法規)
参考書 (購入任意)	加山 弾、熊田博喜、中島 修、山本美香『ストーリーで学ぶ地域福祉』(有斐閣)

科 目 名	障害者福祉論 I			
科 目 名 (英 語)	Social Welfare for Persons with Disabilities I	シラバスNo.	260030260	
担 当 教 員 名	堀 智久			
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件 教職(高福)・社福士・精保士:必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ○ DP3 : ○ DP4 : ○ DP5 : ○			
学 修 到 達 目 標	障害者福祉とは、障害者の社会生活上の問題を社会福祉サービスや社会福祉の援助方法を用いて解決しようとする施策と実践の総称をいう。本講義では、第一に、障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。第二に、障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解する。第三に、障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。第四に、障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切な支援のあり方を理解することをねらいとする。			
受 講 の 留 意 点	配布資料の自己管理をしっかりと行うこと。必ず復習しましょう。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	授業の計画にあるように、実態、歴史、障害(者)の概念等について学び、また障害者総合支援法をはじめとする障害者福祉に関する法制度について学習する。福祉サービスとその実施体制、専門職の役割や実際等について学ぶとともに、他職種連携、ネットワーク等望ましいあり方についても取り上げたい。			
	アクティブ・ラーニングの内容 障害者福祉論 I では、教員による講義形式の学習形態のみならず、ディスカッションやグループワークなどの学習形態を通して、学習者の能動的な参加を求めている。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 障害概念と特性(1) 国際生活機能分類 (ICF) 2 障害概念と特性(2) 障害者の定義と特性 3 障害者の生活実態と障害者を取り巻く社会環境 4 障害者福祉の歴史(1) 障害者福祉の理念、障害者の権利条約と障害者基本法 5 障害者福祉の歴史(2) 障害観の変遷、障害者処遇の変遷、障害者福祉制度の発展過程 6 障害者に対する法制度(1) 障害者総合支援法の概要 7 障害者に対する法制度(2) 障害者総合支援法における障害福祉サービス及び相談支援 8 障害者に対する法制度(3) 障害者総合支援法における障害支援区分及び支給決定 9 障害者に対する法制度(4) 障害者総合支援法における自立支援医療費、補装具、地域生活支援事業、障害福祉計画 10 障害者に対する法制度(5) 児童福祉法、身体障害者福祉法 11 障害者に対する法制度(6) 知的障害者福祉法、精神保健福祉法、発達障害者支援法 12 障害者に対する法制度(7) 障害者差別解消法、障害者雇用促進法 13 障害者に対する法制度(8) 障害者虐待防止法、バリアフリー法、障害者優先調達推進法 14 障害者と家族等の支援における関係機関と専門職等の役割 15 障害者と家族等に対する支援における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割と支援の実際 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習 90 分：授業内容の理解を高めるため、指定されたテキストの事前学習を行う。 復習 90 分：授業内容の理解を高めるため、配布資料の事後学習を行う。			
成 績 評 価 方 法	リアクションペーパー・宿題 (40 点)、レポート課題 (30 点)、期末試験 (30 点)			

教科書 (購入必須)	テキストについては別途周知する。また、毎回、関連する資料を配布する。
参考書 (購入任意)	

科 目 名	障害者福祉論Ⅱ			
科 目 名 (英 語)	Social Welfare for Persons with Disabilities Ⅱ	シラバスNo.	260030270	
担 当 教 員 名	堀 智久			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 教職(高福):必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ○ DP3 : ○ DP4 : ○ DP5 : ○			
学 修 到 達 目 標	障害者福祉論Ⅰの内容を受け、より発展的かつ実践的な講義をおこなう。また、障害者福祉論Ⅱでは、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・ソーシャルワーク実習Ⅱとの関連性も考慮し、今日の障害者福祉に関する法制度のあり方や専門職のケアマネジメントなどについて学習を展開する。そのなかで、障害の社会モデルの考え方や自己決定支援、家族支援、今日の障害者福祉法制度の変化・改正の流れなどを学び、今日何が課題となっているかについて学びを深めていく。			
受 講 の 留 意 点	講義のなかで、随時発言を求めながら進めていく。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	本講義では、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・ソーシャルワーク実習Ⅱとの関連性も考慮し、今日の障害福祉現場の課題を取り上げる。また、今日的なテーマを意図的に取り上げることで、多くの学生が障害者福祉を身近に感じてもらえるように配慮するとともに、障害者福祉論Ⅰと障害者福祉論Ⅱの講義が相まって学習効果をあげるように進行する。 アクティブ・ラーニングの内容 障害者福祉論Ⅱでは、教員による講義形式の学習形態のみならず、ディスカッションやグループワークなどの学習形態を通して、学習者の能動的な参加を求めている。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 障害者権利条約はどのようにして生まれたか 2 障害の概念、障害観の変遷 3 社会モデルとは、障害者差別とは 4 障害者の法的定義 5 日本の障害者団体の取り組み、障害者運動の歴史 6 海外の障害者団体の取り組み、障害者運動の歴史 7 地域での自立生活、介助者の関係性 8 知的障害についての事例：知的障害者に対する就労支援 9 身体障害についての事例：在宅療養するALS患者を支える 10 精神障害についての事例：精神科病院からの退院支援 11 障害福祉現場における相談支援の実践：インテーク場面での実践と書類作成 12 障害福祉現場における相談支援の実践：アセスメント場面での実践と書類作成 13 障害福祉現場における相談支援の実践：プランニング場面での実践と書類作成 14 障害福祉現場におけるケアマネジメント 15 高齢障害者の問題、総合支援法と介護保険法の関係性 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習 90 分：授業内容の理解を高めるため、指定されたテキストの事前学習を行う。 復習 90 分：授業内容の理解を高めるため、配布資料の事後学習を行う。			
成 績 評 価 方 法	リアクションペーパー・宿題 (40 点)、レポート課題 (30 点)、期末試験 (30 点)			

教科書 (購入必須)	テキストについては別途周知する。また、毎回、関連する資料を配布する。
参考書 (購入任意)	

科 目 名	権利擁護と成年後見				
科 目 名 (英 語)	Advocacy and adult guardianship	シラバスNo.	260030280		
担 当 教 員 名	佐藤 みゆき				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	社福士・精保士:必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	権利擁護(苦情解決第三者機関)の相談員の経験を持つ教員が、社会福祉士、精神保健福祉士として必要とされる権利擁護に関する法制度の知識、支援の実際について教授する科目				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ___ DP3 : ___ DP4 : ○ DP5 : ___				
学 修 到 達 目 標	<p>1 法に共通する基礎的な知識を身につけるとともに、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の基礎を理解する。</p> <p>2 権利擁護の意義と支える仕組みについて理解する。</p> <p>3 権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。</p> <p>4 権利擁護活動を実践する過程で直面する問題を、法的観点から理解する。</p> <p>5 ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解する。</p>				
受 講 の 留 意 点	<p>ソーシャルワーク、日常生活と法との関連について、常に考察しながら主体的に学びを深めてほしい。</p> <p>六法を活用し、条文をこまめに引くこと。</p>				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>本授業は、権利擁護の意義とそれを支える法制度への理解を深め、ソーシャルワーカーが関わる成年後見制度の概要を学び、その実際を知ることを目的とする。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 授業の最後にリアクションペーパーでその回の感想、質問を書いてもらい、次回取り上げることで双方化を図る。</p>				
授 業 の 計 画	<p>1 オリエンテーションと法の基礎</p> <p>2 ソーシャルワークと法の関わり(1) -憲法</p> <p>3 ソーシャルワークと法の関わり(2) -行政法</p> <p>4 ソーシャルワークと法の関わり(3) -民法①民法総則</p> <p>5 ソーシャルワークと法の関わり(4) -民法②契約</p> <p>6 ソーシャルワークと法の関わり(5) -民法③不法行為</p> <p>7 ソーシャルワークと法の関わり(6) -民法④親族</p> <p>8 ソーシャルワークと法の関わり(7) -民法⑤相続</p> <p>9 権利擁護の意義と支える仕組み(1) -権利擁護の意義、福祉サービスの適切な利用、苦情解決の仕組み</p> <p>10 権利擁護の意義と支える仕組み(2) -虐待防止法の概要、差別禁止法の概要、意思決定支援ガイドライン</p> <p>11 権利擁護で直面しうる法的諸問題</p> <p>12 権利擁護に関わる組織、団体、専門職</p> <p>13 成年後見制度(1) -成年後見の概要、後見の概要、保佐の概要、補助の概要</p> <p>14 成年後見制度(2) -任意後見の概要、成年後見制度の最近の動向、成年後見制度利用支援事業</p> <p>15 成年後見制度(3) -日常生活自立支援事業</p>				

<p>授業時間外学修 (予習・復習)の内容</p>	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習(1 時間):次回の項目に関する福祉課題を想起し、関心に応じて専門用語などをインターネットなどで調べておく。 復習(3 時間):講義レジュメの振り返りをし、各回の内容に応じた国家試験問題を解いて理解度を確認する。</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>定期試験 60 点 中間レポート 30 点 毎回のリアクションペーパーによる授業への積極的参加状況 10 点の合計点で評価する。</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>教員作成のレジュメを毎回配布して教材とする。 ミネルヴァ社会福祉小六法 2026 ミネルヴァ書房 は必携。</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>講義の中で適宜指示する。</p>

科 目 名	更生保護				
科 目 名 (英 語)	Judicial Social Services	シラバスNo.	260030290		
担 当 教 員 名	江連 崇				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職(高福)・社福士・精保士:必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1: ___ DP2: ___ DP3: ◎ DP4: ○ DP5: ___				
学 修 到 達 目 標	① 刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを理解する。 ② 刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について理解する。 ③ 刑事司法の制度に係る関係諸機関等の役割について理解する。				
受 講 の 留 意 点	教科書と講義資料を中心に授業を進める。教科書に記載のない事項も積極的に取り扱う。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	本講義では、刑事司法の動向と制度についての学び、(元)被收容者の社会復帰のために必要な施設内処遇と社会内処遇の連携、そしてソーシャルワーカーの役割についての理解を深める。				
	アクティブ・ラーニングの内容 授業内で個人ワークやグループワークの演習を設け、質疑応答の時間を確保する。授業終了時にリアクションペーパーの提出を求め、次回の授業時に解説を行い、双方向の授業を推進する。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 犯罪原因論 2 刑法の基本原理 3 犯罪の成立要件と責任能力 4 刑罰・刑事手続の流れ 5 少年法と非行問題 6 施設内処遇① 成人 7 施設内処遇② 少年 8 更生保護制度① 制度の概要・生活環境の調整 9 更生保護制度② 仮釈放等 10 更生保護制度③ 保護観察・更生緊急保護 11 医療観察制度 12 更生保護の実際① 再犯・再非行の状況 13 更生保護の実際② 専門職の役割 14 更生保護の実際③ 専門職の連携 15 まとめ				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間				
	【授業時間外学修時間の主な内容】 授業計画の項目に沿った社会福祉に関する資料を読み込んでおくこと。 授業内容やその日の学びを振り返りノートにまとめること。 講義の疑問点、感じたこと等をリアクションペーパーにて提出すること。				
成 績 評 価 方 法	各回のリアクションペーパー (30 点)、学期末テスト (70 点) によって、総合的に評価する。				

教科書 (購入必須)	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座／精神保健福祉士養成講座⑩ 刑事司法と福祉』(中央法規)
参考書 (購入任意)	特になし

科 目 名	医学概論			
科 目 名 (英 語)	Introduction to Medicine	シラバスNo.	260030300	
担 当 教 員 名	塚原 高広			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 社福士・精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	大学病院（内科医師 1 年・総合診療科医師 1 年）、2 次救急公立病院（内科医師 2 年）、3 次救急民間病院（総合診療科医師 1 年）の実務経験がある。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	生体としての人の解剖生理学的な仕組み、重要な疾病・障害の病態生理、症状、診断治療についての基礎的な医学的知識を習得し、医学的な説明ができる。			
受 講 の 留 意 点	教科書および講義資料を中心に授業を進める。復習しても理解できない部分は、次回の講義時などに質問すること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	疾病について学ぶためには、正常の人体の構造と機能の理解が不可欠である。そのため、はじめに総論および人体の解剖生理の基本的な知識を学んだのち、疾病や障害の原因、発症機序、病態生理、症状・合併症、検査・診断法、治療法について習得する。 アクティブ・ラーニングの内容：課題（問題演習・リアクションペーパー）提出と教員によるフィードバック			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ライフステージにおける心身の特徴 2 心身の加齢・老化、ライフステージ別の健康課題 3 健康と疾病の概念・捉え方、国際生活機能分類、身体構造と心身機能（1）：器官 4 身体構造と心身機能（2）体液、循環器 5 身体構造と心身機能（3）泌尿器・呼吸器・消化器 1 6 身体構造と心身の機能（4）消化器 2・神経 1 7 身体構造と心身の機能（5）神経 2・内分泌 8 身体構造と心身の機能（6）生殖器・筋・骨格 9 身体構造と心身機能（7）皮膚・感覚器、疾病の発生原因と成立機序 10 疾病と障害（1）リハビリテーション、神経疾患 1 11 疾病と障害（2）神経疾患 2、循環器疾患 12 疾病と障害（3）内分泌・代謝疾患、呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患 1 13 疾病と障害（4）腎・泌尿器疾患 2、消化器疾患、骨・関節疾患 14 疾病と障害（5）血液疾患、免疫・アレルギー疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患、口腔疾患 15 疾病と障害（6）産婦人科疾患、精神疾患、小児疾患、高齢者疾患、緩和ケア 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習（90 分）指定教科書で次回の講義範囲を読み、専門用語の定義を確認すること。 復習（90 分）指定教科書や参考書の講義範囲を再読して、知識を整理しておくこと。			
成 績 評 価 方 法	期末試験（100 点）により評価する。			
教 科 書 (購 入 必 須)	社会福祉士養成講座編集委員会編『医学概論』中央法規出版（2021 年）			
参 考 書 (購 入 任 意)	エレイン N. マリーブ『人体の構造と機能 第 4 版』医学書院（2015 年）			

科 目 名	ソーシャルワーク論Ⅲ			
科 目 名 (英 語)	Social work theory Ⅲ	シラバスNo.	260030310	
担 当 教 員 名	嘉村 藍			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 教職(高福)・社福士・精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	① 人と環境の交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。 ② ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。			
受 講 の 留 意 点	本科目は、社会福祉士・精神保健福祉士の受験資格を取得するために必須の科目である。 また、事前にテキストを読む、事後にノートにまとめるなどの予習と復習をすること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	テキストに沿って、人と環境の交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて概説する。次に、ソーシャルワークの展開過程について段階ごとに概説する。			
	アクティブ・ラーニングの内容 一部、事例を提示して、学生に検討する時間を設ける			
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション：人と環境の交互作用 2 人と環境の交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：システム理論① 3 人と環境の交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：システム理論② 4 人と環境の交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：生態学理論 5 人と環境の交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：バイオ・サイコ・ソーシャルモデル 6 人と環境の交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク 7 ソーシャルワークの過程：概要とケースの発見 8 ソーシャルワークの過程：アセスメント 9 ソーシャルワークの過程：プランニング 10 ソーシャルワークの過程：支援の実施、モニタリング 11 ソーシャルワークの過程：支援の終結と事後評価 12 ソーシャルワークの記録 13 ケアマネジメント① 14 ケアマネジメント② 15 集団を活用した支援			
授 業 時 間 外 学 修 (予習・復習)の内容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 配布する紙版(または電子版)のシラバスには、予習・復習該当ページを示すので、予・復習を行うこと。 予習：事前にテキストを読み、疑問点や理解できない箇所をまとめる 復習：講義内容をノートにまとめ、解消されていない疑問点を調べる。			

成績評価方法	レポート2回(各20点) 定期テスト60点
教科書 (購入必須)	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編(2021)「ソーシャルワークの理論と方法[共通科目],中央法規出版 *ただし、本が改訂されたり最新版が出た場合には、こちらを使用するので注意すること。
参考書 (購入任意)	適宜提示する。必要に応じて、該当箇所を印刷して配布する。

科 目 名	ソーシャルワーク論V			
科 目 名 (英 語)	Social Work Approach V	シラバスNo.	260030320	
担 当 教 員 名	保田 真希			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 教職(高福)・社福士:必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ○ DP3 : ___ DP4 : ___ DP5 : ___			
学 修 到 達 目 標	①学生がソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解することができる。 ②学生がグループを活用した支援について理解することができる。 ③学生がソーシャルワークにおけるスーパービジョンとコンサルテーションについて理解することができる。			
受 講 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストと講義資料を中心に講義を進める。 ・ソーシャルワーク論Ⅰ～Ⅳで学んだことを十分に理解していることを前提に展開するので、よく復習をしておくこと。 ・本講義の履修にあたっては、講義と同等時間の予習と復習を求める。講義・演習・実習は連続したものであることを意識して学ぶこと。 ・予習はシラバスに沿って、該当する内容をテキストで確認しておくこと。 			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>本講義では、学生が実践で活かせるように、ソーシャルワークにおける代表的な実践モデルとアプローチについて学ぶ。また、地域に根ざしたソーシャルワーク実践を行うために、コミュニティワークの意義と目的および展開過程を概観する。さらに、実践を振り返るために、スーパービジョンとコンサルテーションの意義・目的・方法について理解を深める。学生はこれらの学びを通して、社会福祉士あるいは精神保健福祉士として実践するにあたって必要なソーシャルワークの理論と方法を修得できるようにする。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 教員による講義形式に加え、事例検討を通して、学習者が主体的に思考・議論し、能動的に参加する姿勢を求めている。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方、治療モデル、ストレングスモデル、生活モデル(ライフモデル)、バイオ・サイコ・ソーシャルモデル 3 心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ 4 課題中心アプローチ、行動変容アプローチ、認知アプローチ 5 危機介入アプローチ、エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ 6 解決志向アプローチ、さまざまなアプローチ 7 記録の意義と目的、内容、フォーマット 8 ケアマネジメントの原則、意義、方法 9 ケアマネジメントの展開 10 グループワークの意義と目的 11 グループワークの展開過程 12 コミュニティワークの意義、目的 13 コミュニティワークの展開 14 ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクション 15 スーパービジョンとコンサルテーションの意義、目的、方法 			
授 業 時 間 外 学 修	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間			

<p>(予習・復習)の内容</p>	<p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習 90分：授業内容の理解を高めるため、指定されたテキストの事前学習を行う。 復習 90分：授業内容の理解を高めるため、配布資料の事後学習を行う。</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>リアクションペーパー・課題 (30点)、試験 (70点)</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座⑫』 『ソーシャルワークの理論と方法 (共通科目)』(中央法規)</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>講義時に、随時紹介する。</p>

科 目 名	高齢者福祉論 I				
科 目 名 (英 語)	Welfare for the Elderly Persons I	シラバスNo.	260030330		
担 当 教 員 名	黄 京性				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	社福士・教職（高福）：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：○				
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の定義や身体的・精神的特性を知り、当事者及び家族への必要な支援内容などを理解できるようになる ・少子高齢社会日本における高齢者を取り巻く環境について現状を学び、問題及び課題に取り組むようになる ・高齢者関連の法制度・政策を学び、仕事上の実践で活用できるようになる ・高齢者を支える様々な地域の組織及び機関などの機能を学び、ソーシャルワーカーとして相談・援助・連携などができるようになる 				
受 講 の 留 意 点					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>日本が高齢社会へ至るまでの家庭的・社会的状況における歴史的な変化を理解し、それを支えてきている高齢者福祉関連の法律・制度・政策の成立と変化をも理解する。最終的には、高齢者を取り巻く社会的状況（家族関係を含む）に基づいた関連制度政策を理解した上で福祉の専門職としての知識と課題解決能力が持てるようになる。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容：各々のテーマについて、日本社会を中心とした高齢者の実態を理解した上で福祉的観点から自分の考えを表現できるように、学生自身の意見と他学生との意見交換の機会を多く取り入れることでソーシャルワーカーとしての素養を涵養する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者の定義と特性について学習する。 2 高齢者・高齢期の特徴、とりわけ心理・社会的特性を中心に学ぶ。昔の高齢者や高齢期の特徴と現代における社会状況などの変化による影響を交えながら理解する。 3 家族システムの変化などを中心に、昔の高齢者や高齢期の特徴と現代における社会状況などの変化による影響を交えながら理解する。 4 高齢者福祉の成り立ちと変化を歴史的流れに沿って理解する。 5 高齢者特有の法律の成立への道のりと周辺の関連法律などの影響なども照らし合わせながら学ぶ。 6 高齢者医療において老人医療費支給制度が現代に与えた意味および意義を振り返りつつ、現行の高齢者保健医療の制度までの変化を理解する。 7 高齢者対策基本法の成立の背景及び意義を理解したうえで、法律に基づき設けられた大綱の主な内容、そして最近の改正における特徴などを学ぶ。 8 介護保険法の制定の背景から介護保険制度に至るまでの経緯を学ぶ。 9 2000年4月の介護保険制度の施行同時の内容と主な改正の特徴を学ぶ。 10 介護保険制度の各種給付と全体像を理解する。 				

	<p>11 高齢者虐待の昔から最近の状況を理解しつつ、同時に関連法制度の中身と社会福祉士の仕事関連の内容をも学ぶ。</p> <p>12 地域包括支援センターおよび介護支援専門員を中心とした様々な高齢者と家族の相談から情報提供などの支援に関係する組織および専門職などを学ぶ。</p> <p>13 急増する認知症の方の推移と特徴、それに伴う社会及び家族、とりわけ制度影響を理解したうえで、オレンジプランを中心として対策について学習する。</p> <p>14 高齢者と家族等に対する支援の実際として、社会福祉士の役割と多職種連携などについて学ぶ。</p> <p>15 高齢者福祉で学んで内容の総合的な復習をする。</p>
授業時間外学修 (予習・復習)の内容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に読んでおく資料の配布及び情報を提供し予習・復習の内容を明確にする ・授業時に示す課題についてレポートを作成する
成績評価方法	テスト(90点)と課題への取り組み(10点)など、(授業妨害行為は減点の対象)
教科書 (購入必須)	最新 社会福祉士養成講座 2 高齢者福祉 (2025 年、中央法規)
参考書 (購入任意)	高齢社会白書、介護保険六法など

科 目 名	高齢者福祉論Ⅱ			
科 目 名 (英 語)	Welfare for the Elderly Persons Ⅱ	シラバスNo.	260030340	
担 当 教 員 名	黄 京性			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ○ DP3 : ___ DP4 : ___ DP5 : ○			
学 修 到 達 目 標	<p>「高齢者福祉論Ⅰ」で学習してある高齢者及び高齢期の特徴と高齢者を支える諸法制度及び施策に関する知識をもとに、高齢社会の現状とそこから生じる諸問題・課題などを知ると同時に解決のための実際の取り組みなどについて事例を通して実践への応用能力をつける。</p> <p>・高齢者を支える様々な地域の組織及び機関などの機能を学び、ソーシャルワーカーとして相談・援助・連携などができるようになる。</p>			
受 講 の 留 意 点	「高齢者福祉論Ⅰ」の単位を修得している者			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>日本が高齢社会へ至るまでの家庭的・社会的状況における歴史的な変化を理解し、それを支えてきている高齢者福祉関連の法律・制度・政策の成立と変化をも理解する。最終的には、高齢者を取り巻く社会的状況（家族関係を含む）に基づいた関連制度政策を理解した上で福祉の専門職としての知識と課題解決能力が持てるようになる。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容：各々のテーマについて、日本社会を中心とした高齢者の実態を理解した上で福祉的観点から自分の考えを表現できるように、学生自身の意見と他学生との意見交換の機会を多く取り入れることでソーシャルワーカーとしての素養を涵養する。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 本授業に関する到達目標と前期講義の概略を整理する。 とりわけ、超高齢社会日本の現状を理解する。 2 超高齢社会が抱える様々な問題および課題を理解したうえでその取り組みの現状を学習する。 3 要介護者の推移と介護保険制度の変化から見える現実を理解したうえでこれからの予想しつつその対応を考える。 4 地域包括ケアシステムの意味・意義及びその支え手について学ぶ。 5 高齢者を支援する様々な行政及び民間団体などの組織と機能について学ぶ。 6 欧米及びアジアの国々の状況と取り組みについて学びこれからの対応などを考える。 7 認知症の高齢者の推移と関連する社会問題と政策、特にオレンジプランを中心とした政策及び様々な取り組みについて学ぶ。 8 (事例検討) 環境の変化がクライアントや家族に与える影響に対して必要な支援について考える。 9 (事例検討) 地域における認知症高齢者の支援の方法について考える。 10 (事例検討) 家族介護者への支援の方法について考える。 			

	<p>11 (事例検討) 家庭内虐待への対応と加害者への支援について考える。</p> <p>12 (事例検討) 施設内虐待への対応と予防策について考える。</p> <p>13 (事例検討) 高齢者の地域生活を支えていくための専門職および地域住民のつながりの形成方法と支援の必要性について考える。</p> <p>14 (事例検討) 災害弱者への支援体制について考える。</p> <p>15 今後の高齢者福祉におけるソーシャルワークの役割について学ぶ。</p>
授業の予習・復習 学修時間の割り当て	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に読んでおく資料の配布及び情報を提供し予習・復習の内容を明確にする ・授業時に示す課題についてレポートを作成する
成績評価方法	テスト(90 点)と課題への取り組み(10 点)など、(授業妨害行為は減点の対象)
教科書 (購入必須)	最新 社会福祉士養成講座 2 高齢者福祉 (2025 年、中央法規)
参考書 (購入任意)	高齢社会白書、介護保険六法など

科 目 名	子ども家庭福祉論 I				
科 目 名 (英 語)	Theory of Child and Family Welfare I	シラバスNo.	260030350		
担 当 教 員 名	保田 真希				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	社福士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：___ DP3：◎ DP4：○ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	<p>①児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について理解する。</p> <p>②児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について理解する。</p> <p>③児童や家庭福祉に係る法制度について理解する。</p> <p>④児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について理解する。</p> <p>⑤児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解する。</p>				
受 講 の 留 意 点	<p>新聞記事やニュースなどを常にチェックをし、子ども・家族を取り巻く社会構造や法制度の変化、現代的な課題等に関心を持つように心がけてください。また、予習・復習を行い、学びの深化に繋がしましょう。</p>				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>上記の学習達成目標を達成するために、1. 現代社会における子どもと家族を取り巻く社会構造と生活、必要とされる支援（子育て、貧困、ひとり親、非行、児童虐待）について理解する。2. 子ども観の変遷と子ども家庭福祉制度の歴史を理解する。3. 子どもの権利について理解する。4. 子ども家庭福祉に係る法制度および具体的課題と施策について理解する。5. 子ども家庭福祉を担う専門職のあり方について理解する。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 教員による講義形式に加え、グループワークを通して、学習者が主体的に思考・議論し、能動的に参加する姿勢を求めている。</p>				
授 業 の 計 画	<p>1 オリエンテーション：現代社会における子ども家庭福祉</p> <p>2 子ども・家庭の定義と権利</p> <p>3 子ども・家庭の生活実態と取り巻く環境①：ライフサイクル、人口減少社会と少子高齢化</p> <p>4 子ども・家庭の生活実態と取り巻く環境②：いじめ、児童虐待・DV、貧困、非行</p> <p>5 子ども・家庭の生活実態と取り巻く環境③：子育て環境の変化、ひとり親家庭、社会的養護</p> <p>6 子ども・家庭福祉の歴史①：海外における歴史の変遷</p> <p>7 子ども・家庭福祉の歴史②：日本国内における歴史の変遷</p> <p>8 子ども・家庭に関する法制度①：児童福祉法、児童虐待防止法等</p> <p>9 子ども・家庭に関する法制度②：DV防止法、母子及び父子並びに寡婦福祉法等</p> <p>10 子ども・家庭に関する法制度③：母子保健法、児童手当法、児童扶養手当法等</p> <p>11 子ども・家庭に関する法制度④：少子化対策基本法、子ども・子育て支援法、子どもの貧困対策、いじめ防止対策推進法等</p> <p>12 子ども・家庭に対する支援における関係機関と専門職の役割：国・都道府県・市町村の役割、児童相談所の役割、女性・若者支援、専門職の役割等</p> <p>13 子ども・家庭に対する支援の実際①：児童虐待に関わる支援等</p> <p>14 子ども・家庭に対する支援の実際②：子どもの貧困、外国にルーツがある子どもと家庭への支援等</p> <p>15 子ども家庭福祉の課題と展望：こどもまんなか社会の実現に向けた動向</p>				
授 業 時 間 外 学 修	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間				

<p>(予習・復習)の内容</p>	<p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習 90分：授業内容の理解を高めるため、指定されたテキストの事前学習を行う。 復習 90分：授業内容の理解を高めるため、配布資料の事後学習を行う。</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>リアクションペーパー・課題 (40点)、試験 (60点)</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座③ 児童・家庭福祉 第2版』、中央法規、2025年。</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>講義時に、随時紹介する。</p>

科 目 名	こども家庭福祉論Ⅱ			
科 目 名 (英 語)	Theory of Child and Family Welfare Ⅱ	シラバスNo.	260030360	
担 当 教 員 名	保田 真希			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ____ DP2 : ____ DP3 : <u>○</u> DP4 : <u>◎</u> DP5 : ____			
学 修 到 達 目 標	<p>本講義は子ども家庭福祉論Ⅰの内容を踏まえ、より発展的かつ実践的な講義を行う。具体的には、下記についての理解を深めていく。</p> <p>①子どもや家族を取り巻く状況や困難等（DV，貧困，虐待等）について理解を深める。</p> <p>②事例で子どもの権利が尊重されない状況も扱い，子どもの権利についての理解を深める。</p> <p>③事例を通して，子ども家庭ソーシャルワークについての理解を深める。</p>			
受 講 の 留 意 点	<p>新聞記事やニュースなどを常にチェックをし、子ども・家族を取り巻く社会構造や法制度の変化、現代的な課題等に関心を持つように心がけてください。</p> <p>また、事例検討の際に、グループワークで意見交流を行います。</p>			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>本講義では、子どもや家族を取り巻く状況や家族が直面する困難に関する理解を深め、これまで学んだソーシャルワーク演習・実習の経験や知識・技術も関連させながら、実践的な講義を行う。グループワークなどで事例を検討し、より具体的な解決策を検討していく。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 教員による講義形式に加え、グループワークを通して、学習者が主体的に思考・議論し、能動的に参加する姿勢を求めている。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：「こどもまんなか社会」と子ども・家族を取り巻く環境 2 慈善・恩恵から権利保障へ：子ども家庭福祉の歴史の変遷と子どもの権利 3 子どもの貧困と家族 4 貧困とケア：ひとり親世帯の貧困と子育て支援 5 現代の子育てと家族① 家族・ジェンダーの視点から捉える生活構造（ケア・労働） 6 現代の子育てと家族② 子育て支援とソーシャルワーク 7 児童虐待と「マルトリートメント」 8 児童虐待とDV 9 児童虐待と児童相談所：事例検討 10 社会的養護の現状と課題① 社会的養護の現状と施策，社会的養育の推進に向けた動き 11 社会的養護の現状と課題② 事例検討と子どもの「パーマネンシー」の保障 12 いじめと子ども家庭ソーシャルワーク 13 子どもの非行 14 少子化対策と子育て支援 15 子ども・家族にかかわる専門職と連携：教育と福祉の連携 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習 90 分：授業内容の理解を高めるため、指定されたテキストの事前学習を行う。 復習 90 分：授業内容の理解を高めるため、配布資料の事後学習を行う。</p>			
成 績 評 価 方 法	リアクションペーパー・課題（40点），試験（60点）			

教科書 (購入必須)	講義時にレジユメを配布する。
参考書 (購入任意)	講義時に、随時紹介する。

科 目 名	公的扶助論				
科 目 名 (英 語)	Public Assistance	シラバスNo.	260030370		
担 当 教 員 名	永嶋 信二郎				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	社福士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：○ DP3：○ DP4：○ DP5：__				
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態と社会環境について理解する 2. 貧困の歴史について理解する。 3. 貧困に関わる法制度と支援の仕組みについて理解する。 4. 貧困による生活課題を踏まえたうえで、社会福祉士としての適切な支援について理解する。 				
受 講 の 留 意 点	<p>授業は教科書に基づいて行うとともに、それを基にしたパワーポイントと配布資料も用いて行う。</p> <p>また公的扶助については、貧困問題の深刻化に伴って、様々なメディアで取り上げられている。よって、日頃から公的扶助に関心を持ち、様々なメディアを通して、公的扶助に関する情報に触れておいてほしい。ただその情報を鵜呑みにせず、自分で考えて理解するようにしてほしい。</p>				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>公的扶助は、貧困に陥った人々を救済して、最低生活を保障する社会保障・社会福祉制度であり、「最後の安全網」として位置づけられている狭義のセーフティ・ネットである。そこで、この授業では、そのような公的扶助の役割と意義について学ぶ。</p> <p>そのため、本講義では、まず公的扶助の概念と歴史について学ぶとともにその対象である貧困の概念・実態・歴史について学ぶ。次に貧困に対する法制度である生活保護法、生活困窮者自立支援法、生活困窮者自立支援法、低所得者対策、そしてホームレス対策について学ぶ。その上で、貧困に対する支援における関係機関と専門職について学ぶとともに、貧困に対する支援の実際について理解する。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 宿題の一つとして、教員から出された課題に対して能動的に学習した成果を提出してもらうこととする。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 公的扶助とは何か 2 貧困の概念 3 貧困という生活実態と社会環境 4 貧困に対する福祉の理念と貧困観の変遷 5 公的扶助の歴史 6 生活保護制度（1） 7 生活保護制度（2） 8 生活保護制度（3） 9 生活困窮者自立支援制度 10 低所得者対策とホームレス対策 11 貧困に対する支援における公私関係と国・都道府県・市町村の役割 12 貧困に対する支援における福祉事務所・自立相談支援機関・その他の関係機関と専門職等の役割 13 貧困に対する支援における社会福祉士の役割と支援の視点・基本姿勢 14 生活保護制度における相談援助活動と自立支援 15 生活困窮者自立支援制度における自立支援 				
授 業 時 間 外 学 修	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間				

<p>(予習・復習)の内容</p>	<p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：翌週の授業内容に該当する教科書の箇所を熟読する 復習：宿題として配布するプリントに取り組むとともに、授業当日で取り扱った授業内容が記された教科書の該当箇所と配布資料を熟読する</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>宿題として配布するプリント（30%）と期末試験（70%）で評価する。</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2026）『最新社会福祉士養成講座 4 貧困に対する支援（第2版）』中央法規出版</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	

科 目 名	精神医学と精神医療			
科 目 名 (英 語)	Psychiatry	シラバスNo.	260030380	
担 当 教 員 名	久 智 行			
学 年 配 当	3年	単 位 数	4単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件 精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	精神科病院等で医師としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	① 精神疾患の分類を理解し、主な疾患の症状・経過・治療方法について説明できるようになる。 ② 精神医療と人権擁護の歴史を理解し、精神保健福祉法における入院形態や医療観察法を説明できるようになる。また、その中での精神保健福祉士の役割と法制度の課題を理解し、説明できるようになる。 ③ 精神科病院等におけるチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割を理解し、説明できるようになる。 ④ 早期介入、再発予防、地域生活支援における多職種・多機関連携の方法と、精神保健福祉士の役割を理解し、説明できるようになる。			
受 講 の 留 意 点				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	本授業では、代表的な精神疾患について、成因・症状・診断・治療・経過、そして本人や家族への支援の視点から理解を深める。さらに、精神科病院等における専門治療の内容と特性を学び、精神保健福祉士がチーム医療の一員として果たす役割を理解する。加えて、精神保健医療福祉における連携の重要性と、その中で精神保健福祉士が担うべき役割について考察する。 アクティブ・ラーニングの内容 リアクションペーパーや小レポートの記述を通じて意見を表現し、ディスカッションやグループワークによる他受講生との意見交換を行う。			
授 業 の 計 画	1 精神医学・医療の歴史 2 精神現象の生物学的基礎 3 精神障害の概念・健康 4 精神疾患の診断分類① 5 精神疾患の診断分類② 6 診断、検査・診断手順と方法 7 代表的な疾患とその症状、経過、予後① 8 代表的な疾患とその症状、経過、予後② 9 精神疾患の治療①(薬物治療、精神療法、脳刺激法) 10 精神疾患の治療②(作業療法、地域精神医療) 11 精神疾患患者の動向① 12 精神疾患患者の動向② 13 医療制度改革と精神医療① 14 医療制度改革と精神医療② 15 医療機関の医療機能の明確化	16 入院治療・専門病棟① 17 入院治療・専門病棟② 18 入院治療と人権擁護① 19 入院治療と人権擁護② 20 外来治療、在宅医療・外来① 21 外来治療、在宅医療・外来② 22 医療観察法における入院・通院治療① 23 医療観察法における入院・通院治療② 24 精神科医療機関における精神保健福祉士の役割① 25 精神科医療機関における精神保健福祉士の役割② 26 精神保健福祉士と協働する職種① 27 精神保健福祉士と協働する職種② 28 治療導入に向けた支援 29 再発予防や地域生活に向けた支援 30 まとめ		

<p>授業時間外学修 (予習・復習)の内容</p>	<p>総学修時間 180 時間 (4 単位×45 時間) うち授業時間 60 時間、授業時間外学修時間 120 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習は、授業計画に記載されたキーワードについて、教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。 復習は、授業で使用した資料を読み直し、ノートに整理すること。また、発展学習として授業内で示したトピックスや関連知識について、最新情報を調べ、理解を深めること。</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>定期試験 (70%)、課題・小テスト (30%)</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 (2021)『最新 精神保健福祉士養成講座 1 精神医学と精神医療』中央法規。</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>別途周知する。</p>

科 目 名	精神障害リハビリテーション論			
科 目 名 (英 語)	Mental Rehabilitation	シラバスNo.	260030390	
担 当 教 員 名	浦田 泰成・直嶋 美恵子			
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件 精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	病精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	①精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できる。 ②精神障害リハビリテーションプログラムの知識を援助場面で活用できる。 ③精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について理解し、援助場面で活用できる。			
受 講 の 留 意 点	本科目は講義形式により開講する。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指定科目である。 精神障害リハビリテーションの概念とプロセスや精神保健福祉士の役割について学び、活用できることをめざす。さらに精神障害リハビリテーションプログラムの知識を得て、援助場面で活用できるよう学修を進める。			
	アクティブ・ラーニングの内容 講義受講時に出た疑問や質問について、積極的に受講生同士で共有できるようにリアクションペーパーへの記入やその他グループワーク、ディスカッションを実施する。			
授 業 の 計 画	1 精神障害リハビリテーションの理念と定義 2 医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション 3 精神障害リハビリテーションの基本原則 4 精神障害リハビリテーションとソーシャルワークとの関係 5 地域及びリカバリー概念を基盤としたリハビリテーションの意義 6 精神障害リハビリテーションの構成及び展開①；精神障害リハビリテーションの対象 7 精神障害リハビリテーションの構成及び展開②；チームアプローチ・多職種連携 8 精神障害リハビリテーションの構成及び展開③；精神障害リハビリテーションのプロセス、精神保健福祉士の役割 9 医学的リハビリテーションプログラム 10 職業的リハビリテーションプログラム 11 社会的リハビリテーションプログラム 12 教育的リハビリテーションプログラム 13 家族支援プログラム 14 精神障害当事者や家族を主体としたリハビリテーション 15 依存症のリハビリテーション			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予習は、授業計画に記載されているキーワードについて事前に教科書の該当範囲を読んでおくこと。 復習は、授業で使用した資料を読み直し、ノートに整理すること。また、授業内で示したトピックス、関連知識について、最新の情報を調べ、理解を深めること。現在の精神保健福祉関連の法制度や事業の名称と合わせて関連づけて復習をしておくこと。			
成 績 評 価 方 法	課題の提出(40 点) 定期試験 (60 点)			

教科書 (購入必須)	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編. 最新 精神保健福祉士養成講座 3 精神障害リハビリテーション論. 中央法規
参考書 (購入任意)	別途周知する。

科 目 名	精神保健福祉制度論			
科 目 名 (英 語)	Mental Health and Social Welfare	シラバスNo.	260030400	
担 当 教 員 名	直嶋 美恵子			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	病精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：○ DP3：___ DP4：___ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	①精神障害者に関する法制度の体系について理解する。 ②精神保健福祉法、医療観察法等の医療に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。 ③生活支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。 ④生活保護制度や生活困窮者自立支援制度等の経済的支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。 ⑤障害者に関する法制度を適切に活用でき、法制度の限界と課題について考えることができる。			
受 講 の 留 意 点	本科目は講義形式により開講する。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指定科目である。 精神障害者に関する法制度について学び、精神保健福祉法、医療観察法等の医療に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解することをめざす。さらに、生活支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解し、幅広い視野で援助場面で活用できるよう学修を進める。			
	アクティブ・ラーニングの内容 講義受講時に出た疑問や質問について、積極的に受講生同士で共有できるようにリアクションペーパーへの記入やその他グループワーク、ディスカッションを実施する。			
授 業 の 計 画	1 精神障害者に関する法律の体系 2 精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割① 3 精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割② 4 医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割① 5 医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割② 6 精神障害者の医療に関する課題① 7 精神障害者の医療に関する課題② 8 相談支援制度と精神保健福祉士の役割 9 居住支援制度と精神保健福祉士の役割 10 就労支援制度と精神保健福祉士の役割 11 精神障害者の生活支援制度に関する課題 12 生活保護制度と精神保健福祉士の役割 13 生活困窮者自立支援制度と精神保健福祉士の役割 14 低所得者対策と精神保健福祉士の役割 15 精神障害者の経済的支援制度に関する課題			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予習は、授業計画に記載されているキーワードについて事前に教科書の該当範囲を読んでおくこと。 復習は、授業で使用した資料を読み直し、ノートに整理すること。また、授業内で示したトピックス、関連知識について、最新の情報を調べ、理解を深めること。現在の精神保健福祉関連の法制度			

	や事業の名称と合わせて関連づけて復習をしておくこと。
成績評価方法	課題の提出(40点) 定期試験(60点)
教科書 (購入必須)	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編. 最新 精神保健福祉士養成講座 4 精神保健福祉制度論. 中央法規
参考書 (購入任意)	別途周知する

科 目 名	ソーシャルワーク演習 I				
科 目 名 (英 語)	Social Work Seminar I	シラバスNo.	260030410		
担 当 教 員 名	佐藤(み)・堀・永嶋・榊原・江連・小泉・嘉村・石塚・保田				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	社福士・精保士・教職(高福)：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：___ DP3：___ DP4：___ DP5：○				
学 修 到 達 目 標	<p>① ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。</p> <p>② ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。</p> <p>③ ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。</p> <p>④ ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する。</p>				
受 講 の 留 意 点	<p>学生には、積極的な参加を求める。</p> <p>講義・演習・実習は連続したものであることを意識して学ぶこと。</p>				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>ソーシャルワークの知識と技術に関する他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士及び精神保健福祉士に求められているソーシャルワーク実践に関する知識と技術について、実践的に習得していく。ソーシャルワークにおける価値や倫理を踏まえ、コミュニケーション技術と方法の理解を通して、基本的な実践技法の習得ができるように学ぶ。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 グループワークを行う。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 演習をすることとは 2. ソーシャルワーカーが自己覚知すること 3. 基本的なコミュニケーション技術の理解①(言語的技術) 4. 基本的なコミュニケーション技術の理解②(非言語的技術) 5. 基本的な面接技術の理解(空間・距離のとり方・ツールの活用等) 6. ソーシャルワークの展開過程の理解①(ケースの発見・インテーク) 7. ソーシャルワークの展開過程の理解②(アセスメント) 8. ソーシャルワークの展開過程の理解③(プランニング・支援の実施) 9. ソーシャルワークの展開過程の理解④(モニタリング・カンファレンス) 10. ソーシャルワークの展開過程の理解⑤(支援の終結・事後評価・アフターケア) 11. ソーシャルワークの記録の理解 12. グループダイナミクスの活用理解①(グループワークの構成) 13. グループダイナミクスの活用理解②(グループワークの展開) 14. プレゼンテーション技術の理解①(個人プレゼンテーション) 15. プレゼンテーション技術の理解②(グループプレゼンテーション) 				
授 業 時 間 外 学 修 (予習・復習)の内容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <p>予習： 毎回の授業内容に関係する事項について、これまでの講義での該当箇所を整理し、わからない言葉などを調べておく。</p> <p>復習： 授業で取り扱った箇所の資料を用いて講義内容を整理する。</p>				

成績評価方法	各回の成果物と発表：50点 学期末レポート課題：50点
教科書 (購入必須)	特になし
参考書 (購入任意)	特になし

科 目 名	社会福祉調査				
科 目 名 (英 語)	Survey of Social Welfare	シラバスNo.	260030420		
担 当 教 員 名	黄 京性				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	社福士・精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：○ DP3：___ DP4：___ DP5：◎				
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉調査の意義・目的を理解用になる ・社会福祉調査の様々な方法に関する知識を理解する ・社会福祉調査がソーシャルワークに活用できるようになる 				
受 講 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉に関する諸分野の基礎知識を学んでいる 				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>社会福祉調査の知識を学び、ソーシャルワークの領域において実態や問題課題を明らかにするための適切な調査法を理解している。最終的には、福祉的ニーズを抱えている人や地域などを取り巻く社会的状況を解決するための調査の知識と課題解決方法を提案できる能力が持てるようになる。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容：各々のテーマについて、個人や集団そしてコミュニティーが抱えている福祉課題を調べることができよう、学生自身の意見と他学生との意見交換の機会を多く取り入れソーシャルワーカーとして実践的な能力を身につける。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉調査の意義と目的を理解する。 2 社会福祉調査と社会福祉の歴史及び統計法の概要を学習する。 3 社会福祉調査における倫理と個人情報保護などの注意点について理解する。 4 社会福祉調査における考え方や論理について学ぶ。 5 社会福祉調査の計画書の作成及びデータの収集・分析について学習する。 6 量的調査の種類と方法について理解する 7 質問紙の作成と留意点及び測定の水準について学習する 8 質問紙の作成の実際を学習する（その1） 9 質問紙の作成の実際を学習する（その2） 10 量的調査の集計と分析について学習する 11 質的調査の概要と方法について理解する 12 質的調査のサンプリングとデータの収集法について学習する 13 質的調査における記録と方法と留意点について理解する 14 質的データの分析方法について学習する 15 ソーシャルワークにおける評価について理解する 				
授 業 の 予 習 ・ 復 習 学 修 時 間 の 割 り 当 て	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に読んでおく資料の配布及び情報を提供し予習・復習の内容を明確にする ・授業時に示す課題についてレポートを作成する 				
成 績 評 価 方 法	テスト(90点)と課題への取り組み(10点)など、(授業妨害行為は減点の対象)				

教科書 (購入必須)	社会福祉調査の基礎 (2021年、中央法規)
参考書 (購入任意)	

科 目 名	基本介護技術		
科 目 名 (英 語)		シラバスNo.	260030430
担 当 教 員 名	川田 哲也		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択
開 講 時 期		資 格 要 件	教職(高福)：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容			
対 応 す る ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：___ DP3：___ DP4：___ DP5：___		
学 修 到 達 目 標	①体の仕組みを知ることにより、エビデンスに基づいた基本的な介護技術を習得することができる。 ②「自立」を目的とした介護技術を学ぶことにより、アセスメント能力の向上と介護のポイントを習得することができる。		
受 講 の 留 意 点	動きやすい服装		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	専門職として、介護の基礎知識を学んだ上で、本人の状態を把握し適切な方法で介助、支援できるポイントを学ぶ。		
	アクティブ・ラーニングの内容		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 なぜ、人は寝たきりになるのか？ 2 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは1（覚醒と座位の重要性） 3 移動、移乗介助1（寝返り～起き上がり） 4 移動、移乗介助1（寝返り～起き上がり） 5 移動、移乗介助1（寝返り～起き上がり） 6 移動、移乗介助2（立ち上がり～移動） 7 移動、移乗介助2（立ち上がり～移動） 8 移動、移乗介助2（立ち上がり～移動） 9 自立に向けた実践介護（食事・排泄、車いすなど） 10 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは2（水分補給の基礎知識と介助のポイント） 11 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは3（食事の基礎知識と介助のポイント） 12 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは4（排泄の基礎知識と介助のポイント） 13 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは5（入浴の基礎知識と介助のポイント） 14 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは6（認知症の基礎知識と対応方法） 15 講義のまとめ レポート 		
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習（30分）、復習（30分）		
成 績 評 価 方 法	（自己評価 30 点満点） + （レポート 70 点満点） = 100 点		
教 科 書 (購 入 必 須)	スライドにて説明		
参 考 書 (購 入 任 意)	介護基礎学 竹内孝仁 医歯薬出版（購入任意）		

科 目 名	医療福祉論			
科 目 名 (英 語)	Medical Welfare	シラバスNo.	260030440	
担 当 教 員 名	榊原 次郎			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 社福士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保健医療分野の社会福祉士・ケアマネジャーとして、病院 22 年、診療所 4 年の実務経験がある。その経験を通して、医療ソーシャルワーカーの援助技術および地域を基盤とする多職種・多機関の連携・協働について授業を行う。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：◎ DP3：○ DP4：__ DP5：__			
学 修 到 達 目 標	①医療福祉領域のソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を学び、保健医療に係る政策、制度、サービスについて、福祉との関係性を含め理解し習得できるようになる。 ②保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協働について理解し、保健医療の中で疾病や疾病に伴う課題を持つ人に対する、専門職としての適切な支援の実践方法を習得できるようになる。			
受 講 の 留 意 点	保健医療福祉領域の広がりや連携に重要な役割を果たす医療ソーシャルワークの業務について、保健医療サービスの現状について関心を持ち、各種資料や報道される内容を分析し、予習・復習に努めること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	医療現場における医療ソーシャルワーカー（MSW）の業務理解を通して、活用できるフォーマル・インフォーマルな社会資源やその連携方法を学ぶ。 病院だけでなく、診療所（クリニック）や在宅医療等地域の中で機能を発揮する MSW の具体的実践内容を知り、各種実習や社会生活で活用できるコミュニケーションスキル・面接技術を学ぶ。			
	アクティブ・ラーニングの内容 授業ごとに個人ワークおよびグループワークの演習を設け、質疑応答の時間を確保する。毎回授業終了時にリアクションペーパーの提出を求め、次回の授業時に解説を行い、双方向の授業を推進する。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割 2 疾病構造の変化に伴う保健医療の動向 3 保健医療における福祉的課題 4 保健医療の課題を持つ人（病者および家族）の理解 5 医療倫理と保健医療に係る倫理的課題 6 患者の権利と保健医療における意思決定支援 7 保健医療サービスを提供する施設とシステム（地域医療計画・医療施設・保健所の役割） 8 保健医療に係る政策・制度（医療保険制度・診療報酬制度） 9 介護保険制度と地域包括ケア 10 保健医療における社会福祉士の役割 11 医療ソーシャルワーカー業務指針（業務の範囲と方法） 12 保健医療における専門職と多職種連携実践（IPW） 13 地域の関係機関との連携・協働 14 医療ソーシャルワーカーの支援事例（入院中・退院時・災害現場における支援） 15 医療ソーシャルワーカーの支援事例（外来・在宅医療・終末期ケアにおける支援） 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 授業計画の項目に沿った医療福祉に関する資料を読み込んでおくこと。 授業内容やその日の学びを振り返りノートにまとめること。 講義の疑問点、感じたこと等をリアクションペーパーにて提出すること。			

<p>成績評価方法</p>	<p>各回のリアクションペーパー（30点）、定期試験（70点）によって、総合的に評価する 評価基準は以下の通りとします。 秀：医療福祉制度や医療ソーシャルワークの背景・課題を含めて深く説明できる。 優：医療福祉制度や医療ソーシャルワークについて正確に説明できる。 良：医療福祉制度や医療ソーシャルワークについて基本的な仕組みを理解している。 可：医療福祉制度や医療ソーシャルワークについて用語レベルの理解に留まる。 不可：理解が不十分で説明できない。</p>
<p>教科書 （購入必須）</p>	<p>『最新 社会福祉士養成講座 5、保健医療と福祉（第2版）』日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(中央法規) 2025年</p>
<p>参考書 （購入任意）</p>	<p>参考書については別途指示する。</p>

科 目 名	ソーシャルワーク論Ⅳ				
科 目 名 (英 語)	Social Work Ⅳ	シラバスNo.	260030450		
担 当 教 員 名	榊原 次郎				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	社福士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保健医療分野の社会福祉士・ケアマネジャーとして、病院 22 年、診療所 4 年の実務経験がある。その経験を通して、ソーシャルワーカーの援助技術および地域を基盤とする多職種・多機関の連携・協働について授業を行う。				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：◎ DP3：○ DP4：__ DP5：__				
学 修 到 達 目 標	ソーシャルワークにおける援助関係の形成について、人間関係と援助関係の違いを理解し、その概念と基本的な面接技術、援助関係形成方法等が習得できるようになる。更に臨床現場に必要なアウトリーチの意義や、ソーシャルワークに関連するコミュニケーションスキルの技法、実践場面を意識したカンファレンスを通じ、その理論と方法を習得できるようになる。				
受 講 の 留 意 点	ソーシャルワーク論Ⅰ～Ⅲで学んだことを十分に理解していることを前提に展開するので、今までソーシャルワーク論で学んだことを復習しておくこと。 テキスト・講義資料を中心に授業を進め、ソーシャルワークの実践場面に基づいた演習も行うため、予習復習に努めること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	①支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うために、適切なコミュニケーションスキルや面接技術を学ぶ。 ②社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、制度の狭間に陥っているクライアントへのアウトリーチ方法など、より実践的かつ効果的なソーシャルワークを実践的に学ぶ。				
	アクティブ・ラーニングの内容 授業ごとに個人ワークおよびグループワークの演習を設け、質疑応答の時間を確保する。毎回授業終了時にリアクションペーパーの提出を求め、次回の授業時に解説を行い、双方向の授業を推進する。				
授 業 の 計 画	1 援助関係の意義と概念 2 援助関係の形成方法①：自己覚知と他者理解 3 援助関係の形成方法②：コミュニケーションとラポール 4 面接技術①：面接の意義、目的、方法、留意点 5 面接技術②：面接の場面と構造 6 面接技術③：面接技法 7 アウトリーチ①：アウトリーチの意義、目的、方法、留意点 8 アウトリーチ②：アウトリーチを必要とする対象 9 アウトリーチ③：ニーズの掘り起こし 10 ソーシャルワークに関連する技法①：ネゴシエーション 11 ソーシャルワークに関連する技法②：ファシリテーション 12 ソーシャルワークに関連する技法③：プレゼンテーション 13 カンファレンスの意義、目的、留意点 14 カンファレンスの運営と展開①：同一機関内におけるケース 15 カンファレンスの運営と展開②：複数機関にまたがるケース				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間				
	【授業時間外学修時間の主な内容】 授業計画の項目に沿った医療福祉に関する資料を読み込んでおくこと。 授業内容やその日の学びを振り返りノートにまとめること。 講義の疑問点、感じたこと等をリアクションペーパーにて提出すること。				
成 績 評 価 方 法	各回のリアクションペーパー (30 点)、定期試験 (70 点) によって、総合的に評価する				

	<p>評価基準は以下の通りとします。</p> <p>秀：専門的援助関係の意義や面接技術、ソーシャルワークに関連する技法等の必要性・課題を含めて深く説明できる。</p> <p>優：専門的援助関係の意義や面接技術、ソーシャルワークに関連する技法等について正確に説明できる。</p> <p>良：専門的援助関係の意義や面接技術、ソーシャルワークに関連する技法等について基本的な仕組みを理解している。</p> <p>可：専門的援助関係の意義や面接技術、ソーシャルワークに関連する技法等について用語レベルの理解に留まる。</p> <p>不可：理解が不十分で説明できない。</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>『最新 社会福祉士養成講座 6、ソーシャルワークの理論と方法(社会専門)』日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(中央法規) 2021 年</p> <p>『最新 社会福祉士養成講座 12、ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)』日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(中央法規) 2021 年</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>参考書については別途指示する。</p>

科 目 名	ソーシャルワーク論Ⅵ			
科 目 名 (英 語)	Social Work Ⅵ	シラバスNo.	250030460	
担 当 教 員 名	石塚 翔平			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 社福士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	地域包括支援センター等の社会福祉士として相談支援業務等に携わった経験をもとに、総合的かつ包括的な支援の実際等について、実務経験を活用した実践的な講義を行います。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：○ DP3：___ DP4：___ DP5：◎			
学 修 到 達 目 標	ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援を行うために、ネットワークの形成や社会資源の活用・調整・開発、ソーシャルアクション等について理解し、その必要性を説明できるようになる。			
受 講 の 留 意 点	ソーシャルワーク論Ⅰ～Ⅴで学んだことを十分に理解していることを前提に展開するので、よく復習をしておくこと。 テキスト・講義資料を中心に授業を進め、ソーシャルワークの実践場面に基づいた演習も行うため、予習復習に努めること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	①これまでのソーシャルワーク論で学んできたことを基に、ソーシャルワーカーの専門性を発揮できるよう、総合的かつ包括的な支援の実際を学ぶ。 ②ソーシャルワーク実践に必要な社会資源の活用・調整・開発およびソーシャルワーク実践における多様なネットワークの開発・形成・調整等について学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 基本的には講義形式で行います。授業の理解度を高めるために対話形式やグループワークなどの学習形態を通して、学習者の能動的な参加を求める。			
授 業 の 計 画	1 ソーシャルワーク論の振り返り（オリエンテーション） 2 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際（総合的かつ包括的な支援の必要性） 3 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際（総合的かつ包括的な支援の背景） 4 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際（包括的な支援体制とは） 5 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際（包括的な支援体制に関する政策） 6 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際（多機関協働のモデル） 7 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際（多機関協働の実際） 8 ネットワークの形成（ネットワークの概要） 9 ネットワークの形成（ネットワークの課題） 10 社会資源の活用・調整・開発 11 ソーシャルアクション（ソーシャルアクションの概要） 12 ソーシャルアクション（ソーシャルアクションの課題） 13 家族支援（家族支援の概要） 14 家族支援（家族支援の実際） 15 事例分析・事例検討・事例研究			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 授業計画の項目に沿ったテキストの該当部分に目を通し、分からない言葉等は調べておくこと			
成 績 評 価 方 法	リアクションペーパー 30%、定期試験 70%			

教科書 (購入必須)	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 6、ソーシャルワークの理論と方法(社会専門)』(中央法規)
参考書 (購入任意)	

科 目 名	ソーシャルワーク演習Ⅱ				
科 目 名 (英 語)	Social Work Seminar II		シラバスNo.	260030470	
担 当 教 員 名	佐藤(み)・永嶋・堀・榊原・江連・小泉・保田・嘉村・石塚				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	社福士・教職(高福)：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：___ DP3：◎ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	(1) ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てていくことができる能力を習得する。 (2) 社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。				
受 講 の 留 意 点	学生には、積極的な参加を求める。 講義・演習・実習は連続したものであることを意識して学ぶこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>本演習では、個別指導並びに集団指導を通して、具体的なソーシャルワークの場面及び過程(「ケースの発見」「インテーク」「アセスメント」「プランニング」「支援の実施」「モニタリング」「支援の集結と事後評価」「アフターケア」)を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。それによって、具体的なケースの中で社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を修得する。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 ソーシャルワーク演習では、教員の指導のもとで学生が実際の状況を模擬的に体験することを通して学習内容を総合的に身につける学習方法をとっている。そのため、ソーシャルワーク演習Ⅱでは、個人ワークのみならず、グループワークやロールプレイなどを通して、講義で学んだ知識を実践的に活用する体験をすることでソーシャルワーカーとしての実践力をつける。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ソーシャルワーカーに求められる倫理① 2 ソーシャルワーカーに求められる倫理② 3 多様性尊重と集団的責任 4 人権、社会正義 5 感情の理解 6 家族の理解 7 個人の理解 8 グループの理解 9 知的障害者分野における演習 10 身体障害者分野における演習 11 児童分野における演習 12 医療分野における演習 13 高齢者分野における演習 14 地域包括支援センターにおける演習 15 社会福祉協議会における演習 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 ソーシャルワーク論の教科書における該当箇所を熟読する。 授業で配布された資料を熟読するとともに、グループワークを通じたその日の学びを振り返り、今後の演習・実習等に反映させる。				
成 績 評 価 方 法	期末レポート：50 点 受講態度 (積極的に演習に参加しているか)：50 点				

教科書 (購入必須)	テキストは使用しない。各回において適宜資料を配布する。
参考書 (購入任意)	参考書については別途指示する。

科 目 名	ソーシャルワーク演習Ⅲ				
科 目 名 (英 語)	Social Work Seminar Ⅲ	科目ナンバリング	260030480		
担 当 教 員 名	社会福祉学科教員				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	社福士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：◎ DP3：○ DP4：○ DP5：__				
学 修 到 達 目 標	地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメント等の仕組みを実践的に理解する。				
受 講 の 留 意 点	学生には、積極的な参加を求める。 講義・演習・実習は連続したものであることを意識して学ぶこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	地域福祉の基盤整備と開発に係る技法について実践的に学ぶ。 特にコミュニティワークを中心とした演習を実施する。 学生同士のグループワーク中心の授業である。 実習Ⅰ・実習指導Ⅰの事前学習に直結する授業である。				
	アクティブ・ラーニングの内容 グループワークを行う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション KJ法の説明 2. 地域の理解① 3. 地域の理解② 4. 地域アセスメント① 地域アセスメントの方法 5. 地域アセスメント② 社会資源の把握 6. 地域住民のニーズ把握 7. 地域課題解決のためのプログラム案 8. 地域住民の組織化① 9. 地域住民の組織化② 10. ソーシャルアクション① 11. ソーシャルアクション② 12. 地域福祉活動計画の策定について 13. アウトリーチ 14. ネットワーキング 15. サービス評価 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間				
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予習 (90 分) 毎回の授業内容に関係する事項について、これまでの講義での該当箇所を整理し、わからない言葉などを調べておく。 復習 (90 分) 授業で取り扱った箇所の資料を用いて講義内容を整理する。				
成 績 評 価 方 法	各回の成果物と発表：50 点 学期末レポート課題：50 点				
教 科 書 (購 入 必 須)	特になし。各回において適宜資料を配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	特になし。				

科 目 名	ソーシャルワーク演習Ⅳ				
科 目 名 (英 語)	Social Work Seminar Ⅳ	シラバスNo.	260030490		
担 当 教 員 名	佐藤(み)・永嶋・小泉・榊原・堀・保田・江連・石塚・嘉村				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	社福士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：○ DP3：___ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	①支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。 ②ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に習得することを到達目標とする。				
受 講 の 留 意 点	学生には、積極的な参加を求める。講義・演習・実習は連続したものであることを意識して学ぶこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	本演習は、個別指導並びに集団指導を通して、具体的なソーシャルワークの場面及び過程（「ケースの発見」「インテーク」「アセスメント」「プランニング」「支援の実施」「モニタリング」「支援の集結と事後評価」「アフターケア」）を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心とする演習形態により行う。それによって、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の方法について実践的に学ぶ。さらに、具体的な実践モデルとアプローチを活用する方法を実践的に学ぶ。				
	アクティブ・ラーニングの内容 グループワークを行う。				
授 業 の 計 画	1 虐待に関するケースの演習 2 2 ひきこもりの人に関するケースの演習 3 貧困に関するケースの演習 4 認知症の人とその家族に関するケースの演習 5 終末期ケアに関するケースの演習 6 災害時の支援に関するケースの演習 7 生活モデルを活用する演習 8 ストレングスモデルを活用する演習 9 ストレングスモデルを活用する演習 10 危機介入アプローチを活用する演習 11 行動変容アプローチを活用する演習 12 エンパワメントアプローチを活用する演習 13 ナラティブアプローチを活用する演習 14 フェミニストアプローチを活用する演習 15 家族療法を活用する演習				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間				
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予習 90 分：ソーシャルワーク論の教科書における該当箇所を熟読する。 復習 90 分：授業で配布された資料を熟読するとともに、グループワークを通じたその日の学びを振り返り、今後の演習・実習等に反映させる。 演習 100%				
成 績 評 価 方 法	各回の成果物と発表：50 点 学期末レポート課題：50 点				

教科書 (購入必須)	テキストは使用しない。各回において適宜資料を配布する。
参考書 (購入任意)	参考書については別途指示する。

科 目 名	ソーシャルワーク演習 V				
科 目 名 (英 語)	Social Work Seminar V	シラバスNo.	260030500		
担 当 教 員 名	佐藤(み)・永嶋・小泉・榊原・堀・保田・江連・石塚・嘉村				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	社福士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：○ DP3：○ DP4：○ DP5：○				
学 修 到 達 目 標	① 実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。 ② 実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。				
受 講 の 留 意 点	この演習は、ソーシャルワーク実習指導Ⅱの内容と合わせて一体的にソーシャルワーク実践の理解を深めていく。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術を習得できるように、ソーシャルワーク実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。 アクティブ・ラーニングの内容 発表を担当する実習生は実習で担当した事例についてまとめて発表するとともに、他の実習生はその事例に対する支援計画をグループワークを通して作成するとともに、実施するということを想定したうえで評価も行う。また、実習生は演習で設定された課題に取り組み、提出物にして提出すること。				
授 業 の 計 画	1 ソーシャルワーク演習 V の意義の理解 2 事例検討・事例研究とスーパービジョン (1) 3 事例検討・事例研究とスーパービジョン (2) 4 事例検討・事例研究とスーパービジョン (3) 5 事例検討・事例研究とスーパービジョン (4) 6 事例検討・事例研究とスーパービジョン (5) 7 事例検討・事例研究とスーパービジョン (6) 8 事例検討・事例研究とスーパービジョン (7) 9 事例検討・事例研究とスーパービジョン (8) 10 事例検討・事例研究とスーパービジョン (9) 11 事例検討・事例研究とスーパービジョン (10) 12 事例検討・事例研究とスーパービジョン (11) 13 事例検討・事例研究とスーパービジョン (12) 14 倫理的ジレンマに関するディスカッション 15 ソーシャルワーク演習 V の振り返り				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習 90 分：授業の該当箇所の『実習ハンドブック』、実習中に作成した『実習日誌』を読み、実習で行ったことがイメージできるようにしておくこと 復習 90 分：授業内容を整理し、提示された課題に取り組むこと				
成 績 評 価 方 法	演習ではいくつかの課題を設定するので、各提出物を提出すること。詳しくはその時点で説明する。授業参加態度も評価の対象とする。提出物の評価:50%、授業参加態度:50%				

教科書 (購入必須)	必要に応じて提示する。
参考書 (購入任意)	なし

科 目 名	精神保健福祉の原理 I			
科 目 名 (英 語)	Principle of Mental Health and Welfare I	シラバスNo.	260030510	
担 当 教 員 名	直嶋 美恵子			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：○ DP3：___ DP4：___ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	<p>①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み（理念・視点・関係性）について理解する。</p> <p>②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。</p> <p>③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。</p> <p>④精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。</p>			
受 講 の 留 意 点	本科目は講義形式により開講する。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指定科目である。</p> <p>「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷や障害者福祉の基本的枠組み、精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義やその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について理解し、幅広い視野から精神保健福祉の原理について学修する。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 講義受講時に出た疑問や質問について、積極的に受講生同士で共有できるようにリアクションペーパーへの記入やその他グループワーク、ディスカッションを実施する。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 障害者福祉の思想と原理 2 障害者福祉の理念・リハビリテーション① 3 障害者福祉の理念・リハビリテーション② 4 障害者福祉の歴史的展開① 5 障害者福祉の歴史的展開② 6 国際生活機能分類（ICF） 7 制度における「精神障害者」の定義 8 精神障害の障害特性 9 会的排除と社会的障壁①；諸外国の動向 10 社会的排除と社会的障壁②；日本の精神保健福祉施策に影響を与えた出来事 11 社会的排除と社会的障壁③；日本の社会的障壁 12 精神障害者の生活実態①；精神保健医療福祉と精神障害者 13 精神障害者の生活実態②；精神科医療の特性 14 精神障害者の生活実態③；精神障害者と家族 15 精神障害者の生活実態④；精神障害者と社会生活 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習は、授業計画に記載されているキーワードについて事前に教科書の該当範囲を読んでおくこと。 復習は、授業で使用した資料を読み直し、ノートに整理すること。また、授業内で示した、現在の実践上の課題や、トピックス、関連知識について、最新の情報を調べ、理解を深めること。現在の精神保健福祉関連の法制度や事業の名称と合わせて関連づけて復習をしておくこと。</p>			

成績評価方法	課題の提出(40点) 定期試験(60点)
教科書 (購入必須)	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編. 最新 精神保健福祉士養成講座 5 精神保健福祉の原理. 中央法規
参考書 (購入任意)	

科 目 名	精神保健福祉の原理Ⅱ			
科 目 名 (英 語)	Principle of Mental Health and Welfare Ⅱ	シラバスNo.	260030520	
担 当 教 員 名	直嶋 美恵子			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	病精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：○ DP3：___ DP4：___ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	<p>①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み（理念・視点・関係性）について理解する。</p> <p>②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。</p> <p>③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。</p> <p>④精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。</p> <p>⑤現在の精神保健福祉士の基本的枠組み（理念・視点・関係性）と倫理綱領に基づく職責について理解する。</p> <p>⑥精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。</p> <p>⑦近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。</p>			
受 講 の 留 意 点	本科目は講義形式により開講する。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指定科目である。</p> <p>史的に精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティを理解するとともに、精神保健福祉士の基本的枠組みと倫理綱領に基づく職責について理解することをめざす。さらに、近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性について理解し、幅広い視野から精神保健福祉の原理について学修する。</p>			
	<p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <p>講義受講時に出た疑問や質問について、積極的に受講生同士で共有できるようにリアクションペーパーへの記入やその他グループワーク、ディスカッションを実施する。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 「精神保健福祉士」の資格化に至る経緯① 2 「精神保健福祉士」の資格化に至る経緯② 3 精神保健福祉の原理・価値① 4 精神保健福祉の原理・価値② 5 精神保健福祉の観点・視点① 6 精神保健福祉の観点・視点② 7 精神保健福祉における“関係性” 8 精神保健福祉士法 9 精神保健福祉士の職業倫理 10 精神保健福祉士の業務特性① 11 精神保健福祉士の業務特性② 12 精神保健福祉士の職場・職域 13 精神保健福祉士の業務内容と業務指針① 14 精神保健福祉士の業務内容と業務指針② 15 まとめ 			

<p>授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容</p>	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習は、授業計画に記載されているキーワードについて事前に教科書の該当範囲を読んでおくこと。 復習は、授業で使用した資料を読み直し、ノートに整理すること。また、授業内で示した、現在の実践上の課題や、トピックス、関連知識について、最新の情報を調べ、理解を深めること。現在の精神保健福祉関連の法制度や事業の名称と合わせて関連づけて復習をしておくこと。</p>
<p>成 績 評 価 方 法</p>	<p>課題の提出(40 点) 定期試験 (60 点)</p>
<p>教 科 書 (購 入 必 須)</p>	<p>一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、最新 精神保健福祉士養成講座 5 精神保健福祉の原理、中央法規</p>
<p>参 考 書 (購 入 任 意)</p>	<p>別途周知する。</p>

科 目 名	ソーシャルワーク論Ⅶ				
科 目 名 (英 語)	Social Work Ⅶ(MHSW)	シラバスNo.	260030530		
担 当 教 員 名					
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：○ DP3：___ DP4：___ DP5：○				
学 修 到 達 目 標	① 精神障害および精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解し、説明できるようになる。 ② 精神障害および精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法について説明できるようになる。 ③ 精神医療・精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と、精神保健福祉士の役割を理解し、説明できるようになる。 ④ 個別支援からソーシャルアクションへの実践展開を、ミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解し、説明できるようになる。				
受 講 の 留 意 点					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	本授業では、精神障害や精神保健福祉の課題を持つ人へのソーシャルワークの過程を学びます。さらに、当事者の家族やその関係性に着目し、家族を対象とした支援のあり方を理解します。加えて、多職種・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割を学び、ソーシャルワークが個別支援からソーシャルアクションへ展開する際のミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性について考察します。				
	アクティブ・ラーニングの内容 リアクションペーパーや小レポートの記述を通じて意見を表現し、ディスカッションやグループワークによる他受講生との意見交換を行う。				
授 業 の 計 画	1 ソーシャルワークの構成要素 2 ソーシャルワークの展開過程① ケースの発見、インテーク、アセスメント 3 ソーシャルワークの展開過程② プランニング、支援の実施、モニタリング 4 ソーシャルワークの展開過程③ 支援の終結と事後評価、アフターケア 5 ソーシャルワークの展開過程④ ミクロ・メゾ・マクロレベルにおける展開 6 精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点① 人と環境の相互作用 7 精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点② 精神障害及び精神保健の課題を有する人とその家族の置かれている状況 8 精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点③ 精神疾患・精神障害の特性を踏まえたソーシャルワークの留意点 9 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程① アウトリーチ 10 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程② インテーク 11 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程③ アセスメント 12 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程④ 援助関係の形成技法 13 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑤ 面接技術とその応用 14 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑥ 支援の展開(人、環境へのアプローチ) 15 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑦ 支援の展開(ケアマネジメント)				

<p>授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容</p>	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習は、授業計画に記載されたキーワードについて、教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。 復習は、授業で使用した資料を読み直し、ノートに整理すること。また、発展学習として授業内で示したトピックスや関連知識について、最新情報を調べ、理解を深めること。</p>
<p>成 績 評 価 方 法</p>	<p>定期試験 (70%)、課題・小テスト (30%)</p>
<p>教 科 書 (購 入 必 須)</p>	<p>一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 (2026) 『最新 精神保健福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法 [精神専門] 第 2 版』中央法規出版。</p>
<p>参 考 書 (購 入 任 意)</p>	<p>別途周知する。</p>

科 目 名	ソーシャルワーク論Ⅷ			
科 目 名 (英 語)	Social Work Ⅷ(MHSW)	シラバスNo.	260030540	
担 当 教 員 名	浦田 泰成、直嶋 美恵子			
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	精神科病院等で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：○ DP3：___ DP4：___ DP5：◎			
学 修 到 達 目 標	① 精神障害および精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法について説明できるようになる。 ② 精神医療・精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と、精神保健福祉士の役割を理解し、説明できるようになる。 ③ 精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理や組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法を理解し、説明できるようになる。 ④ 個別支援からソーシャルアクションへの実践展開を、ミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解し、説明できるようになる。 ⑤ 精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解し、説明できるようになる。			
受 講 の 留 意 点				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	本授業では、精神障害や精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を学ぶ。さらに、精神医療・精神障害者福祉における多職種・多機関連携の方法や精神保健福祉士の役割を学修する。加えて、組織運営管理や組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法を理解し、個別支援からソーシャルアクションへの実践展開を、ミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて考察する。			
	アクティブ・ラーニングの内容 リアクションペーパーや小レポートの記述を通じて意見を表現し、ディスカッションやグループワークによる他受講生との意見交換を行う。			
授 業 の 計 画	1 精神障害者家族の課題① 精神保健福祉法と家族、介護家族という社会的役割 2 精神障害者家族の課題② 精神障害に関連したケアラーのニーズ、ケアラー・ヤングケアラー支援 3 家族理解の変遷① 家族病因論、家族ストレス対処理論 4 家族理解の変遷② 家族システム論、家族の感情表出（EE）研究 5 家族支援の方法① 家族療法的アプローチ、家族相談面接 6 家族支援の方法② 家族関係における暴力への介入（DV 被害者支援、DV 加害者プログラム） 7 家族支援の方法③ 家族のリカバリー、家族のセルフヘルプグループ 8 多職種連携・多機関連携の意義と目的 9 多職種連携・多機関連携の留意点、連携における精神保健福祉士の役割 10 多職種連携・多機関連携（チームアプローチ）の実際（事例分析） 11 ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義 12 ソーシャルアドミニストレーションの展開方法 13 コミュニティワーク 14 個別支援からソーシャルアクションへの展開 15 関連分野における精神保健福祉士の実践展開			

<p>授業時間外学修 (予習・復習)の内容</p>	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習は、授業計画に記載されたキーワードについて、教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。 復習は、授業で使用した資料を読み直し、ノートに整理すること。また、発展学習として授業内で示したトピックスや関連知識について、最新情報を調べ、理解を深めること。</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>定期試験 (70%)、課題・小テスト (30%)</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>別途周知する。</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>別途周知する。</p>

科 目 名	精神保健の課題と支援 I			
科 目 名 (英 語)	Mental Health Challenges and Support I	シラバスNo.	260030550	
担 当 教 員 名	浦田 泰成			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	精神の健康に関する基本的な考え方を理解し、精神保健学の役割について説明できるようになる。 現代社会における精神保健の諸課題を理解し、具体的な事例を挙げて説明できるようになる。 精神保健の実際について理解し、精神保健福祉士の役割とその重要性を説明できるようになる。			
受 講 の 留 意 点				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	保健・医療・福祉・労働・司法・教育などの分野における精神保健施策を概観し、メンタルヘルスの最新動向を学ぶ。精神保健福祉士の役割や専門的アプローチを理解し、実践に必要な視点を養うことを目的とする。			
	アクティブ・ラーニングの内容 リアクションペーパーや小レポートの記述を通じて意見を表現し、ディスカッションやグループワークによる他受講生との意見交換を行う。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会構造の変化と新しい健康感 2 精神の健康、精神疾患、身体疾患・精神疾患に由来する障害 3 ライフサイクル、生活習慣と精神の健康 4 ストレスと精神の健康 5 精神の健康に関する心的態度、予防の考え方、精神保健活動 6 現代日本の家族の形態と機能、結婚生活と精神保健 7 育児・教育をめぐる精神保健 8 病気療養や介護をめぐる精神保健 9 社会的ひきこもり、家庭内の問題を相談する機関、精神保健福祉士の役割 10 学校教育における精神保健、生徒児童の特徴と教員の精神保健 11 労働環境と勤労者の精神保健、うつ病・過労自殺、飲酒・ギャンブル、生活習慣病 12 災害被災者、犯罪被害者の精神保健 13 ニートや貧困問題、ホームレスと精神保健 14 性同一性障害、他文化間で生じる精神保健上の問題とアプローチ 15 総括 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予習は、授業計画に記載されたキーワードについて、教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。 復習は、授業で使用した資料を読み直し、ノートに整理すること。また、発展学習として授業内で示したトピックスや関連知識について、最新情報を調べ、理解を深めること。			
成 績 評 価 方 法	期末レポート (70%)、小レポート (15%)、毎回のコメントシート (15%)			
教 科 書 (購 入 必 須)	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 (2026)『最新 精神保健福祉士養成講座 2 現代の精神保健の課題と支援 第2版』中央法規出版。			
参 考 書 (購 入 任 意)	別途周知する。			

科 目 名	精神保健の課題と支援Ⅱ			
科 目 名 (英 語)	Mental Health Challenges and Support Ⅱ	シラバスNo.	260030560	
担 当 教 員 名	浦田 泰成			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	精神保健を維持・増進するために機能している専門機関や関係職種の役割を理解し、その連携について説明できるようになる。 国際連合の精神保健活動や、諸外国における精神保健の現状と対策について説明できるようになる。			
受 講 の 留 意 点				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	本授業では、依存性薬物の乱用、うつ病と自殺防止など、精神保健対策として世界的に重要な課題を取り上げる。さらに、精神保健推進における障壁と、それを克服するための支援や連携の取り組みについて、諸外国・諸地域の事例を通して考察を深める。			
	アクティブ・ラーニングの内容 意見の表現を目的としたリアクションペーパーや小レポートの記述、他受講生との話し合いや意見交換を行うディスカッション、グループワーク等を交えて行う。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 精神保健に関する対策① アルコール問題、薬物依存対策 2 精神保健に関する対策② うつ病と自殺防止対策 3 精神保健に関する対策③ 認知症高齢者、社会的ひきこもり、災害時の精神保健 4 地域精神保健活動、関係法規とネットワークづくり 5 精神保健に関する調査・人材育成、資源開発 6 国民の精神障害観、精神保健に関する偏見・差別と施設コンフリクト 7 地域精神保健に関する行政機関の役割と連携、国、都道府県、市町村 8 精神保健に関する専門職種（保健師等）の役割と連携 9 精神保健に関する法規 10 精神保健に関連する学会・啓発団体、自助団体等 11 諸外国の精神保健活動の現状と対策 12 WHOなどの国際機関の活動 13 世界の精神保健医療の状況、疫学 14 精神保健福祉士の役割と予防・啓発活動 15 総括 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予習は、授業計画に記載されたキーワードについて、教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。 復習は、授業で使用した資料を読み直し、ノートに整理すること。また、発展学習として授業内で示したトピックスや関連知識について、最新情報を調べ、理解を深めること。			
成 績 評 価 方 法	期末レポート (70%)、小レポート (15%)、毎回のコメントシート (15%)			
教 科 書 (購 入 必 須)	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 (2021)『最新 精神保健福祉士養成講座 2 現代の精神保健の課題と支援』中央法規出版。			
参 考 書 (購 入 任 意)	別途周知する。			

科 目 名	ソーシャルワーク演習VI			
科 目 名 (英 語)	Social Work Seminar(MHSW)VI	シラバスNo.	260030570	
担 当 教 員 名	浦田 泰成・直嶋 美恵子			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	病精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <input type="radio"/> DP2 : <input checked="" type="radio"/> DP3 : <input type="radio"/> DP4 : <input type="radio"/> DP5 : <input type="radio"/>			
学 修 到 達 目 標	<p>①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。</p> <p>②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。</p>			
受 講 の 留 意 点	ソーシャルワーク演習VIは、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ及びソーシャルワーク実習指導Ⅳ、ソーシャルワーク実習Ⅲと深く関連することに留意する。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>個別指導・集団指導を通して、精神保健ソーシャルワークの事例（集団に対する事例を含む。）をソーシャルワーク実習Ⅲの事前学習として深める。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを実施。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、ソーシャルワーク演習の意義と構成 2 精神保健ソーシャルワークの領域① 医療機関、障害福祉サービス事業所 3 精神保健ソーシャルワークの領域② 行政、社会福祉協議会、高齢者福祉施設 4 精神保健ソーシャルワークの領域③ 教育、司法、産業・労働、児童、合議体 5 精神保健ソーシャルワークが対象とする諸課題① 社会的排除、社会的孤立、受診・受療、課題発見、退院支援、地域移行支援、地域生活支援 6 精神保健ソーシャルワークが対象とする諸課題② 自殺対策、ひきこもり支援、児童虐待への対応、アルコール依存、薬物依存、ギャンブル依存等の予防や回復、家族支援 7 精神保健ソーシャルワークが対象とする諸課題③ 就労（雇用）支援、職場ストレス、リワーク支援、貧困、低所得、ホームレス支援、災害被災者、犯罪被害者支援、触法精神障害者支援、その他 8 精神保健ソーシャルワークに関わる制度とサービス① 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、障害者基本法、障害者総合支援法、障害者差別解消法、障害者虐待防止法、医療観察法 9 精神保健ソーシャルワークに関わる制度とサービス② 生活保護制度、障害年金制度、各種手当、障害者雇用促進法、労働安全衛生法、介護保険法、老人福祉法、高齢者虐待防止法、児童福祉法、児童虐待防止法 10 精神保健ソーシャルワークに関わる制度とサービス③ アルコール健康障害対策基本法、刑の一部執行猶予制度、覚せい剤取締法等、自殺防止対策基本法、当事者活動（自助グループ、ピアサポート）、その他（居住支援制度、生活困窮者自立支援制度、成年後見制度等） 11 精神保健ソーシャルワークに関わる援助技術① ソーシャルワークの過程を通じた援助（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア） 			

	<p>12 精神保健ソーシャルワークに関わる援助技術② 個別面接、グループワークの展開、ケア会議や関係者会議のコーディネートとマネジメント、リハビリテーションプログラムの実施（行動療法、作業療法、回復支援プログラム）、アウトリーチ、コミュニティソーシャルワークの展開</p> <p>13 精神保健ソーシャルワークに関わる援助技術③ 社会福祉調査の実施、計画策定、評価、資源創出、政策提言、普及啓発活動、人材育成（住民への啓発、ボランティア養成、実習生指導）、記録（個別支援記録、公文書作成、業務（日誌・月報等）の記録、スーパービジョンのためのレポート作成等）、その他</p> <p>14 事例検討の意義と方法① 事例検討の意義と要点</p> <p>15 事例検討の意義と方法② 事例検討の方法</p>
授業時間外学修（予習・復習）の内容	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習は、次回の授業で行う援助技術や事例について講義で学んだ内容を復習しておくこと。 復習は、授業で取り上げた学習内容について体験を振り返り、理解を深めること。</p>
成績評価方法	課題の提出（70 点）、実践的課題への主体的能動的取組姿勢（30 点）により評価する。
教科書（購入必須）	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、最新 精神保健福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習[精神専門]、中央法規
参考書（購入任意）	

科 目 名	ソーシャルワーク演習Ⅶ			
科 目 名 (英 語)	Social Work Seminar(MHSW)Ⅶ	シラバスNo.	260030580	
担 当 教 員 名	浦田 泰成・直嶋 美恵子			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	病精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <input type="radio"/> DP2 : <input checked="" type="radio"/> DP3 : <input type="radio"/> DP4 : <input type="radio"/> DP5 : <input type="radio"/>			
学 修 到 達 目 標	<p>①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。</p> <p>②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。</p> <p>③精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネーター役を担えるようになる。</p> <p>④精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。</p> <p>⑤精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。</p>			
受 講 の 留 意 点	ソーシャルワーク演習Ⅶは、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ及びソーシャルワーク実習指導Ⅳ、ソーシャルワーク実習Ⅲと深く関連することに留意する。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指定科目である。本科目はソーシャルワーク実習Ⅲを行う前に学習を開始し、十分な学習を進める。なお、本科目はソーシャルワーク演習Ⅵと一体的に学修することが必要となる。</p> <p>以下に示す①領域、②課題、③法制度・サービス、④援助技術について、ソーシャルワーク演習Ⅵでの学びをベースに、精神保健福祉援助の事例（集団に対する事例を含む）を活用し、精神保健福祉士としての実際の思考と援助の過程における行為を想定し、精神保健福祉の課題を捉え、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に習得することを意図し演習を展開する。取り上げるすべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察する。</p> <p>①領域：医療機関、障害福祉サービス事業所、行政機関・社会福祉協議会等</p> <p>②課題：社会的排除、社会的孤立、受診・受療、課題発見、退院支援、地域移行支援、地域生活支援、自殺対策等</p> <p>③法制度・サービス：精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、障害者総合支援法、医療観察法、生活保護制度、介護保険法、児童福祉法等</p> <p>④援助技術：ソーシャルワークの過程を通じた援助（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア）、個別面接、グループワーク等</p>			
	<p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <p>グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを実施。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 事例検討；医療機関における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実際①；入院病棟における事例 事例検討；医療機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②；外来における事例 事例検討；医療機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際③；訪問、デイケアにおける事例 事例検討；医療機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際④；精神科以外の医療機関における事例 事例検討；障害福祉サービス事業所における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①；相談支援における事例 			

	<p>6 事例検討；障害福祉サービス事業所における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②；就労支援における事例</p> <p>7 事例検討；障害福祉サービス事業所における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際③；生活訓練における事例</p> <p>8 事例検討；障害福祉サービス事業所における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際④；地域移行支援、地域定着支援、自立生活援助、地域生活支援等における事例</p> <p>9 事例検討；行政機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①；精神保健福祉センター、保健所</p> <p>10 事例検討；行政機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②；市町村</p> <p>11 事例検討；行政機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際③；ハローワーク、その他</p> <p>12 事例検討；社会福祉協議会における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①；生活困窮における事例</p> <p>13 事例検討；社会福祉協議会における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②；地域づくりにおける事例</p> <p>14 事例検討；社会福祉協議会における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際③；権利擁護における事例</p> <p>15 まとめ、事例検討の意義</p>
<p>授業時間外学修 (予習・復習)の内容</p>	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習は、次回の授業で行う援助技術や事例について講義で学んだ内容を復習しておくこと。 復習は、授業で取り上げた学習内容について体験を振り返り、理解を深めること。</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>課題の提出 (70 点)、実践的課題への主体的能動的取組姿勢 (30 点) により評価する。</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編. 最新 精神保健福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習[精神専門]. 中央法規</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	

科 目 名	ソーシャルワーク演習Ⅷ				
科 目 名 (英 語)	Social Work Seminar(MHSW)Ⅷ	シラバスNo.	260030590		
担 当 教 員 名	浦田 泰成・直嶋 美恵子				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：___				
学 修 到 達 目 標	<p>①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。</p> <p>②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。</p> <p>③精神疾患や精神障害、精神保健のための課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようにする。</p> <p>④精神疾患や精神障害、精神保健のための課題のある人を取り巻く社会や環境を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。</p> <p>⑤精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。</p>				
受 講 の 留 意 点	ソーシャルワーク演習Ⅷは、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ及びソーシャルワーク実習指導Ⅳ、ソーシャルワーク実習Ⅲと深く関連することに留意する。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>本科目は精神保健福祉士国家資格取得に関わる指定科目である。本科目はソーシャルワーク実習Ⅲを行う前に学習を開始し、十分な学習を進める。なお本科目はソーシャルワーク演習Ⅵ・Ⅶと一体的に学修することが必要となる。以下に示す①領域、②課題、③法制度・サービス、④援助技術について、ソーシャルワーク演習Ⅵでの学びをベースに精神保健福祉援助の事例（集団に対する事例含む）を活用し、精神保健福祉士としての実際の思考と援助の過程における行為を想定し、精神保健福祉の課題を捉え、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に習得することを意図し演習を展開する。取り上げるすべての事例において、精神保健福祉士における原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察する。</p> <p>①領域：高齢者福祉施設、教育機関（学校・教育委員会）、司法、産業、労働、児童等</p> <p>②課題：社会的排除、社会的孤立、受診・受領、課題発見、退院支援、地域移行支援、地域生活支援、自殺対策等</p> <p>③法制度・サービス：精神保健及び精神障害者に関する法律、障害者総合支援法、医療観察法、生活保護制度、介護保険、児童福祉法等</p> <p>④援助技術：ソーシャルワーク過程を通じた援助（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア）、個別面接、グループワーク等</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 ロールプレイ、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを実施。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 事例検討：高齢者福祉施設における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実施① 地域包括支援センターにおける事例 事例検討：高齢者福祉施設における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実施② 介護療養型施設における事例 事例検討：高齢者福祉施設における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実施③ 生活施設における事例 事例検討：教育機関における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実施 事例検討：教育機関における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実施 事例検討：司法における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実施 				

	<p>7 事例検討：司法における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実施</p> <p>8 事例検討：産業・労働領域における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実施</p> <p>9 事例検討：産業・労働領域における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実施</p> <p>10 事例検討：児童領域における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実施</p> <p>11 事例検討：児童領域における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実施</p> <p>12 事例検討：合議体と精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実施</p> <p>13 事例検討：合議体と精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実施</p> <p>14 事例検討：独立型による精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実施</p> <p>15 まとめ、事例検討の意義</p>
授業時間外学修 (予習・復習)の内容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習は、次回の授業で行う援助技術や事例について講義で学んだ内容を復習しておくこと。 復習は、授業で取り上げた学習内容について体験を振り返り、理解を深めること。</p>
成績評価方法	課題の提出 (70 点)、実践的課題への主体的能動的取組姿勢 (30 点) により評価する。
教科書 (購入必須)	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編. 最新 精神保健福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習[精神専門]. 中央法規
参考書 (購入任意)	

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導 I				
科 目 名 (英 語)	Social Work Practicum Guidance I		シラバスNo.	260030600	
担 当 教 員 名	社会福祉学科教員				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	社福士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：○ DP3：○ DP4：○ DP5：○				
学 修 到 達 目 標	①ソーシャルワーク実習の意義について理解する ②社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を身につける ③ソーシャルワークに係る価値・知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する ④実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を身につける。				
受 講 の 留 意 点	学生には積極的な参加を求める。講義・演習・実習は連続したものであることを意識して学ぶこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	ソーシャルワーク実習 I の学習到達目標達成のために必要なソーシャルワーク実践における基本的な対人関係の形成方法と実践技術の理解に重点をおく。学内指導だけではなく、ソーシャルワーク実践の各分野の実践者の講話や現場見学を通して、ソーシャルワーク実践の実際やその業務内容を具体的に理解することを目的とする。また、実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえて適切な実習計画を立てることができるようにする。実習後は、実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた評価を行う。さらに、自らが掲げた課題の達成状況と振り返りを通じて、報告書等を作成する（その成果は「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」の中で共有する）。次年度以降のソーシャルワーク実習指導Ⅱと合わせ、自らがソーシャルワーカーとなるための心構えや職業意識、専門性を高めていく。				
	アクティブ・ラーニングの内容 グループワークを行う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 実習及び実習指導の意義の理解 2 実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術、個人のプライバシーの保護と守秘義務等に関する理解 3 実際に実習を行う実習分野と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解①(各実習先の概要理解) 4 実際に実習を行う実習分野と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解②(各実習生からの学習内容報告と共有) 5 実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解①(各実習先の概要理解) 6 実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解②(各実習生からの学習内容報告と共有) 7 ソーシャルワーク実践における利用者との援助関係作りおよび専門職連携における関係作りに関する理解 8 実習計画書の作成方法および実習記録への記録内容及び記録方法の理解 9 実習中の巡回指導方法に関する理解および実習体験の整理とまとめに関する説明 10 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた評価 11 多様な施設や事業所における現場体験①(生活施設) 12 多様な施設や事業所における現場体験②(相談機関) 13 多様な施設や事業所における現場体験③(体験の振り返り) 14 ソーシャルワーク実習Ⅱ 実習報告会参加① 15 ソーシャルワーク実習Ⅱ 実習報告会参加② 				
授 業 時 間 外 学 修 (予習・復習)の内容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間				
	【授業時間外学修時間の主な内容】 ・授業の該当箇所の『実習ハンドブック』を読み、わからない言葉などを調べておく。 ・『ソーシャルワーク実習Ⅰハンドブック』や他科目の講義テキスト、授業で取り扱った資料などを用いて講義内容を整理する。				

成績評価方法	受講態度のほか、ソーシャルワーク実習Ⅰの実施に向けた各種取り組み内容や実習中に作成する日誌の内容等を総合的に判定し、評価します。 受講態度：25点 内容物評価：75点
教科書 (購入必須)	授業の最初で配布する『ソーシャルワーク実習Ⅰハンドブック』を中心に使用する。その他、必要に応じて資料を配布する。
参考書 (購入任意)	なし

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		
科 目 名 (英 語)	Social Work Practicum Guidance Ⅱ	シラバスNo.	260030610
担 当 教 員 名	佐藤(み)・永嶋・小泉・榊原・堀・保田・江連・石塚・嘉村		
学 年 配 当	3年	単 位 数	4単位
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択
開 講 形 態	演習		
資 格 要 件	社福士：必修		
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：○ DP3：○ DP4：○ DP5：○		
学 修 到 達 目 標	実践力の高い社会福祉士を養成する観点から、これまで学んだソーシャルワークの理念、価値、知識、技術等と前年度までのソーシャルワーク実習Ⅰの経験及びソーシャルワーク実習Ⅱが関連付けられるようになる。そのためにも事前指導では、実際の現場体験において、より専門的なソーシャルワーカーの倫理性を含めた資質や能力を向上させていく。さらに実習後には、実習経験で得た地域課題を、具体的に解決できると自信を持てるようソーシャルワーカーとしての力量を身につける。		
受 講 の 留 意 点	20名以下のクラス編成での実施となる。 前半はソーシャルワーク実習Ⅱに向けての具体的な整理、準備、必要事項等の習得とする。後半はソーシャルワーク実習Ⅱで学んだすべての内容を整理、確認しながら、その成果を実習報告会で学生全体の共有財産としていく。実習先指導者との実習計画書の確認や実習実施の諸確認については、実習指導の時間外に設定する。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>ソーシャルワーク実習Ⅱの意義や目的を理解し、実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえて適切な実習計画を立てることができるようにする。実習分野とその施設・機関についての総合的な知識を持って実習に臨み、実習後は、実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた評価を行う。そして、自らが掲げた課題の達成状況と振り返りを通じて、報告書等を作成する。その成果物は「実習報告会」という形で、学生全体で共有できるようにする。実習指導Ⅱは通年で行い、グループ指導及び個別指導によって、個々の学生のソーシャルワーカーとしての資質向上を図る。全体として、演習、実習指導、実習が連動する形で展開していく。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 前半の事前指導では、実習分野とその施設・機関について実習生自らが調べて発表を行う。また、教員や指導者の指導に基づいて実習計画を立てる。そして、後半の事後指導では、実習報告書等を作成するとともに、「実習報告会」において実習の成果についての発表を行う。</p>		
授 業 の 計 画	1 ソーシャルワーク実習Ⅱ及び実習指導Ⅱの意義の理解 2 ソーシャルワーク実習Ⅰの振り返り①(学生報告その1) 3 ソーシャルワーク実習Ⅰの振り返り②(学生報告その2) 4 実際に実習を行う実習分野と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解① 5 実際に実習を行う実習分野と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解② 6 実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解① 7 実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解② 8 ソーシャルワーク実践における利用者および関係者との関係作りに関する再確認 9 実習計画書の作成①	16 17 18 19 20 21 22 23 24	事後学習の意義と今後の課題 実習内容の振り返り①(各自の実習プログラム報告その1) 実習内容の振り返り②(各自の実習プログラム報告その2) 実習内容の振り返り③(各自の実習課題の報告その1) 実習内容の振り返り④(各自の実習課題の報告その2) 実習内容の振り返り⑤(各自のケーススタディ実践報告その1) 実習内容の振り返り⑥(各自のケーススタディ実践報告その2) 実習評価の伝達と実習全体の振り返り① 実習評価の伝達と実習全体の振り返り②

	10 実習計画書の作成② 11 ケーススタディの実践方法の理解① 12 ケーススタディの実践方法の理解② 13 実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解 14 実習中の指導方法に関する理解および実習体験の整理とまとめに関する説明 15 実習直前オリエンテーション	25 実習報告会準備① 26 実習報告会準備② 27 実習報告会① 28 実習報告会② 29 実習報告会③ 30 ソーシャルワーク実習および実習指導全体の振り返り
授業時間外学修 (予習・復習)の内容	総学修時間 180 時間 (4 単位×45 時間) うち授業時間 60 時間、授業時間外学修時間 120 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：授業の該当箇所の『実習ハンドブック』を読み、わからない言葉などを調べておく。 復習：『実習ハンドブック』や他科目の講義テキスト、授業で取り扱った資料などを用いて講義内容を整理する。	
成績評価方法	実習指導者の評価を参考に評価 (100%)。詳細はソーシャルワーク実習指導Ⅱ内で提示する。	
教科書 (購入必須)	『ソーシャルワーク実習ハンドブック』(本学科実習委員会作成)を中心に使用する。その他、必要に応じて資料を配布する。	
参考書 (購入任意)	なし	

科 目 名	ソーシャルワーク実習 I				
科 目 名 (英 語)	Social Work Practicum I	シラバスNo.	260030620		
担 当 教 員 名	社会福祉学科教員				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	社福士・教職(高福):必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1: ◎ DP2: ○ DP3: ○ DP4: ○ DP5: ○				
学 修 到 達 目 標	<p>①ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための基本的な実践能力を養う。</p> <p>②支援を必要とする人や地域の状況を理解するための具体的な関わり技法を習得する。</p> <p>③施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。</p> <p>④施設・機関等の利用者とのコミュニケーションの実際を理解する。</p>				
受 講 の 留 意 点	<p>これまで学んだ専門的知識や技術等を実際に活用・実践し、ソーシャルワーク実践に必要な基本的な資質や能力を習得する。これまでの理論を体系化していくための実習体験や、実習担当教員や実習指導者とのスーパービジョンでは、積極的な参加が求められる。なお、ソーシャルワーク実習Ⅱおよびソーシャルワーク実習指導Ⅱを履修するためには、ソーシャルワーク実習Ⅰおよびソーシャルワーク実習指導Ⅰの前年度までの単位修得が必要となる。ソーシャルワーク実習Ⅰの履修要件は以下の通りである。</p> <p>・原則として2年次の前期終了時点において、当該年度の進級判定時における進級の要件を満たす可能性が十分に見込まれること。</p>				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>ソーシャルワーカーとしての基本的な実践能力を養うため、これまで学んできたソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を、実習現場を通して行う。実習時間は60時間以上(8日程度)を基本として実施する。ソーシャルワーク実習Ⅰでの学びや課題を踏まえ、次年度以降のソーシャルワーク実習Ⅱに臨んでいく。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 実習</p>				
授 業 の 計 画	<p>1 オリエンテーション(実習目的と今後の予定について)</p> <p>2 社会福祉機関・施設実習(60時間以上・8日間程度)において、主に以下のことを習得していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者やその関係者(家族・親族、友人等)、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成 ・利用者やその関係者(家族・親族、友人等)との援助関係の形成 ・当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ ・施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 60 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 事前学習の内容や、実習計画書を見て、翌日の実習の目標を立てる。</p>				
成 績 評 価 方 法	実習指導者の評価を参考に、実習担当教員が総合的に判断し評価します。詳細はソーシャルワーク実習指導Ⅰ内で提示します。				
教 科 書 (購 入 必 須)	「ソーシャルワーク実習Ⅰハンドブック」(本学科実習委員会作成)を中心に使用します。その他、必要に応じて資料を配布します。				
参 考 書 (購 入 任 意)	なし				

科 目 名	ソーシャルワーク実習Ⅱ		
科 目 名 (英 語)	Social Work PracticumⅡ	シラバスNo.	260030630
担 当 教 員 名	佐藤(み)・永嶋・小泉・榊原・堀・保田・江連・石塚・嘉村		
学 年 配 当	3年	単 位 数	4単位
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択
開 講 形 態	実習		
資 格 要 件	社福士：必修		
実務経験及びそれに関わる授業内容			
各学科の対応するディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：○ DP3：○ DP4：○ DP5：○		
学 修 到 達 目 標	<p>①ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。</p> <p>②支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。</p> <p>③生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。</p> <p>④総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。</p>		
受 講 の 留 意 点	<p>これまで学んだ専門的知識や技術等を実際に活用・実践し、ソーシャルワーク実践に必要な資質や能力を習得する。これまでの理論を体系化していくための実習体験や、実習担当教員や実習指導者とのスーパービジョンでは、積極的な参加が求められる。なお、実習期間中は実習先の実習指導者からの指導を主に受けるほか、ソーシャルワーク実習指導Ⅱと連動して、実習担当教員からの訪問指導または帰校日を概ね週1回受けることとなる。</p> <p>ちなみに、ソーシャルワーク実習Ⅱの履修要件は以下の通りとなる。</p> <p>①社会福祉原論Ⅰ・Ⅱ、地域福祉論Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。</p> <p>②ソーシャルワーク実習Ⅰの単位を修得していること。</p> <p>③ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅲまでの単位をすべて修得していること。</p> <p>※ただし、編入生は①～③の条件は適用されない。</p>		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの内容	<p>ソーシャルワーカーとしての高い実践能力を養うため、これまで学んできたソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を、実習現場（指定された社会福祉施設及び機関）を通してさらに深めていく。なお、実習時間は180時間以上（23日以上）を基本として実施する。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <p>これまで培ったソーシャルワークの知識、技術、倫理等を、社会福祉現場で実践的、総合的に活用することによって修得していくとともに、自らの到達度を分析することによって、今後の課題を明確にしていく。</p>		
授 業 の 計 画	<p>1 利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価（1）</p> <p>2 利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価（2）</p> <p>3 利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価（3）</p> <p>4 利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価（4）</p> <p>5 利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価（5）</p> <p>6 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解（1）</p> <p>7 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解（2）</p>	<p>16</p> <p>17</p> <p>18</p> <p>19</p> <p>20</p> <p>21</p> <p>22</p>	<p>地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解（1）</p> <p>地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解（2）</p> <p>地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解（3）</p> <p>地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解（4）</p> <p>地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解（5）</p> <p>社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解（1）</p> <p>社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解（2）</p>

	<p>8 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解（3）</p> <p>9 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解（4）</p> <p>10 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解（5）</p> <p>11 利用者やその関係者（家族・親族、友人等）への権利擁護活動とその評価（1）</p> <p>12 利用者やその関係者（家族・親族、友人等）への権利擁護活動とその評価（2）</p> <p>13 利用者やその関係者（家族・親族、友人等）への権利擁護活動とその評価（3）</p> <p>14 利用者やその関係者（家族・親族、友人等）への権利擁護活動とその評価（4）</p> <p>15 利用者やその関係者（家族・親族、友人等）への権利擁護活動とその評価（5）</p>	<p>23 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解（3）</p> <p>24 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解（4）</p> <p>25 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解（5）</p> <p>26 ソーシャルワーク実践に求められる技術の実践的理解（1）</p> <p>27 ソーシャルワーク実践に求められる技術の実践的理解（2）</p> <p>28 ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解（3）</p> <p>29 ソーシャルワーク実践に求められる技術の実践的理解（4）</p> <p>30 ソーシャルワーク実践に求められる技術の実践的理解（5）</p>
授業時間外学修（予習・復習）の内容	<p>総学修時間 180 時間（4 単位×45 時間） うち授業時間 180 時間、授業時間外学修時間 0 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <p>予習：事前学習の内容や、実習計画書を見て、翌日の実習の目標を立てる。</p> <p>復習：その日の実習を振り返り、考察をして、実習日誌を完成させる。</p>	
成績評価方法	実習指導者の評価を参考に評価（100%）。詳細はソーシャルワーク実習指導Ⅱ内で提示する。	
教科書（購入必須）	『ソーシャルワーク実習ハンドブック』（本学科実習委員会作成）を中心に使用する。その他、必要に応じて資料を配布する。	
参考書（購入任意）	なし	

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ			
科 目 名 (英 語)	Social Work Practicum Guidance Ⅲ(MHSW)	シラバスNo.	260030640	
担 当 教 員 名	浦田 泰成・直嶋 美恵子			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	精神科病院等で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：○			
学 修 到 達 目 標	① ソーシャルワーク実習の意義を理解し、説明できるようになる。 ② 精神疾患や精神障害のある人の現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について説明できるようになる。 ③ ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習における個別指導および集団指導を通じて、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに関する知識と技術を具体的かつ実践的に理解し、実践できるようになる。 ④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理を理解し、自己の課題を把握したうえで、専門職として適切な行動がとれるようになる。			
受 講 の 留 意 点				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	本授業では、個別指導および集団指導を通じて、ソーシャルワーク実習Ⅲに向けた事前学習を行う。板書や視聴覚教材（DVD）を活用しながら進め、一部ではグループ学習や体験学習を取り入れ、実践的理解を深める。			
	アクティブ・ラーニングの内容 リアクションペーパーや小レポートの記述を通じて意見を表現し、ディスカッションやグループワークによる他受講生との意見交換を行う。			
授 業 の 計 画	1 ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導における個別指導及び集団指導の意義① 実習の構造 2 ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導における個別指導及び集団指導の意義② 実習の流れと学習課題 3 精神保健医療福祉の現状① 日本の精神保健医療福祉施策の沿革 4 精神保健医療福祉の現状② 精神障害者の現状 5 実習施設の理解① 施設見学(医療機関) 機関の理解 6 実習施設の理解② 施設見学(医療機関) 援助方法の理解 7 実習施設の理解③ 施設見学(障害福祉サービス事業所) 事業所の理解 8 実習施設の理解④ 施設見学(障害福祉サービス事業所) 援助方法の理解 9 当事者による講話① 当事者の理解 10 当事者による講話② 家族の理解 11 精神保健福祉士としてのソーシャルワークに係る専門的知識 12 精神保健福祉士としてのソーシャルワークに係る技術 13 精神保健福祉士に求められる職業倫理に関する理解 14 精神保健福祉士に求められる法的責任に関する理解 15 まとめ			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予習は、教科書の指定部分を読み、理解が不十分な点を事前に確認しておくこと。復習は、授業で使用した資料を読み直し、ノートに整理すること。			

成 績 評 価 方 法	各回終了時のリアクションペーパー（30%）、課題・レポート（70%）
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新 精神保健福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習[精神専門]』中央法規出版.
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	別途周知する。

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ		
科 目 名 (英 語)	Social Work Practicum Guidance IV(MHSW)	シラバスNo.	260030650
担 当 教 員 名	浦田 泰成・直嶋 美恵子		
学 年 配 当	4年	単 位 数	4単位
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択
		開 講 形 態	演習
		資 格 要 件	精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	精神科病院等で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：○		
学 修 到 達 目 標	① ソーシャルワーク実習の意義を理解し、説明できるようになる。 ② 精神疾患や精神障害のある人の現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について説明できるようになる。 ③ ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習における個別指導および集団指導を通じて、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに関する知識と技術を具体的かつ実践的に理解し、実践できるようになる。 ④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理を理解し、自己の課題を把握したうえで、専門職として適切な行動がとれるようになる。 ⑤ 実習体験を専門的知識および技術として概念化し、理論化・体系化できるようになる。		
受 講 の 留 意 点			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	本授業では、個別指導および集団指導を通じて、ソーシャルワーク実習Ⅲの事前・事後学習を深める。実習前には、事前学習の実施、実習課題計画書の作成、事前訪問を行う。実習後には、実習報告会資料および報告書を作成し、それらを基にプレゼンテーションを行う。 アクティブ・ラーニングの内容 リアクションペーパーや小レポートの記述を通じて意見を表現し、ディスカッションやグループワークによる他受講生との意見交換を行う。		
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 事前学習の概要 3 実習計画書の意義 4 実習計画書の作成 5 実習におけるジレンマ事例 6 実習におけるスーパービジョン事例 7 職業倫理と法的責任(実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解等) 8 面接技術、アセスメント 9 個別支援計画 10 精神保健福祉士の業務と役割① 外部講師（医療機関） 11 精神保健福祉士の業務と役割② 外部講師（障害福祉サービス事業所等） 12 実習指導者との面談(実習打ち合わせ会における学生・実習指導者・教員の三者による実習計画作成・見直し) 13 事前学習報告会	16 オリエンテーション 17 実習の振り返り 18 ジレンマ体験 19 スーパービジョン体験 20 実習報告会準備 21 実習報告会資料作成と発表会① 医療機関 22 実習報告会資料作成と発表会② 障害福祉サービス事業所等 23 実習報告会① 医療機関 24 実習報告会② 障害福祉サービス事業所等 25 実習報告書の作成① 実習施設の概要 26 実習報告書の作成② 実習全体の流れと内容 27 ケース研究レポートの作成① 医療機関 28 ケース研究レポートの作成② 障害福祉サービス事業所等	

	14 確認学修、実習記録の内容・作成方法 15 まとめ、必要書類の作成	29 実習報告書・ケース研究レポート報告会① 医療機関 30 実習報告書・ケース研究レポート報告会② 障害福祉サービス事業所等、まとめ
授業時間外学修 (予習・復習)の内容	総学修時間 180 時間 (4 単位×45 時間) うち授業時間 60 時間、授業時間外学修時間 120 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習は、教科書の指定部分を読み、理解が不十分な点を事前に確認しておくこと。復習は、授業で使用した資料を読み直し、ノートに整理すること。	
成績評価方法	各回終了時のリアクションペーパー (30%)、実習報告書 (25%)、実習報告会におけるプレゼンテーション (25%)、その他の提出物 (20%)	
教科書 (購入必須)	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 (2021) 『最新 精神保健福祉士養成講座 8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習[精神専門]』中央法規出版。	
参考書 (購入任意)	別途周知する。	

科 目 名	ソーシャルワーク実習Ⅲ		
科 目 名 (英 語)	Social Work PracticumⅢ(MHSW)	シラバスNo.	260030660
担 当 教 員 名	浦田 泰成・直嶋 美恵子		
学 年 配 当	4年	単 位 数	5単位
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択
		資 格 要 件	精保士：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	精神科病院等で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：○ DP3：___ DP4：◎ DP5：○		
学 修 到 達 目 標	① ソーシャルワーク実習を通じて、精神保健福祉士として必要な専門的知識と技術を理解し、現場での試行と省察を重ねることで体得した技術を実践できるようになる。 ② 精神疾患や精神障害、メンタルヘルスの課題をもつ人々の現状に関する知識を基に、実習先で生活実態や生活上の課題を調査し、具体的に把握できるようになる。 ③ 実習指導者からのスーパービジョンを受け、精神保健福祉士として求められる資質・技能・倫理を理解し、自己の課題を把握したうえで専門職として適切な行動がとれるようになる。 ④ 総合的かつ包括的な地域生活支援と、関連分野の専門職との連携のあり方およびその具体的内容について説明できるようになる。		
受 講 の 留 意 点			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	本授業では、実習体験とその考察を記録し、実習指導者によるスーパービジョンや、ソーシャルワーク実習指導担当教員による巡回指導を受けながら、実習事項について個別指導および集団指導を行う。 アクティブ・ラーニングの内容 専門的知識と技術の理解を基盤に、精神保健福祉の現場で試行と省察を繰り返す臨地実習を行う。		
授 業 の 計 画	1 精神科医療機関や精神科診療所等における配属実習(105時間以上) ・受診前や入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助 ・退院又は地域移行・地域定着支援に向けた、患者及びその家族への相談援助 ・入院患者と外来患者及びそれらの家族への多職種連携による支援 ・病院外の関係機関・団体及び地域住民との連携を通じたソーシャルワーク ・受診前や診療所において治療中の患者及びその家族への相談援助 ・日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助 ・外来患者及びそれらの家族への多職種連携による支援 ・地域の精神科病院や関係機関・団体及び地域住民との連携を通じたソーシャルワーク	左記両実習に共通の事項 ・精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務の意味の考察と遵守 ・施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定の遵守と組織の一員としての役割と責任への自覚 ・施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の観察 ・当該実習先が地域社会で果たす役割の考察と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発場面の観察 ・実習先施設・機関や所属地域における精神保健福祉向上のための課題発見と政策提言に関する考察 ・実習体験及び学習成果の考察と記述、プレゼンテーション 実習総括と精神保健福祉士としての学習課題の明確化、及び研鑽計画の立案	

	<p>2 障害福祉サービス事業所等における配属実習(105時間以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体・住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ・利用者理解と相談支援ニーズの把握及び相談支援計画の作成 ・利用者やその関係者(家族・友人・近隣住民等)との相談支援関係の形成 ・利用者やその関係者(家族・友人・近隣住民等)への権利擁護及び相談支援(エンパワメントを含む)とその評価 ・精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする相談支援におけるチームアプローチへの参加 	
授業時間外学修(予習・復習)の内容	<p>総学修時間 225 時間 (5 単位×45 時間) うち授業時間 210 時間、授業時間外学修時間 15 時間</p> <p>実習期間中は、毎日実習日誌を作成し、その日の実習内容を整理・考察したうえで、実習指導者から指導を受ける。事前学習は「ソーシャルワーク実習指導Ⅲ」「ソーシャルワーク実習指導Ⅳ(4年前期)」で行い、事後指導は「ソーシャルワーク実習指導Ⅳ(4年後期)」で実施する。</p>	
成績評価方法	<p>実習指導者(40点)および巡回指導担当教員(40点)の評価、実習日誌、その他の課題等(20点)を総合的に評価する。</p>	
教科書(購入必須)	<p>別途周知する。</p>	
参考書(購入任意)	<p>別途周知する。</p>	

科 目 名	介護現場実習				
科 目 名 (英 語)	Care Work Training	シラバスNo.	260030670		
担 当 教 員 名	大坂 祐二				
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職 (高福) : 必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ___ DP3 : ___ DP4 : ___ DP5 : ___				
学 修 到 達 目 標	<p>介護サービス利用者に対して、授業で学んだ介護知識・技術を踏まえた介護支援の方法を体験的に習得する。</p> <p>(1)利用者に対して、その状況に適したコミュニケーションの方法を習得する。</p> <p>(2)利用者のアセスメントを通して、必要なサービス支援の意義と効果を適切に把握する方法を習得する。</p> <p>(3)利用者との人間的なかわりを体験し、利用者が求めている介護ニーズに関する理解力、判断力を養う。</p> <p>(4)指導者のスーパービジョンを受けながら、介護職務についての理解を深める。</p>				
受 講 の 留 意 点	現場実習に対する明確な目的意識をもって、自主的かつ積極的な姿勢で取り組むこと。 なお、実習先の受け入れ状況等によって開講時期を変更することがある。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>介護サービス利用者個々における援助の必要性を客観的かつ具体的に考察し、理論的根拠に基づく思考と実践を行う。</p> <p>事前学内授業 (オリエンテーション含む)、現場実習 5 日、事後学習 (レポート) を予定している。 実習施設は履修人数に応じて、市内のデイケアセンター、デイサービスセンター、介護老人福祉施設のいずれかを予定している。</p>				
	<p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <p>介護現場における実習と事前事後学習</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(実習に向けての事前学習について) 2 事前学習(1)介護技術の振り返りと実習課題の検討 3 事前学習(2)実習課題の作成と実習に向けての諸注意 <p>実習 : 計 5 日間の施設実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 4 事後学習(1)実習の振り返りと実習課題の考察 5 事後学習(2)実習成果報告書の作成 6 事後学習(3)実習成果報告 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 45 時間、授業時間外学修時間 0 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 実習課題および注意事項の確認を心がけること。</p>				
成 績 評 価 方 法	<p>実習日誌 : 20 点</p> <p>実習課題の考察 : 30 点</p> <p>実習成果報告書 : 30 点</p> <p>事前・事後学習の状況 : 20 点</p>				
教 科 書 (購 入 必 須)	<p>使用しない。</p> <p>授業中にレジユメ、資料等を適宜配布する。</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	福祉環境論			
科 目 名 (英 語)	Welfare environment theory	シラバスNo.	260030680	
担 当 教 員 名	小林 浩			
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ○ DP3 : ___ DP4 : ___ DP5 : ○			
学 修 到 達 目 標	<p>高齢者及び傷病者の適切な生活環境の設定や改善に向けて以下を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.療養環境を主体とする福祉住環境改善の場面における社会福祉士や保健師・看護師に期待される役割を理解する。 2.日常生活動作における基礎的な身体機能と動作の連環を理解する。 3.高齢者や傷病者の疾病特性を理解し、介護手法や福祉用具、住宅改修のポイントを理解する。 4.患者（利用者）様の目標課題を分析し、具体的な環境提案ができる。 5.介護保険制度などの活用法を理解する。 6.身近な福祉用具や自助具に触れ、対応の可能性を探る。 			
受 講 の 留 意 点	授業中、生活動作分析、平面図作成など課題がある。隣接者との適宜意見交換を行う。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	福祉住環境への理解は、傷病者や高齢者をはじめとする心身機能の低下している方への自立支援や介護予防、介護負担の軽減、事故防止などを図る上で必須の取り組みになる。この住環境対応に向けての支援プロセスにおいては、社会福祉士、保健師・看護師などの保健医療福祉スタッフには、対象者の生活の場に臨んで活動する職種であるがゆえの役割に対する期待がある。対象とする患者（利用者）様、ご家族様、また広く生活者に対し、身体機能の理解や生活動作に求められる動きなどを理解し、住環境に存在している問題・課題を把握し、具体的な対応策を様々な観点から考察し提案できることを目的とする。			
	<p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <p>生活動作の構成及び身体機能の分析、目標とする日常生活動作の分解とアプローチ、生活バリアへの対策検討等</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢期における福祉住環境改善の役割と改善プロセスにおける在宅ケア支援職への期待 2 身体機能の理解（1）動作分析における基礎的な解剖学・運動学 3 身体機能の理解（2）生活動作の分解 4 身体機能の理解（3）生活動作の分解と目標設定の方法 5 建築空間理解のための基礎事項（建築図面、平面記号、動線） 6 住宅平面図作成（演習）住宅及び近隣地域作図 7 住宅平面図作成（演習）住宅改修・福祉用具導入検討 8 バリアフリー化の共通基本手法(1)段差の解消、床材の選択、手すりの取付け 9 バリアフリー化の共通基本手法(2)建具への配慮、スペースへの配慮、家具・収納への配慮 10 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(1)外出、屋内移動（アプローチ・外構、玄関） 11 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(2)屋内移動（廊下、階段、出入口） 12 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(3)排泄（トイレ） 13 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(4)入浴（浴室） 14 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(5)洗面・整容、調理と食事、団らん、就寝（洗面・脱衣室、台所・食堂、居間、寝室） 15 建築空間にかかわる大型福祉用具（段差解消機、階段昇降機、リフト）と介護保険対象の改修工事、福祉用具 			

<p>授業時間外学修 (予習・復習)の内容</p>	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習 (60 分) 授業テーマ及び関連項目の事前学習を行う。 復習 (120 分) 授業内での課題テーマの検討及び授業の復習を行う。</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>各課題レポート (100 点) で評価する。</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>テキストは指定しない。授業時に資料プリントを配付する。</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	

科 目 名	ソーシャルインクルージョン論			
科 目 名 (英 語)	Social Inclusion	シラバスNo.	260030690	
担 当 教 員 名	堀 智久			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <u>○</u> DP2 : <u>○</u> DP3 : <u>◎</u> DP4 : <u>○</u> DP5 : <u>○</u>			
学 修 到 達 目 標	<p>ソーシャルインクルージョンとは、これまで何らかの理由で社会から排除されてきた人、たとえば、障害者や貧困層、高齢者、女性、移民など、社会的不利益を被るすべての人を社会が包摂するという意味である。たとえば、障害者領域では、2006年に障害者権利条約が成立し（日本も2014年に批准）、その第3条「一般原則」では「社会への完全かつ効果的な参加及びインクルージョン」が掲げられている。本講義では、とくに障害者領域を議論の出発点として、障害の社会モデルの考え方やインクルージョンの視点、さらには、障害者に限らず、能力という面において不利な立場に置かれている人が、つつがなく生きていける社会とはどのような社会か。近年問題になっている若者の失業問題や高齢者、女性、移民等の貧困問題等について検討を行い、多角的かつ複眼的な視点から社会的排除について議論を深めていくことをねらいとする。</p>			
受 講 の 留 意 点	配布資料の自己管理をしっかりと行うこと。必ず復習しましょう。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>授業の計画にあるように、前半では、障害の社会モデルや障害者権利条約に見られるインクルージョンの視点など、障害と社会の関係性について、多角的かつ複眼的な視点から学習する。後半では、障害者に限らず、若者、高齢者、女性、移民問題など、貧困や社会的排除について議論を行い、誰もがつつがなく生きていける社会はいかにして構想され得るのかについて、複眼的な視点から考察を深めていく。</p>			
	<p>アクティブ・ラーニングの内容 ソーシャルインクルージョン論では、教員による講義形式の学習形態のみならず、ディスカッションやグループワークなどの学習形態を通して、学習者の能動的な参加を求めている。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 社会的排除とは何か 3 障害をどう捉えるのか、社会モデルの考え方 4 障害者権利条約におけるインクルージョンの視点 5 障害者基本法・障害者差別解消法におけるインクルージョンの視点 6 インクルーシブ教育とは何か 7 インクルーシブ教育と日本の特別支援教育の違い 8 戦後日本の社会保障制度システム 9 貧困と社会的排除 10 若者、高齢者、女性、移民問題と社会的排除 11 ケア労働 12 複合差別 13 機会の平等と結果の平等 14 メリトクラシーとハイパーメリトクラシー 15 ベーシックインカム (basic income) 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間			
	<p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：授業内容の理解を高めるため、指定されたテキストの事前学習を行う 復習：授業内容の理解を高めるため、配布資料の事後学習を行う</p>			

成績評価方法	リアクションペーパー（40点）、レポート課題（30点）、期末試験（30点）
教科書 （購入必須）	テキストについては別途周知する。また、毎回、関連する資料を配布する
参考書 （購入任意）	

科 目 名	重複障害・発達障害教育総論			
科 目 名 (英 語)	Introduction of Education for Children with Multiple Disabilities and Developmental Disabilities	シラバスNo.	260030700	
担 当 教 員 名	真名瀬 陽平			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 教職(特支):必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ○ DP3 : ___ DP4 : ___ DP5 : ___			
学 修 到 達 目 標	発達障害ならびに重複障害について、概要を理解し、学校教育における取り組みを理解することを目標とする。具体的には、発達障害・重複障害における病理面、心理面や生理面の特徴とそれらの相互作用、二次的な障害について理解する。また、特性や状態をどのように把握し、配慮や支援・指導を行うのかを理解する。その後、特別の教育課程の概要や意義、家庭や医療、福祉及び労働機関との連携について理解する。			
受 講 の 留 意 点	本科目は、特別支援学校教諭免許状取得に関わる講義です。そのため、教員免許状の取得有無にかかわらず、学校現場をイメージしながら積極的に学んでください。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	発達障害、特に学校現場において理解・対応が求められる特性・困難さについて、定義や診断基準、病理や心理特性への理解を深めたうえで、どのような支援・指導が求められるのかを検討していきます。また、複数の障害を併せ持つ重複障害について、実践例を踏まえながら、教育、支援・指導について理解を深めていきます。			
	アクティブ・ラーニングの内容 毎回の講義において小テスト・小レポートを課し、教員からフィードバックをすることで能動的な学修への参加を促します。また、個人発表やグループ・ワークなどを積極的に行います。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 重複障害の定義・学習指導要領における規定 2 発達障害の概要 発達障害の定義、医学・法における規定 3 自閉スペクトラム症(1) DSM-5-TRによる診断基準、病理、心理特性 4 自閉スペクトラム症(2) 教育における困難さに応じた手立て(支援・指導) 5 注意欠如多動症(1) DSM-5-TRによる診断基準、病理、心理特性 6 注意欠如多動症(2) 教育における困難さに応じた手立て(支援・指導) 7 限局性学習症(1) DSM-5-TRによる診断基準、病理、心理特性 8 限局性学習症(2) 教育における困難さに応じた手立て(支援・指導) 9 コミュニケーション症 DSM-5-TRによる診断基準、病理、特性、支援・指導 10 情緒障害 定義や場面かんもくなどに関する特性、支援・指導 11 発達障害のある生徒の教育課程 通常学級・特別支援学級・通級指導など 12 発達障害のある生徒の教育における連携 家庭、医療、福祉や労働機関との連携 13 重複障害のある生徒の指導・実践例(1) 教科学習における事例検討 14 重複障害のある生徒の指導・実践例(2) 社会生活における事例検討 15 重複障害・発達障害のある生徒の教育 重要事項のまとめ 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 毎時間の授業において、次回の講義の内容について予告をします。その内容についてインターネットや書籍を利用して調べ、要点をまとめたり、疑問をもつことを予習とします。また、復習として、小テストや小レポートなどの課題を課しますので、必ず期日までに取り組んでください。			
成 績 評 価 方 法	毎回の授業において課される課題(50%)、定期試験(50%)で評価します。			

教科書 (購入必須)	テキストは使用せず、授業実施時に資料を配布します。
参考書 (購入任意)	特別支援教育の基礎・基本 2020 (国立特別支援教育総合研究所著、ジーアス教育新社)

科 目 名	重複障害・発達障害教育特論			
科 目 名 (英 語)	Advanced Education for Children with Multiple Disabilities and Developmental Disabilities	シラバスNo.	260030710	
担 当 教 員 名	真名瀬 陽平			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 教職(特支):必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ○ DP3 : ___ DP4 : ___ DP5 : ___			
学 修 到 達 目 標	発達障害や重複障害のある児童・生徒の教育に携わる際に必要な事柄を理解し、実際の指導を検討することを目標とする。具体的には、教育課程やカリキュラム・マネジメントについて理解する。その後、これらの障害のある児童・生徒を対象とした自立活動や個別の教育支援計画・個別の指導計画について、理解する。さらに、学習指導案の作成、特に個に応じた手立てや自立活動の観点や授業改善について理解する。			
受 講 の 留 意 点	本科目は、特別支援学校教諭免許状取得に関わる講義になります。教員免許状の取得有無は問いませんが、『重複障害・発達障害教育総論』を履修済みであることが望ましいです。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	『重複障害・発達障害教育総論』で学んだ発達障害や重複障害に関する知識を踏まえ、これらの障害のある児童・生徒への教育を行うために必要な教育課程やカリキュラム・マネジメント、自立活動や個別の教育支援計画と個別の指導計画、学習指導案の作成について理解する。その後、実際に計画や学習指導案の作成を行い、理解を深める。			
	アクティブ・ラーニングの内容 毎回の講義において小レポートなどの課題を課し、教員からフィードバックをすることで能動的な学修への参加を促します。また、個人発表やグループ・ワークなどを積極的にを行います。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 教育現場における発達障害・重複障害のある児童・生徒の現状 2 教育課程について 重複障害のある児童・生徒の教育課程の取り扱い・適用 3 自立活動について 自立活動の目標・区分、教育課程の編成、実際の指導例 4 個別の教育支援計画と個別の指導計画と学習指導案 それぞれの定義・関係性・書式 5 カリキュラム・マネジメントについて 学校教育目標から授業実践、改善の流れ 6 個別の教育支援計画と個別の指導計画(1) 重複障害のある児童・生徒のインフォーマルなアセスメント 7 個別の教育支援計画と個別の指導計画(2) 重複障害のある児童・生徒のフォーマルなアセスメント 8 個別の教育支援計画と個別の指導計画(3) アセスメントに基づく課題設定と指導計画 9 個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成 仮想事例における計画の作成 10 個別の教育支援計画と個別の指導計画の発表と議論 作成した計画の発表と議論 11 学習指導案作成時に必要な観点 アセスメント・個に応じた手立て・評価・自立活動 12 公表されている学習指導案の検討(1) 各教科等の指導における学習指導案の検討 13 公表されている学習指導案の検討(2) 自立活動に重きを置いた学習指導案の検討 14 ミニ学習指導案の作成 1時間分の学習指導案と教材例の作成 15 作成したミニ学習指導案の発表と議論 作成したミニ学習指導案と教材例の発表と議論 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 毎時間の授業において、次回の講義の内容に関する課題を課します。その課題に取り組むことで、予習とします。また、復習として、講義内容について振り返る小レポートを課します。必ず期日までに取り組んでください。			

成績評価方法	毎回の授業において課される課題（50%）と最終レポート課題（50%）で評価します。
教科書 （購入必須）	テキストは使用せず、授業実施時に資料を配布します。
参考書 （購入任意）	<p>特別支援学校高等部学習指導要領（平成 31 年 2 月告示 文部科学省）</p> <p>特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）（平成 31 年 2 月 文部科学省）</p> <p>特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（上）（高等部）（平成 31 年 2 月 文部科学省）</p> <p>特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（下）（高等部）</p>

科 目 名	子どもの権利			
科 目 名 (英 語)	The Rights of the Child	シラバスNo.	260030720	
担 当 教 員 名	栞山 茂樹			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ○ DP2 : ◎ DP3 : ○ DP4 : ____ DP5 : ____			
学 修 到 達 目 標	子ども法についての専門知識を身につける。 子どもの人権問題に対し、法制度を通じて取り組む視点を学ぶ。			
受 講 の 留 意 点	私の他の講義「法学(国際法を含む)」「人権と法」「日本国憲法」「教育法概論」のいずれとも関連がある。特に「教育法概論」とは関係が深いので、教職履修者は併せて受講することが望ましい。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>「子ども法」という法分野について学ぶ。この分野は近年、こども基本法が制定されるなど著しい発展をみせている。</p> <p>講義の前半では、子ども法の基礎となる「子どもの権利条約」の要点を解説する。後半では、現代日本の子どもの人権問題と、それらに対応する法制度についてとりあげる。子どもの人権問題に取り組むのに、個人の努力だけでは限界がある。法制度を通じて国家権力の支援を得ることが大きな成果につながる。一方でその法制度の不備・問題点についても知らなくてはならない。本講義ではそのような内容を扱う。</p>			
	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義ガイダンス 2 「子どもの人権」とは 3 子ども法の体系、日本国憲法と子どもの権利 4 子ども権利条約①：条約の成立背景、履行制度 5 子ども権利条約②：条約の基本4原則 6 子ども権利条約③：日本政府報告書審査 7 子ども権利条約④：日本法への影響 8 子ども権利条約⑤：子ども・若者の参加の権利 9 子どもの人権問題①：いじめ 10 子どもの人権問題②：体罰 11 子どもの人権問題③：虐待 12 子どもの人権問題④：障害のある子ども 13 子どもの人権問題⑤：子どもの貧困 14 子どもの人権問題⑥：少年司法 15 子どもの人権問題⑦：外国人の子ども 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間			
	<p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習(90分)：指定参考書を読む。 ・復習(90分)：講義で出てきた専門用語とその定義を覚える。条文や各種公的文書を読むのに慣れる。関心を持った事項について、指定参考書や参考文献、各種機関のホームページ等で調べてみる。 			
成 績 評 価 方 法	期末試験(100%)			

教科書 (購入必須)	なし。毎回パワーポイントとハンドアウトで講義をおこなう。各自しっかりノートをとること。
参考書 (購入任意)	・日本弁護士連合会子どもの権利委員会編著『子どもの権利ガイドブック【第3版】』(明石書店、2024) ・喜多明人ほか編『逐条解説 子どもの権利条約』(日本評論社、2009) そのほか参考文献を随時紹介する。

科 目 名	社会福祉教育論				
科 目 名 (英 語)	Social Welfare Education	シラバスNo.	260030730		
担 当 教 員 名	大坂 祐二				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職(高福):必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1: ___ DP2: ___ DP3: ___ DP4: ◎ DP5: ○				
学 修 到 達 目 標	児童・生徒や成人一般が、国民の権利としての社会福祉に対する関心と理解を深め、地域福祉における参加・参画と協働をすすめるための教育活動について、具体的・実践的な活動を組織するための視点と方法を説明できるようになる。				
受 講 の 留 意 点	教育実習にともなう欠席状況等によって、授業の順番を変更する、遠隔授業による補講を行う等の対応をすることがある。 高等学校(福祉)の教員免許を取得しようとするものは必修となるので注意すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	学校教育などにおいて教育活動として行われる福祉教育だけでなく、地域福祉活動に参加することを通して人々が互助・共助の意義を理解し、サービス利用者として、また地域福祉の担い手として主体形成してゆく過程も視野に入れて、福祉教育の内容と方法を学ぶ。				
	アクティブ・ラーニングの内容				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 福祉教育の概念 2 現代の福祉課題と福祉教育 3 学校教育における福祉教育の展開(1)「福祉のこころ」から人権教育へ 4 学校教育における福祉教育の展開(2)体験学習をどうすすめるか 5 学校教育における福祉教育の展開(3)ボランティア活動と福祉教育 6 学校教育における福祉教育の展開(4)高等学校における移行支援と教育福祉 7 生涯学習としての福祉教育(1)地域福祉活動における住民の学び 8 生涯学習としての福祉教育(2)地域で考える認知症 9 生涯学習としての福祉教育(3)高齢者にとっての学びと文化 10 生涯学習としての福祉教育(4)障害者の学習権保障と社会参加 11 生涯学習としての福祉教育(5)「助ける一助けられる」を学ぶ 12 生涯学習としての福祉教育(6)地域共生社会の実現と福祉教育 13 職業教育としての社会福祉教育(1)職業指導・職業教育と専門職養成 14 職業教育としての社会福祉教育(2)福祉系高校における進路指導 15 職業教育としての社会福祉教育(3)援助技術教育と人間理解・社会認識 				
授 業 時 間 外 学 修 (予習・復習)の内容	総学修時間 90 時間(2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 講義内容をふりかえり、考えたことをノートなどにまとめる。わからない言葉などは調べておく。				
成 績 評 価 方 法	課題提出ないし小テスト(30点)、期末レポート(70点)				

教科書 (購入必須)	指定のテキストは使用しない。毎時、レジユメと資料を配布する。
参考書 (購入任意)	村上尚三郎・阪野貢・原田正樹編著『福祉教育論』北大路書房、1998年 辻 浩『住民参加型福祉と生涯学習』ミネルヴァ書房、2004年 原田正樹『地域福祉の基盤づくり—推進主体の形成』中央法規、2014年

科 目 名	社会福祉特論			
科 目 名 (英 語)	Selected Topics in Social Welfare	シラバスNo.	260030740	
担 当 教 員 名	社会福祉学科教員			
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ____ DP2 : ○ DP3 : ◎ DP4 : ○ DP5 : ____			
学 修 到 達 目 標	4年間の社会福祉学科での学習を総復習し、改めて整理することによって国家試験のポイントをつかむ。 (1) 国家試験の出題範囲である社会福祉の理論・制度についてこれまでの座学・演習・実習経験等をふまえて学びなおす。 (2) 事例問題を通じて実社会での仕事・業務に必要な基礎的知識を学ぶ。			
受 講 の 留 意 点	各教員の作成資料にもとづいて授業を進める。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	オムニバス方式で展開する。 社会福祉国家試験や社会福祉の現場で必要となる知識や基礎理論について解説する。			
	アクティブ・ラーニングの内容 毎回確認テストを行う			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 社会福祉の原理と政策 3. 権利擁護を支える法制度 4. 社会保障 5. ソーシャルワークの基盤と専門職 6. ソーシャルワークの理論と方法 7. 社会福祉調査の基礎 8. 社会学と社会システム 9. 心理学と心理的支援 10. 地域福祉と包括的支援体制 11. 高齢者福祉 12. 障害者福祉 13. 児童・家庭福祉 14. 貧困に対する支援 15. 保健医療と福祉 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習 (90 分) 毎回の授業内容に関係する事項について、これまでの講義での該当箇所を整理し、わからない言葉などを調べておく。 復習 (90 分) 授業で取り扱った箇所の教科書や資料を読み、講義内容を整理する。また該当科目の国家試験過去問題を解く。			
成 績 評 価 方 法	(1)授業参加態度：10点 (2)確認テスト〈毎回実施予定〉：90点			
教 科 書 (購 入 必 須)	特になし。各回において適宜資料を配布する。			
参 考 書 (購 入 任 意)	社会福祉士国家試験過去問題集 (中央法規) いとう総研『見てすぐ覚える！社会福祉士 国試ナビ』(中央法規)			

科 目 名	生涯学習論			
科 目 名 (英 語)	Lifelong Learning	シラバスNo.	260030750	
担 当 教 員 名	大坂 祐二			
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 教職(高公・高福)：選択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：___ DP3：○ DP4：◎ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	日本の生涯学習・社会教育実践の蓄積に学び、人々の「学ぶ権利」の保障について、また、問題への気づきから解決に向かう過程とそれに対する支援について理解を深める。身近な生涯学習の機会に関心を持ち、その意義について考えることができる。			
受 講 の 留 意 点	教育実習にともなう欠席状況等によって、授業の順番を変更する、遠隔授業による補講を行う等の対応をすることがある。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	生涯学習や社会教育は、単なる生きがいづくりやキャリア・アップの手段ではない。生活の困難に立ち向かい、主体的力量を形成する(=エンパワーメント)学びであり、人々の学ぶ権利は「人間の生存にとって不可欠な手段」(ユネスコ「学習権宣言」)である。こうした視点から本講義では、保健・医療・福祉・保育との関連も念頭に、生涯学習・社会教育の本質と構造、実践について学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 第7、8回では自己教育活動について、第10、11回では学習の組織化について、グループワークをとおして理解を深める。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 生涯学習とは何か ー保健・医療・福祉・保育との関連にもふれて 2 成人にとっての「学び」 ー夜間中学を例に 3 生涯学習の国際的な動向と「学習権」の発展 4 家庭・学校・地域の連携と社会教育の役割 5 生涯学習・社会教育の法と行政 ー学びの自主性をめぐって 6 生涯学習・社会教育を支える施設と職員 7 自己教育活動と若者の社会参画 8 自己教育活動と子育て仲間づくり 9 北海道の地域づくりと生涯学習・社会教育 10 子どもの職業体験活動にみる学習の組織化 11 誰が学習要求を組織するのか 12 学習過程とその支援 ー健康学習を例に 13 学習の構造化 ー青年・若者をめぐる社会教育実践① 14 自分さがしと居場所づくり ー青年・若者をめぐる社会教育実践③ 15 若者自立支援と社会教育 ー青年・若者をめぐる社会教育実践③ 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 講義の内容を振り返り、要点や考えたことをノートなどにまとめる。指示された資料や文献を読む。			
成 績 評 価 方 法	課題提出または小テスト (30 点) および期末レポート (70 点)			
教 科 書 (購 入 必 須)	指定のテキストはない。毎時、レジユメおよび資料を配布する。			
参 考 書 (購 入 任 意)	小林文人・伊藤長和・李正連 編著『日本の社会教育・生涯学習』大学教育出版、2013 年 鈴木敏正『[増補改訂版]生涯学習の教育学』北樹出版、2014 年 社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック 第9版』エイデル研究所、2017 年			

科 目 名	障害児教育学			
科 目 名 (英 語)	Pedagogy for handicapped child	シラバスNo.	26030760	
担 当 教 員 名	西垣 昌欣			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 教職 (特支) : 必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校 (肢体不自由、知的障害、聴覚障害) での勤務経験がある者が授業を担当します。本 科目で学ぶ内容は、特別支援学校教諭免許状の取得を目指す学生が共通的に理解すべき基礎的な内 容 (特別支援教育の理念、歴史、思想、社会的事項、制度的事項、経営的事項) です。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ____ DP3 : ____ DP4 : ____ DP5 : ____			
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育制度の成立と障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育システムの理 念を踏まえた特別支援教育への展開を理解している。 ・特別支援教育制度における特別支援学校が有する機能・役割を理解している。 ・障害のある幼児児童生徒の教育に関する歴史、特殊教育の果たしてきた役割や障害者施策を巡る 動向の変化を踏まえつつ、特別支援教育制度の成立と展開を理解している。 ・現代社会における特別支援学校における教育課題を歴史や障害者施策の視点から理解している。 ・障害のある幼児児童生徒に関わる教育の思想を理解している。 ・特別支援学校や学習に関わる教育の思想を理解している。 ・特別支援学校を巡る近年の様々な状況の変化及び子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題を理 解している。 ・近年の特別支援教育政策の動向を理解している。 ・特別支援学校の目的及び教育目標と国が定めた教育課程の基準との相互関係を理解している。 ・特別支援学校教育要領・学習指導要領の性格及びそこに規定する自立活動や知的障害者である児 童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科、重複障害者等に関する教育課程の取扱いの基礎的 な考え方を理解している。 ・特別支援学校の目的や教育目標を実現するための学校経営の望むべき姿を理解している。 ・幼児児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた学級経営の基本的な考え方 を理解している。 ・教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働の在り方や重要性を理解している。 			
受 講 の 留 意 点	特別支援学校教諭免許状を取得するためには必須の科目です。教科書 (『特別支援教育要論』) は毎 回、持参してください。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	授業は、特別支援教育に関する基礎的な内容を取り扱うため内容の範囲が広がりますが、できる だけ視覚資料を提示したり、振り返りの機会を設けたりしながら進めるようにします。			
授 業 の 計 画	<p>アクティブ・ラーニングの内容 ペアやグループでの意見交換を交えて授業を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 授業の概要、障害と障害児教育 2 障害児教育の歴史と思想(1) 欧米における障害児教育の成立と展開 3 障害児教育の歴史と思想(2) 我が国における戦前の盲・聾教育の成立と展開 4 障害児教育の歴史と思想(3) 我が国における戦前の精神薄弱・肢体不自由・病弱教育の萌 芽と展開 5 障害児教育の歴史と思想(4) 我が国における戦後の盲・聾教育の展開 6 特殊教育制度の整備と養護学校教育の義務化 7 特殊教育から特別支援学校への制度転換 8 特別支援教育の教育課程 9 自立活動の歴史と理念 10 個別の指導計画の作成と授業の過程 11 特別支援学校の現状と課題 12 特別支援学級及び通級による指導の現状と課題 13 インクルーシブ教育の国際動向 14 我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築と展開 			

	15 まとめ
授業時間外学修 (予習・復習)の内容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：教科書の該当箇所に目を通し、事前に質問したいことをまとめておいてください。 復習：講義の内容や自分の気づきをノート等に整理するようにしてください。課題が提示されたときは、まずは課題に取り組んでください。</p>
成績評価方法	授業への出席とリアクションペーパーの記述内容 (50 点)、課題レポート (50 点) を総合して評価します。
教科書 (購入必須)	安藤隆男編著『特別支援教育をつなぐ Connect & Connect① 特別支援教育要論』(2024 年、北大路書房)
参考書 (購入任意)	* 授業内で適宜紹介します。

科 目 名	障害児教育方法論			
科 目 名 (英 語)	methodology for handicapped child	シラバスNo.	260030770	
担 当 教 員 名	坂内 仁			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 教職 (特支) : 必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	特別支援学校や教育委員会で勤務した経験を生かして、知的障害のある児童生徒への具体的な支援について、経験に基づいた具体的な内容を盛り込み、理解を深めることができる。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ___ DP3 : ___ DP4 : ___ DP5 : ___			
学 修 到 達 目 標	知的障害児や発達障害児の実態把握の具体的な方法についての理解を深め、適切な行動を獲得していくことや不適切な行動を減少させていく方法について理解することができる。指導の効果を評価・改善していくプロセス (Plan-Do-Check-Action) の意義について理解を深める。応用行動分析に基づいた行動の理解や課題分析のプロセスの基本を理解することができる。			
受 講 の 留 意 点	特別支援学校教諭免許状取得に関わる講義であるため、知的障害以外の障害と教育の概要について、他の障害領域の学びを関連付けながら理解を深めていくことが望ましい。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>知的障害や発達障害は、認知、コミュニケーション、社会性、行動の調整などの困難な状態が、継続しているものである。したがって、その教育や対応は、それぞれの発達の背景と機序を理解することから、具体的な指導法を導くところにあるといえる。</p> <p>障害の特性の評価を行うアセスメントから指導計画の作成、指導方法の検討と指導、評価を行っていく一連のプロセスについて理解する。主体的な活動を促す支援ツールの作成を通して、教材の果たす役割を理解する。</p>			
	<p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <p>リアクションペーパーの記入内容について、次の時間に補足の説明を行うことで、学生の講義への参画意識を醸成していく。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 知的障害の理解 2 発達障害の理解：限局性学習症、注意欠如・多動症 3 発達障害の理解：自閉スペクトラム症 4 行動観察とアセスメント 5 「個に応じた支援」と「合理的配慮」：UD と ICT の視点 6 応用行動分析に基づく行動の理解 7 応用行動分析に基づく行動と指導 8 聞く・話すの指導 9 読む・書くの指導 10 社会性の指導 11 社会的自立・就労の指導 12 保護者と連携した支援 13 個別の指導計画の作成・活用 14 主体的な活動を促す支援ツールの作成 15 主体的な活動を促す支援ツールの活用方法の発表 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <p>予習：配布資料を事前に確認しておくこと。</p> <p>復習：学んだことが日常生活とどのように関連しているかについて考える。</p>			

成績評価方法	出席の状況(20点)、リアクションペーパーへの記述内容(40点)、作成した支援ツール(40点)を総合的に判断して評価する。
教科書 (購入必須)	
参考書 (購入任意)	「イラストでわかるABA実践マニュアル」、合同出版

科 目 名	点字				
科 目 名 (英 語)		シラバスNo.	260030780		
担 当 教 員 名	北島 真樹子				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ___ DP3 : ___ DP4 : ___ DP5 : ___				
学 修 到 達 目 標	① 点字の歴史を学び、日本でどのように取り入れられたのかを学ぶ ② 点字を読んで、漢字仮名交じり文にすることができる ③ 点字で簡単な文を書くことができる				
受 講 の 留 意 点	点字は6つの点の組み合わせで文字や記号を覚えるので、授業の復習が重要となります。テキストの「初めての点訳」と配布する補助教材などを活用し学習を進めてください。点字を読む時に、読む場所に定規を添えると読みやすく便利です。また、点訳では語の区切りを品詞によって判断しますので国語辞典を使用する場合があります。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	点字の歴史、視覚障害者の状況について学ぶ。点字による語の書き表し方、分かち書き、記号類などの点字の基礎知識を学び、点字の文章を書く。(点字の凹面による読み書きが主ですが、凸面点字にもふれます)				
	アクティブ・ラーニングの内容				
授 業 の 計 画	1 講義の目標・進め方・宿題・テストなどについて 点字の歴史・日本点字表記法について 点字を書く道具、点字の組み立て、点字の読み方 2 視覚障害者の状況、街中の点字表示(点字サイン)などについて 語の書き表し方1 (基本的な 仮名遣い)、濁音や拗音などの使い方、連濁や連呼の使い方 3 点字表記解説 語の書き表し方2 (間違えやすい仮名遣い、促音符・特殊音の使い方) 4 点字表記解説 語の書き表し方3 (仮名遣いのポイント)、数字(1)おおよその数・少数など 5 点字表記解説 語の書き表し方4 数字(2)、アルファベット 6 点字表記解説 語の書き表し方5 分かち書き(1) (文節分かち書き) 7 点字表記解説 分かち書き(2) 間違えやすい分かち書き (文節分かち書きなど) 8 点字表記解説 分かち書き(3) 複合語(複合名詞・複合動詞など) 9 点字表記解説 分かち書き(4) 固有名詞(人名・地名など) 10 点字表記解説 分かち書き(5) 分かち書きのポイント・まとめ 記号類(1) 句点・疑問 符・読点など 11 点字表記解説 記号類(2) カギ類・カッコ類・棒線・点線 演習問題(1) 12 点字表記解説 書き方の実際(1) 本文・見出しの書き方 演習問題(2) 13 点字表記解説 書き方の実際(2) 案内文・手紙文の書き方 14 点字表記解説 点訳する時のポイントなど (全体の復習) 演習問題(3) 15 視覚障害者と点字をめぐる社会について				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習 : 30分 使用テキストの次回の授業予定部分を事前に読み、内容を確認しておくこと。 復習 : 30分 授業で示す課題 (文章等) を点字器を使い、点字での文章等を作成する。				
成 績 評 価 方 法	授業中の学習状況、課題提出、テストの評価により行います。 テストは、別途示し2回ほど行います。				

教科書 (購入必須)	
参考書 (購入任意)	

科 目 名	実践手話			
科 目 名 (英 語)		シラバスNo.	260030790	
担 当 教 員 名	福島 麻由美			
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 講義 演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	手話通訳士・北海道登録手話通訳・名寄市聴覚障害者協力員の活動から、聴覚障害者、手話通訳者の現状についても講義。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ___ DP3 : ___ DP4 : ___ DP5 : ___			
学 修 到 達 目 標	聴覚障害者に対する理解を深め、手話で簡単な日常会話ができるようになり、自分の意思を相手に伝えられるようになる。			
受 講 の 留 意 点	『入門手話』を履修済みであるか、地域やサークルの活動を通して、挨拶、簡単な自己紹介程度の手話ができること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	毎回、講義50%・手話実技50%の配分で進めていく。 疑問などあれば、講義中に質問か、コメントシートに記入する事。 次回の講義で必ず回答する。			
	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	1 聴覚障害者と手話 手話による自己紹介 2 日常会話に必要な手話の復習 1 指文字 3 日常会話に必要な手話の復習 2 数詞 4 日常会話に必要な手話の復習 3 地名 5 日常会話に必要な手話の復習 4 基本の文法 6 視覚言語である手話と音声言語との表現の違い 7 相手の手話を読み取るポイント 8 文章表現 1 言葉に手話をつける 9 文章表現 2 豊かな感情表現を目指して 10 文章表現 3 手話表現の空間利用 11 文章表現 4 伝わりやすい表現方法 12 文章表現 5 例文による表現練習 短い文章を使って 13 文章表現 6 例文による表現練習 日本手話を意識しての表現 14 文章表現 7 自分の意思を伝えるために 15 まとめ 手話による自己表現			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 その日覚えた手話を確認する。 前の講義で覚えた手話を確実にして次の講義にのぞむ。			
成 績 評 価 方 法	手話の習得 70% 毎回のコメントシート30%			
教 科 書 (購 入 必 須)	使用しない。 必要に応じてプリントを配布する。			
参 考 書 (購 入 任 意)				

科 目 名	経済学概論				
科 目 名 (英 語)	Introduction to Economics	シラバスNo.	260030800		
担 当 教 員 名	今野 聖士				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職 (高公) : 必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ○ DP3 : ___ DP4 : ___ DP5 : ___				
学 修 到 達 目 標	①経済学という学問の世界観・ものごとの捉え方を理解できる、②資本主義経済の段階的発展および各段階における特徴を理解できる、③社会人として最低限身につけておくべき経済学の知識 (金融リテラシーを含む) を習得する、以上の3つの能力を育成する。				
受 講 の 留 意 点					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>経済学は、「資本主義」という仕組みによって成立している人間社会の仕組みを理解しようとする学問である。モノの〈生産・流通・分配〉のしくみや、貨幣 (お金) ・金融システム、市場原理主義と格差社会等のテーマについて解説する。また、現代を生きる上で最低限必要となる金融リテラシーについて取り上げる。</p> <p>経済学の初心者でも理解できるよう、できるだけ例をあげて説明する。 スライドを使用した1回完結型の講義をおこなう。資料を毎回配布する。 講義方法は反転学習を意識して、学生からの質問とリアクションペーパーの共有 (教員からのコメント) と新しい内容の学習 (講義本編) をおよそ1:2の割合で実施する。具体的には講義冒頭に前回の質問事項への回答とリアクションペーパーの共有 (教員からのコメント) を行う。続いて講義本編をスライドを用いて実施する。</p> <p><留意事項> 講義の最後10分程度を使い、当日の講義に関して自身が考えたことを記述するリアクションペーパーの提出を求める (必須・評価対象)。次の講義の冒頭でいくつかの回答を紹介し、コメントする。 新聞・テレビ・インターネットなどで経済問題を日常的にチェックする習慣を身につけること。 特に図書館に配架されている「東洋経済」「日経ビジネス」等の経済雑誌は興味がある号で構わないので目を通しておくとより理解が深まる。 対面開講を基本とするが、一部オンデマンドによる開講や外部講師による講話を実施する事がある。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 リアクションペーパーによる双方向授業を行う。リアクションペーパーは提出するだけでなく、次回の講義冒頭にて一部内容を共有し、質問への回答や課題への捉え方を共有する。また、積極的に時事問題や学生の関心が高い内容について補足・展開を行う。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス—経済学とは何か— ・ガイダンス 講義展開の概要 経済・経済学とは? 分業の利益 ・社会的分業や市場 (モノの交換・売買の場) はなぜ存在するのか解説します 社会的分業 市場 (しじょう) など 需要と供給・価格メカニズム ・需要と供給、価格メカニズムについて解説します 需要と供給で価格が決まる仕組み 価格メカニズムが意味すること など 市場の効率性 ・市場 (しじょう) という仕組みが優れている理由について解説します 市場とは 市場の機能 市場の失敗 など 				

- 5 市場の限界
 - ・市場の限界について解説します
 - 情報の非対称性
 - モラルハザード
 - 逆選択
 - 所得分配の不公平
 - 貧困問題 など
- 6 労働市場の機能と限界
 - ・労働市場の機能と限界について解説します
 - 労働市場とは
 - 労働市場と格差
 - 労働市場を補完する政策 など
- 7 お金の経済学
 - ・貨幣（お金）と中央銀行の仕組みについて解説します
 - 貨幣とは
 - 貨幣の機能
 - 中央銀行 など
- 8 政府の役割
 - ・政府が果たしている役割について経済学の立場から解説します
 - 政府の経済的役割
 - 資源配分の調整
 - 景気安定化
 - 予算 など
- 9 外国為替市場の仕組み
 - ・外国為替市場の仕組みについて解説します
 - 外国為替市場とは
 - 外国為替市場の仕組み
 - 為替の変動と市場介入 など
- 10 株式市場の仕組み
 - ・日本の株式市場の仕組みについて解説します
 - 株式とは何か
 - 株式市場
 - 株式所有関係の変化 など
- 11 流通の機能と役割
 - ・流通の機能と役割について解説します
 - 流通とは何か
 - 流通の機能とは何か
 - 流通の担い手である商業者の役割
 - 今日の具体的な流通の展開動向 など
- 12 商業者の役割と発展の経緯①
 - ・商業者の役割と発展の経緯について解説します
 - 商業者の役割
- 13 商業者の役割と発展の経緯②
 - 商業内部での分業…卸売業と小売業
 - 発展する商業
 - 小売“業態”の発展…多様な小売業態 など
- 14 金融リテラシー①
 - ・学生生活と今後の人生にとって重要となる金融リテラシーについて学びます
 - 投資
 - 決済方法
 - ※一部外部講師に来て頂く可能性がある
- 15 金融リテラシー②
 - 信用
 - ローンの基礎
 - 確定拠出年金制度
 - 保険 など

<p>授業時間外学修 (予習・復習)の内容</p>	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習として新聞・テレビ・インターネットなどで経済問題を日常的にチェックすること。開講前に、公開された前回の受講者のリアクションペーパーの内容を読み、自身の回答と考え方・捉え方が異なる点・同じ点がないか確認し、理解を深めておくこと。不明な点は質問すること。 復習として配布プリントを元に講義内容を振り返り、理解を深めておくこと。不明な点は、講義終了後に公開する動画を見返し、確認すること。不明な点は質問すること。</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>毎回のリアクションペーパーで 30 点、期末課題 70 点の合計 100 点で評価する。</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	
<p>参考書 (購入任意)</p>	

科 目 名	現代経済論（国際経済を含む）			
科 目 名（英 語）	Modern Economic Theory (Including International Economics)	シラバスNo.	260030810	
担 当 教 員 名	今野 聖士			
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 教職（高公）：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：○ DP3：___ DP4：___ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	①現代日本の経済システムと経済問題を理解して説明できる ②社会で生じているさまざまな問題を、経済学の視点から論じることができる ③グローバル化しつつある世界経済のしくみを理解して説明できる 以上の3つの能力を育成する。			
受 講 の 留 意 点	経済学概論を履修していることが望ましい。経済学概論を履修していなくとも受講は可能だが、履修を前提とした説明があるため、事前に経済学概論の内容を自習することが望ましい。自習内容・方法は教員へ相談のこと。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>現代経済では、グローバル化する世界経済の下で、戦後 80 余年を迎えた日本経済が、「今どうなっているのか」また、「どのようにここまで歩んできたのか」、そして「どのような理論でそれを説明することができるのか」と言った視点を持ちながら、現代日本の経済と関連する国際経済について解説していく。</p> <p>経済学の初心者でも理解できるよう、できるだけ例をあげて説明する。</p> <p>スライドを使用した1回完結型の講義をおこなう。資料を毎回配布する。</p> <p>講義方法は反転学習を意識して、学生からの質問とリアクションペーパーの共有（教員からのコメント）と新しい内容の学習（講義本編）をおよそ1:2の割合で実施する。具体的には講義冒頭に前回の質問事項への回答とリアクションペーパーの共有（教員からのコメント）を行う。続いて講義本編をスライドを用いて実施する。</p> <p><留意事項></p> <p>講義の最後 10 分程度を使い、当日の講義に関して自身が考えたことを記述するリアクションペーパーの提出を求める（必須・評価対象）。次の講義の冒頭でいくつかの回答を紹介し、コメントする。</p> <p>新聞・テレビ・インターネットなどで経済問題を日常的にチェックする習慣を身につけること。</p> <p>特に図書館に配架されている「東洋経済」「日経ビジネス」等の経済雑誌は興味がある号で構わないので目を通しておくとより理解が深まる。</p> <p>対面開講を基本とするが、一部オンデマンドによる開講や外部講師による講話を実施する事がある。</p>			
	<p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <p>「財政の今」を学ぶ際、北海道財務局旭川財務事務所とコラボ講義を開講する。外部講師による財政の現状に対する説明の他、タブレットを用いた財政シミュレーションを行う。その際、6 名程度の小グループに分かれてグループワークを実施する（先方の都合により開講回を調整する可能性、開講形態の変更あるいは中止する可能性がある）。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス日本経済のいま—戦後 70 年の日本経済— ・ガイダンス 講義の年間計画 受講方法 参考図書の紹介 日本経済のいま—戦後 70 年の日本経済— ・デフレ経済と「失われた 30 年」 アベノミクスの登場 日本経済の今② 戦後日本の経済成長 日本の景気循環 			

- 4 経済の成長と循環
景気変動
均衡成長を選択すべきか
グローバル化と経済成長
- 5 望ましい物価とは
適正な資産価格を求めて
年金ポートフォリオの変化
物価上昇水準
- 6 財政とは（高齢化と財政負担・財政改革・年金改革）
分かち合いの経済
高齢化で重くなった政府の役割
財政赤字の現状
- 7 財政のいま（財政の仕組み・財政の理論）
財政改革の構図
年金改革の行方
税制改革
- 8 日本の貿易はどう変わったのか
変わる世界経済のダイナミズム
アジアの成長・挫折・回復
自由貿易と経済摩擦の相克
GATT から WTO へ
急増する地域貿易協定
- 9 変わる産業構造と雇用①
第 3 時産業が主役の時代
産業構造の変化
- 10 変わる産業構造と雇用②
構造変化する労働市場と雇用形態
- 11 地球環境とエネルギー問題①
有限な地球と環境問題
環境危機
膨張の時代の終わり
地球温暖化と京都議定書
- 12 地球環境とエネルギー問題②
京都議定書以降（2013 年以降）の温暖化対策
生物多様性を守る
循環型社会へ動き出す
- 13 地球環境とエネルギー問題③
エネルギー問題－経済と環境のジレンマ
電源と電力自由化
車を取り巻く環境規制－急速に進展する BEV 化
- 14 日本の選択－未来世代に豊かな成熟社会を①
課題先進国へ挑む
人口減少時代の日本
経済成長率と人口増減率の関係
- 15 日本の選択－未来世代に豊かな成熟社会を②
新しい産業の育成
分散型エネルギーシステムへ転換
ローカーボン・グロウズ

総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間

授業時間外学修
（予習・復習）の内容

【授業時間外学修時間の主な内容】
予習として新聞・テレビ・インターネットなどで経済問題を日常的にチェックすること。開講前に、公開された前回の受講者のリアクションペーパーの内容を読み、自身の回答と考え方・捉え方が異なる点・同じ点がないか確認し、理解を深めておくこと。不明な点は質問すること。
復習として配布プリントを元に講義内容を振り返り、理解を深めておくこと。不明な点は、講義終了後に公開する動画を見返し、確認すること。不明な点は質問すること。

成績評価方法	毎回のリアクションペーパーで 30 点、期末課題 70 点の合計 100 点で評価する。
教科書 (購入必須)	
参考書 (購入任意)	

科 目 名	国際関係論（国際政治を含む）			
科 目 名（英 語）	International Relations	シラバスNo.	260030820	
担 当 教 員 名	大場 崇代			
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 教職（高公）：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：___ DP3：◎ DP4：___ DP5：___			
学 修 到 達 目 標	本講義では、現代の国際社会がいかにして形成されてきたのかという点に焦点を絞り、国民国家の現状とナショナリズムの作用及び第二次世界大戦後のヨーロッパ政治について学ぶ。この学習を通じて、各受講生が国際関係について理解を深めるとともに、現代世界がどのように構築されてきたのか、残された課題は何なのかについて自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。			
受 講 の 留 意 点	履修にあたっては、高校世界史、政治・経済の内容を再確認しておくことが望ましい。また、日常的に世界政治の動向に関心を払い、新聞等を積極的に読んでおくことが必要である。講義内容をふまえてノートやプリントを整理することが求められる。 出席状況に十分留意すること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	20世紀、人類は二度の悲惨な世界大戦を体験し、その後の米ソ冷戦体制下では「核戦争の恐怖」の中での生活を余儀なくされた。そして21世紀に入っても、地球上には依然として戦火が絶えず、急進的なナショナリズムもいまだに大きな影響力を持っている。こうした認識の下、本講義では国際関係について主にヨーロッパを中心に検討する。まず、国民国家とナショナリズムについて考察し、その後、歴史と理論について概要を把握する。その上で、現代国際関係のあり方に重要な影響を与える紛争の現状についても取り上げる。			
	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	1 はじめに 2 「政治」、「国際関係」とは何か 3 「国家」、「ナショナリズム」とは何か 4 国際関係の歴史①古代から近代まで 5 国際関係の歴史②現代 6 国際関係の理論①現実主義 7 国際関係の理論②制度主義 8 EU 国家連合の現実 9 国際紛争①中東問題 10 国際紛争②地政学から見た紛争 基礎 11 国際紛争③地政学から見た紛争 ロシア・ウクライナ 12 国際関係の諸問題①地球の環境 13 国際関係の諸問題②食料の安全保障 14 国際関係の諸問題③格差が生む問題 15 終わりに 国際関係をどう見るか			
授 業 時 間 外 学 修 （予習・復習）の内容	総学修時間 90 時間（2単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習；講義用のプリントに目を通しておく。読めない漢字、意味の分からない言葉などは調べる。 復習；理解できなかった事柄を解消する。			

成績評価方法	定期試験及び小テストの結果に基づいて評価する。配点は、定期試験を 60 点、小テストを 40 点とする。
教科書 (購入必須)	使用しない。講義時に資料を配布する。
参考書 (購入任意)	山本左門『現代国家と民主政治 (改訂版)』(北樹出版、2010 年) 平島健司、飯田芳弘『改訂新版 ヨーロッパ政治史』(放送大学教育振興会、2010 年) その他は講義時に指示する。

科 目 名	総合演習			
科 目 名 (英 語)	Integrated Study	シラバスNo.	260030830	
担 当 教 員 名	社会福祉学科教員			
学 年 配 当	3年	単 位 数	4単位	開 講 形 態
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
対 応 す る ディプロマ・ポリシー	DP1 : ____ DP2 : ____ DP3 : ____ DP4 : ____ DP5 : ◎			
学 修 到 達 目 標	総合演習は、少人数のゼミナール（演習）をとおして、設定されたテーマに則した高い専門的知識を身につけることを目標とする。			
受 講 の 留 意 点	少人数でのクラスとなるため個々人が積極的に取り組むこと。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>担当教員ごとのグループにわかれテーマを設け、少人数教育により専門的知識が身につくように学んでいく。学科カリキュラムのなかでも重要な科目であり、それぞれの目的と課題意識をもって臨むことが大切である。また、総合演習において研究した成果を土台として、大学4年間における学習の総仕上げとなる「卒業研究」へと続くことも意識しておく必要がある。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 文献講読、調査学習やディスカッション、実践活動など、担当教員ごとに多様な方法で展開する。</p>			
授 業 の 計 画	<p>1 第1回の講義にてガイダンスをおこなう。</p> <p>2-30 各担当指導教員に分かれて実施</p>			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 180 時間 (4 単位×45 時間) うち授業時間 60 時間、授業時間外学修時間 120 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習 (90 分) 各担当教員の指示による。 復習 (90 分) 各担当教員の指示による。</p>			
成 績 評 価 方 法	授業参加態度(20 点)・課題(80 点)の総合評価とする。			
教 科 書 (購 入 必 須)	各担当教員が必要に応じて指示する。			
参 考 書 (購 入 任 意)				

科 目 名	卒業研究			
科 目 名 (英 語)	Senior Thesis	シラバスNo.	260030840	
担 当 教 員 名	社会福祉学科教員			
学 年 配 当	4年	単 位 数	4単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ____ DP2 : ____ DP3 : ____ DP4 : ____ DP5 : ◎			
学 修 到 達 目 標	1.卒業研究は、科学的な研究方法を用いながら研究課題を明らかにしていくことを目標とする。 2.4年間の学習、3年次の演習・実習を踏まえて設定した研究テーマに基づき、研究計画を立て、卒業研究を作成する。			
受 講 の 留 意 点	卒業研究にかかわるガイダンスは3年次より開催されているので、掲示等による指示に従うこと。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	授業の概要、留意点は、卒業研究担当教員により異なるので指示を仰ぐこと。 アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	<p>授業計画の例</p> <p><前期></p> <p>4月 卒業研究年間計画のオリエンテーション</p> <p>5月 卒業研究課題の決定</p> <p>6月 卒業研究の構想（アウトラインの作成）</p> <p>7月 参考文献の収集、文献の精読、資料の収集、社会調査票の作成</p> <p>8月 社会調査等の実施</p> <p><後期></p> <p>9月 調査結果の整理、資料の整理、卒業論文の下書き</p> <p>10月 卒業論文の本文作成</p> <p>11月 卒業論文提出</p> <p>12月 卒業研究発表会</p>			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 180 時間（4 単位×45 時間） うち授業時間 60 時間、授業時間外学修時間 120 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <p>予習（90 分）各担当教員の指示による。</p> <p>復習（90 分）各担当教員の指示による。</p>			
成 績 評 価 方 法	論文(90 点)および発表会の内容(10 点)による。			
教 科 書 (購 入 必 須)	卒業研究担当教員により異なるので指示を仰ぐこと。			
参 考 書 (購 入 任 意)				